LANSAアプリケーション配布ツール

- 当ガイドについて
- はじめに
- 最新情報
- 配布ツールの開始
- 配布ツールの構成
- 配布の計画
- アプリケーション
- バージョンとパッチ
- オプションと設定
- LANSA コミュニケーション機能の配布
- クライアント/サーバー・アプリケーションの配布
- LANSA for the Web アプリケーションの配布
- JIT アップグレートの手引き
- 配布テンプレート
- LANSA で開発したアプリケーションの翻訳
- 配布パッケージの確認
- 配布パッケージのテスト
- アプリケーションのインストール
- 既存の MSI アプリケーションのアップグレート
- 既存の V12 アプリケーションのアップグレート
- 操作手順
- 用語集

エディション日付: 2013年12月20日 © LANSA 当ガイドについて

LANSAアプリケーション配布ツールは、完成したアプリケーションを Visual LANSA開発システムからPCのランタイム環境に配布する際に使 用します。

当ガイドは、Visual LANSAアプリケーションの導入先PCへの配布に必要な多くのオプションや設定について説明します。

また、当ガイドの対象者は、Windows オペレーティング・システムの知 識があるVisual LANSAの使用経験者や開発者です。

このガイドで使用される用語に慣れておくことも必要です。詳細は、 「用語集」を参照してください。

当ガイドの説明は、配布ツールのメイン・ウィンドウで [ヘルプ] メ ニューから [目次] コマンドを選択する、もしくは、 このソフトウェア の使用時にF1を押してコンテキスト・ヘルプを起動して参照することが できます。

当ガイドを使用する前に、以下の項目を参照してください。

当ガイドの対象者

当ガイドの使用方法

追加情報

最新の製品情報およびアップグレード情報については、LANSA Webサイトの技術情報のページ(www.LANSA.com/support(英語))を参照してください。

該当バージョンの配布ツールに関連するドキュメントを必ず使用するよ うにしてください。

IBM i のアプリケーションを配布する場合は、『IBM i LANSAアプリケー ションの配布ガイド』を参照してください。

当ガイドの対象者

当ガイドは、Windows開発者またはシステム管理者でエンド・ユーザー のPCへのアプリケーション配布に責任がある方を対象として書かれてい ます。エンド・ユーザーについては組織の内部外部を問いません。 配布パッケージの作成を開始する前に、Visula LANSA、およびターゲッ トPC の性質や要件を理解しているという前提で説明されています。 アプリケーションが使用するオブジェクトをすべて選択して1つまたは 複数のパッケージに含める必要があるため、配布するLANSAアプリ ケーションに関する詳細な知識も必要とされます。

当ガイドの使用方法

当ガイドでは、LANSAアプリケーションの配布ツールの使用に関する 詳細が説明されています。ユーザーの利便性を考慮し、いくつかのセク ションに分かれています。

- パッケージの作成を開始する前に、「はじめに」を参照して全体概要と注意事項を確認してください。
- 「アプリケーション」では、配布用のバージョンとパッチを1つにまとめたアプリケーションについて説明されています。
- 「パッケージのオプションと設定」では、配布するパッケージの詳細を定義する際に指定できるすべてのオプションが説明されています。
- 「配布テンプレート」を使って、共通の配布シナリオをベースとす るバージョンの基本的な構造を提供することができます。
- 「LANSAで開発したアプリケーションの翻訳」では、LANSA アプリ ケーション・オブジェクトの翻訳方法、およびこれを最終のアプリ ケーションに取り込む方法が説明されています。
- 「バージョンとパッチ」ではパッケージの作成および配布時の作業 が説明されています。

以前のバージョンの配布ツールからアップグレードする場合 は、事前に「既存の V12 アプリケーションのアップグレード」 を確認してください。 追加情報

インストールや構成、またLANSAソフトウェアのトラブル対応に関す る詳細は以下のガイドを参照してください。

- 『Windows LANSAインストールガイド』
- 『LANSA コミュニケーション セットアップガイド』

この2つのガイドはLANSA Windows DVDのLANSAオンライン・ガイド で提供されています。

製品に関する最新の情報は、LANSA製品に関するWebサイト (www.LANSA.com/support (英語))を参照してください。

1. はじめに

LANSA配布ツールの概要については以下の項目を参照してください。

1.1 配布ツールとは?

1.4 配布ツールの使用者

「配布ツールの開始」

1.1 配布ツールとは?

配布ツールを使用すれば、Visual LANSAで開発した製品をパッケージ化して、内部または外部の顧客に配布することができます。

配布ツールを使用する場合、アプリケーションを作成して開始します。 アプリケーション内で、Visual LANSAで開発した製品を構成する関連オ ブジェクトを含んだバージョンを作成します。バージョンに含める LANSAオブジェクトを選択すると同時にバージョン配布先の環境に関 連するオプションや設定を指定します。LANSA以外のオブジェクトも バージョンに含めることができます。

選択作業が終わるとバージョンが生成され、MSIファイルを作成します。

Visual LANSAで開発した製品をこのようにエンド・ユーザーに配布する ことで、関連するすべてのオブジェクトをエンド・ユーザーのPCにイン ストールすることができます。ユーザーはMSIファイルを実行し(「用語 集」のMSI情報を参照)、プロンプトに従うだけです。またJITアップグ レードを使えば、ユーザーのソフトウェア製品が起動されるたびに必要 に応じてそのアプリケーションのバージョンを自動でアップグレードす ることもできます。

以下の機能を使ってソフトウェア製品を配布することができます。

- アプリケーション提供システムからの自動インストール
- 操作する人が選択すると開始されるWebベースのダウンロード
- MSIファイルのDVDなどのメディアへのコピー

システム・センター構成マネージャ・ソフトウェア

アプリケーションは、既存のバージョンに基いてバージョンもしくは パッチを作成することにより、保守することができます。新しいバー ジョンは、ソフトウェア製品の最初のインストール、もしくはソフト ウェア製品の既存のバージョンのアップグレードに使えます。 既存の バージョンのインストールには、そのバージョンに基づいたパッチを適 用する必要があります。 1.2 配布モデル

配布ツール・アプリケーションは、アプリケーション内に作成される最 初のバージョンとともにユーザーのソフトウェア製品の中核を定義し、 後続のアプリケーションのバージョンとパッチの構成要素になります。 ソフトウェア製品の定義はバージョンとパッチの詳細に含まれていま す。バージョンもしくはパッチが作成されると、最終的なMSIファイル (バージョン)もしくはMSPファイル(パッチ)が配布されます。



以下も参照してください。 1.2.1 アプリケーションとは? 1.2.2 バージョンとは? 1.2.3 パッチとは? 1.2.4 パッケージとは? 1.2.5 配布に必要なものは?

1.2.1 アプリケーションとは?

重要なアプリケーションのコンセプトとバインディングです。以前にリ リースされたLANSAでは、関係のないパッケージ、クライアント・イ ンストール・パッケージやサーバー・インストール・パッケージなど別 の目的で使われるパッケージのコレクションでアプリケーションを構成 することが可能でした。LANSA アプリケーションはソフトウェア製品 と同じ意味です。

- 現在では、アプリケーションの最初のバージョンで全てのオブジェクト と設定など製品全体が定義されており、このバージョンが後続のアプリ ケーションのバージョンとパッチのベースとして使われます。インス トール・オプションを使って、例えばデータベースと一緒にインストー ルするかクライアントの部分のみをインストールするかなど、どのパッ ケージをどのようにインストールするかを定義します。
- 配布ツールのインターフェースにおいて、 アプリケーション名 はアプ リケーションを特定します。アプリケーション名にはエンドユーザーに 表示されるアプリケーションの記述と会社名があり、ソフトウェア製品 をインストールおよびアンインストールする際に使われます。

しかし、Windowsインストーラーの観点から見れば、アプリケーション にはアプリケーション内の全てのバージョンとパッチを相互に関連付け る一意識別子が必要です。1つのバージョンもしくはパッチが作成され るたびに別の一意識別子が生成されます。これらはグローバル一意識別 子(GUIDs)で、アプリケーションのレベルで保存されます。MSIとMSP のインストールでは、これらの一意識別子を内部的に使用してインス トールを検証します。例えばソフトウェア製品の第2番目のバージョン がインストールされる時、アプリケーションの一意識別子を使い、旧 バージョンが既にインストールされているかを確認します。既にインス トールされている場合、製品の第2番目のバージョンをインストールす る前に旧バージョンを自動的にアンインストールします。 1.2.2 バージョンとは?

バージョンとはソフトウェア製品のフルインストールのことです。バージョンはアプリケーションに属します。

バージョンは、そのバージョン番号によって識別されます。バージョン のナンバリングは任意ですが、後続のバージョン番号は旧バージョンの 番号より大きくなければいけません。例えば、1.0.0の次が1.0.1、1.3.0、 1.3.3となります。番号をとばすことはできますが、シーケンスは増加し なければなりません。

推奨されるバージョンのナンバリング方法は以下の通りです。

<メジャー・リリース>.<マイナー・リリース>.<作成番

バージョンには以下の項目を含むことができます。

- LANSAオブジェクト
- LANSA以外のオブジェクト
- データベース設定情報
- スーパーサーバー設定情報
- コミュニケーションの詳細
- JIT配布情報

묵>

• [ショートカット]

ユーザーのソフトウェア製品の正しい実行に必要なものはすべてバー ジョンに含める必要があります。

開発環境に配布するという設定がバージョンに含まれる場合、MSIファ イルは生成されません。内部オブジェクトの定義は、内部ファイルから インポートしなければなりません。詳細については「LANSAのイン ポート」を参照してください。 1.2.3 パッチとは?

パッチを使用して、Windows インストーラーを使ってインストールされ たソフトウェア製品に一連の変更を配布します。ソフトウェア製品は新 しいバージョン(MSIファイル)のインストール、もしくはパッチ(MSP ファイル)の適用によりアップグレードできます。

- パッチは主に修正されコンパイルされたオブジェクト、ショートカット および実行可能ファイルの適用に使われます。パッチを使用したデータ ベースの変更管理は複雑で、データベースの破損につながりやすいた め、パッチを使ってデータベース変更を配布することは推奨されませ ん。
- パッチは、そのパッチ番号によって識別されます。パッチ番号はその ベースとなるバージョンもしくはパッチに直接関係があります。例えば パッチ1.0.0.1 はバージョン1.0.0の最初のパッチです。
- パッチは、親バージョンもしくはパッチをコピーして作成します。この ようにして、パッチは配布されるオブジェクトを含めて親の定義を継承 します。パッチが作成されると、親バージョンもしくはパッチの作成と 全く同じ方法で完全なMSIファイルが作成されます。最終的なMSIファ イルはバージョンのMSIファイルと比較され、差分のMSPファイルが作 成されます。MSPファイルのみインストール可能なことに注意してくだ さい。仮のMSIはMSPが構築されると削除されます。
- MSPファイルは自己完結型のパッケージで、ソフトウェア製品のアップ デートを含み、どのバージョンがこのパッチを受け取るかを記述しま す。MSPファイルは通常非常に小さいので、多くの場合、パッチを配布 して製品のサービスをするようお勧めします。
- パッチをアップデートされたオブジェクトの提供にのみ使用し、新しい オブジェクトがない場合、パッケージ定義内での変更は不要です。パッ ケージを保存し、作成してください。バージョンと現在のオブジェクト の状況との違いがパッケージに含められます。
- 通常、パッチは最後のパッチ定義から作成されるため、例えば新しいオ ブジェクトの追加のようなパッケージ定義への変更を含みます。
- パッチの適用順によってインストールの結果が変わることはありません。パッチ1がMYFORM.DLL バージョン1.0.0.1を、パッチ2が
- MYFORM.DLL バージョン1.0.0.2を含む場合、パッチ1とパッチ2のどち らが先にインストールされても、結果としてMYFORM.DLL バージョン 1.0.0.2がインストールされます。
- パッチがアンインストールされる時も同様です。パッチ1をアンインス

トールする際、パッチがインストールしたDLLのバージョンのみに影響 を与えます。バージョン1.0.0.2がインストールされているので、アンイ ンストールするパッチ1はMYFORM.DLLをバージョン1.0.0で置き換えま せん。バージョンは1.0.0.2のままです。その後パッチ2をアンインストー ルした時のみ、バージョンは1.0.0.0に復元されます。

これは整然としているように思われるかもしれませんが、累加的でない パッチが作成されると管理は複雑になります。各パッチは、過去に発生 した変更を全て含むか、もしくは必要であれば変更をバックアウトし、 インストールをそのパッチのレベルに進ませるのに必要な唯一のパッチ であると見なされなければなりません。したがって、ユーザーがどの パッチ・レベルのインストールを選択したかにかかわらず、最新のパッ チのみインストールすれば最新のバージョンが取得できます。中間の パッチは不要です。注:生成された1つのマシンから順次パッチを作成 し、オブジェクトを以前の状態に復元しないと、パッチは累加的になり ます。

以下も参照してください。

バージョニングの詳細については「1.2.2 バージョンとは?」を参照して ください。 1.2.4 パッケージとは?

パッケージという用語は今でもバージョンもしくはパッチの総称参照と して使われています。 1.2.5 配布に必要なものは?

バージョンもしくはパッチを作成すると生成されるMSIもしくはMSP ファイルを配布してください。

バージョンもしくはパッチが "開発環境に配布する"設定を含む場合、 作成処理によってMSIもしくはMSPファイルは生成されません。この場 合、定義を内部ファイル定義からインポートしなければなりません。 詳 細については「LANSAのインポート」を参照してください。 1.3 LANSAで開発され、以前に配布されたアプリケーションの アップグレード

開発環境をLANSA V13にアップグレードした後に修正が必要になった既存のアプリケーションがある場合は、以下を実行します。

新しい配布計画を立てます。詳細については、「1.2 配布モデル」 を参照してください。

最初のバージョンを作成し、Microsoft Windows インストーラーを 使って完全なアプリケーションをインストールします。

デスクトップから古いアプリケーションへの参照を削除します。 「[アップグレード オプション]」を参照してください。

LANSAで開発され、以前のバージョンの配布ツール(バージョン13以前 のツール)を使って配布されたアプリケーションをアップグレードする 方法は2つあります。



ステッ アップグレードの方法

プ

1. パッ ユーザーの新しいアプリケーションの開始点として使う基本 ケージ パッケージを特定します。1つのパッケージに必要な詳細が全 をバー てあるとは限らないため、配布される一連のメインのアプリ ジョン ケーション・オブジェクトを含むパッケージを選択すること に変換 をお勧めします。パッケージの設定は、変換後も必要に応じ しま て修正できます。「V13以前のパッケージを変換」を参照し す。
てください。

1a. オリ ユーザーのアプリケーションの配布に使われたオリジナルのジナル パッケージを検索します。この方法では、パッケージをコのパッ ピーするのではなく情報を使ってバージョン定義を構築します。
1b. 配布 配布ツール内にアプリケーションとバージョンを作成しま

- ツール す。適切なテンプレートを選択し、ユーザーがアプリケー
 内にア ションを構築するのをサポートします。
 プリケー
 ション
 を作成しま
 す。
 2. バー バージョンに必要な設定とオブジェクトが全て含まれている
 ジョン かを確認します。クライアント、サーバー、ウェブサー
 を確認 バー、データベースのいずれに関係するかにかかわらず、全
- して修 てのオブジェクトと設定が提供されていることを確認しま 正しま す。
- す。
- 3. バー クリーンな環境もしくは以前のパッケージがインストールさ ジョン れたテスト環境にバージョンを作成し(アップグレード・オプ を作成 ションをテストします)。
- してテ
- ストし
- ます。

1.4 配布ツールの使用者

LANSA配布ツールは多くの利用法があります。配布ツールの機能を理解すればこの利用法が明確になります。配布ツールは特に以下の使用者のニーズを満たすように作られています。

- 内外のエンド・ユーザーにソフトウェアを配布する組織
- Visual LANSAを使用する開発者

2. 最新情報

このバージョンの配布ツールの新機能に関する概要は以下のとおりです。

- 2.1 新しい配布モデル
- 2.2 ファイル・ライブラリの区画ライブラリへの自動設定
- 2.3 ファイル・ライブラリの設定
- 2.4 ファイル・データのロードとアンロードの制御
- 2.5 インストール中に決定されたネットワーク・クライアントのイン ストール
- 2.6 インストール・ファイルに必ず含まれていたランタイム
- 2.7 Visual LANSAツールに組み込まれた翻訳ツール
- 2.8 パッケージの保存時に不明なオブジェクトをドロップしなくなりました。
- 2.9 ホスト側ルート・テーブルとリスナーはアプリケーションレベル でのみ定義されます。
- 2.10 アプリケーションのバックアップまたは修復

2.1 新しい配布モデル

アプリケーションのインストールには、InstallShield SETUP.EXEではな く Windows インストーラーとWindows インストーラー XMLを使用し、 ユーザーのソフトウェア製品をインストールします。

ユーザーが以前のLANSAのリリースに配布ツールを使用していれば、 配布ツールのインターフェースはユーザーにとって見慣れたものです。 インターフェースは多少簡素化され、配布モデル内で関連がなくなった オプションもあります。詳細は「配布モデル」を参照してください。 2.2 ファイル・ライブラリの区画ライブラリへの自動設定

ファイル・ライブラリはソフトで、環境ライブラリに基いてインストー ル中に決定されます。省略値では、ファイルは区画データ・ライブラリ にインストールされます。

2.3 ファイル・ライブラリの設定

ファイル・ライブラリは、ファイルがパッケージに含まれた時に構成されるようになりました。パッケージのインストール中、ファイルはアッ プデートされ、適切なライブラリ、テーブル・コレクションおよびオー ナー情報プロパティと共にインストールされます。

₽ ファイル ライブラリ代替	X
代替ID	ว _ี สว" ว ีป
PARTDTALIB	*PARTDTALIB
PARTLIB PARTPGMLIB	*PARTLIB *PARTPGMLIB
	ライブラリの選択 閉じる(C)

2.4 ファイル・データのロードとアンロードの制御

ターゲットのアプリケーションに既に存在するファイルを含むパッケー ジをインストールする場合、データが既存のファイルからアンロードさ れる順序、パッケージで提供される新しいデータがターゲットのファイ ルにロードされる順序、および既存のデータがリロードされる順序は、 パッケージ定義であらかじめ設定できます。

14		B) (21				_ D X
X 📥	-		_			
ファイル名		データを除外	•		記述	ライブジョ置換
DEPTAB		データを含める	•		部門コード テーブル	PARTDTALI
VFXPF04		データを含む(新規ファイルのみ)			Virtual File - Record format	PARTDTALI
SKLTAB		データを含む(既存のファイルのみ)	•		既存データを読み飛ばす	PARTDTALI
E	_				重複するものを置換	
					重複するものを無視	
				_		

2.5 インストール中に決定されたネットワーク・クライアント のインストール

ネットワーク・クライアントはアプリケーション定義に関連付けられた オプションではなくなりました。全てのインストールでネットワーク・ クライアントMSIが導入され、必要であればこれを使用してネットワー ク・クライアントをインストールします。 2.6 インストール・ファイルに必ず含まれていたランタイム

[LANSA実行時環境の配布] と [EPCの配布]のオプションが 削除されました。Microsoftインストーラー・ファイルは常に現在のLANSA実行環境と最新のEPCを含んでいます。

[VC90ランタイムの配布]はInstallshieldのサポートに必要だったため、これも削除されました。

2.7 Visual LANSAツールに組み込まれた翻訳ツール

翻訳ツールはVisual LANSAツール・メニューに組み込まれました。関連 するオプションは2つあります。



- [翻訳]は、翻訳者が翻訳アプリケーションで作成された翻訳ファイル を見るのに使うインターフェースです。オブジェクトに関連する詳 細を翻訳、更新しアプリケーションの設計者に戻すことができま す。詳細については、「LANSAで開発したアプリケーションの翻 訳」を参照してください。
- [翻訳のインポート]を使用すれば、アプリケーションの設計者は翻訳 者から受け取った翻訳を現在の開発環境にインポートできます。

2.8 パッケージの保存時に不明なオブジェクトをドロップしな くなりました。

以前は、ローカル・リポジトリパッケージの中で不明なオブジェクトが パッケージに入っていると、そのオブジェクトはパッケージの保存時に パッケージからドロップされていました。

今回のリリースでは、パッケージが正常に作成される前に不明のオブ ジェクトを解決(チェックアウト、インポートもしくは作成)しなけれ ばなりません。オブジェクトが必要ない場合は、手作業でパッケージか ら削除しなければなりません。 2.9 ホスト側ルート・テーブルとリスナーはアプリケーション レベルでのみ定義されます。

以前は、ホスト側ルート・テーブルとリッスン・ファイルはアプリケー ションもしくはパッケージ・レベルで含むことができました。

この情報は全ての関連付けられたバージョンとパッチに関係するため、 今回のリリースでは、ホスト側ルート・テーブルとリッスン・ファイル はアプリケーション・レベルでのみ定義できます。

2.10 アプリケーションのバックアップまたは修復

アプリケーションは、最初のバージョンが正常に作成されると生成され る一連のGUID(グローバルー意識別子)で識別されるようになりました。 この一連のGUIDを使ってアプリケーションを識別し、アップグレード とパッチを容易にします。これらのGUIDがないと、ユーザーのソフト ウェア製品のアップグレードやパッチができなくなるため、GUIDを含 むアプリケーションの定義は、定期的にバックアップしてください。

ツール	(I)	∧ルフ°(<u>H</u>)	
68	! °77	リケーションを検索	
	77° !	リケーションのバックアップまたは修復	
	V13	3以前のパッケージを変換	
	V13	以前のテンプレートを変換	

3. 配布ツールの開始

配布ツールの簡単な解説

配布ツールにはメイン・ウィンドウが2つあります。この2つのウィンドウから、配布ツールで使用する全てのオプション、設定、コマンドなどが利用できます。

配布ツールを開始すると、3.1 配布ツールのメイン・ウィンドウが表示 されます。

作業するために[バージョン]、[パッチ]または[テンプレート]を選択すると、3.2 パッケージ保守ウィンドウが表示されます。

配布ツールの中から3.3 ヘルプコンテキストを使うことができます。

ー部の一般的なアクションについては、3.4 キーボード・ショートカットを使用できます。

配布ツールを開始

Visual LANSAの[ツール]リボンを選択して配布ツールを開始し、配布 ツール参を選択します。 3.1 配布ツールのメイン・ウィンドウ

配布ツールを開くと、メイン・ウィンドウが起動します。既存の配布 ツールのアプリケーションとその中にあるパッケージがツリー形式で表 示されます。



このウィンドウから、アプリケーションの作成、削除、整理、利用などの保守を行います。

3.1.1 [ファイル]メニュー	3.1.2 [表示]メ	3.1.3 [ツール]メ
3.1.4 メイン・ウィンドウのツー	ニュー	ニュー
ルバー	3.3 ヘルプ	

3.1.1 [ファイル]メニュー

ファイル(<u>E</u>)	表示(⊻)	ツール(工)
終了((<u>X)</u> A	lt+X

[ファイル]メニューを使用して、配布ツールを終了します。または、Alt + Xを使用するか、メイン・ウィンドウを閉じます。

3.1.2 [表示]メニュー

表示(⊻)		ÿ-ル(<u></u> Σ)	1JJ7	'(<u>Н</u>)
	省略値のクロスリファレンスオプション			オプション
⊠	テンプレート保守(工)			
	会社	管理		

[表示]項目のオプションは個別のアプリケーションごとの設定ではあり ません。

[省略値のク パッケージのクロスリファレンス設定として使用され ロスリファレ る省略値をオブジェクト・タイプ別に設定します。

ンスオプショ これらの設定はすべてのアプリケーションに適用され ン] ます。

> 詳細については、「4.2 省略値のクロスリファレンス 設定」を参照してください。

- [テンプレー テンプレートの定義を付与、編集または削除します。 ト保守] 配布テンプレートを作成するには、パッケージの定義 をテンプレートとして保存する方法もあります。
- [会社管理] 会社の詳細を作成または編集します。アプリケーション作成時に、会社の詳細にアクセスして保守することもできます。

3.1.3 [ツール]メニュー

ツール	(<u>Τ</u>) ^ルフ°(<u>H</u>)
6	アプリケーションを検索
	アプリケーションのバックアップまたは修復
	V13以前のパッケージを変換
	V13以前のテンプレートを変換

[ツール] メニューの項目は、個別のアプリケーションやパッケージの設 定ではありません。

[アプリ ひとつまたは全てのアプリケーションを検索し、どのパッ ケーショ ケージにオブジェクトが含まれているかを確認します。 ンを検 「アプリケーションを検索」を参照してください。 索]

[アプリ リリースされたアプリケーションは全てバックアップする ケーショ ことをお勧めします。バックアップすることにより、リ

シーショ ここをの勧めしより。ハックアックタるここにより、ウンのバッ リースされたアプリケーションの制御されたバージョンが

クアップ 提供され、アプリケーションが破損した際、復元すること または修 ができます。

復] 「アプリケーションのバックアップまたは修復」を参照してください。

IV13以 LANSA V13では、パッケージの構造が修正されました。あ

前のパッ らかじめ定義されたパッケージを再利用する場合は、最初

ケージを にパッケージを互換性のあるフォーマットに変換する必要

変換] があります。あらかじめ定義されたパッケージの変換を可能にするには、パッケージに.ldlファイル定義が入っていなければなりません。

「V13以前のパッケージを変換」を参照してください。

[V13以 LANSA V13では、テンプレートの構造が修正されました。

前のテン あらかじめ定義されたテンプレートを再利用する場合は、

プレート 最初にテンプレートを互換性のあるフォーマットに変換す を変換 る必要があります。

「V13以前のテンプレートを変換」を参照してください。

3.1.4 メイン・ウィンドウのツールバー

🖪 🖻 🗱 💎 🔛 🖉 🗧 🗐

メイン・ウィンドウのツールバーにあるオプションは、パッケージや場 合によってはアプリケーションでも使用できます。

- ┣ [新規アプ アプリケーションを作成します。
 - リケー このパッケージ・オプションは、ツリー・ビューでエン
 - ション] トリーが選択されている場合にのみ使用できます。 「アプリケーションの作成」を参照してください。
- 「アプリ アプリケーション、バージョンまたはパッチを開きま ケーショ す。「パッケージを開く」を参照してください。 ンまたは このオープン・オプションは、ツリー・ビューでパッ パッケー ケージが選択されている場合にのみ使用できます。 ジの編集]
- ✗ [選択され アプリケーションまたはパッケージを削除します。「ア たアプリ プリケーションの削除」または「パッケージの削除」 ケーショ を参照してください。 ンまたは パッケー ジの削除]
- 「選択され あらかじめ設定されたパッケージのチェックを実行したパッ て、パッケージの設定とオプションに必要なすべての内ケージの 容が指定されていることを検証します。 チェック」
- [選択され パッケージの定義が完了したら、この生成オプションを たパッ 使用してパッケージを生成します。 ケージの 作成]
- ☞ [選択され 選択したパッケージの最後の生成ログを確認します。 たパッ ケージの 最後に作
 - 成された

ログの表

示]

✓ [選択の パッケージが正常に生成されると、配布できるようにな パッケー ります。パッケージにフラグが付いている時は、パッ ジが配布 ケージが完成して配布の準備ができていることを示して されたこ います。 とを意味

します1

- 『インス パッケージの定義に含まれているオブジェクトを表示し トールに ます。パッケージに含めるために直接選択したオブジェ 含まれる クトを表示します。また、別のタブでは、クロスリファ 全てのオ レンス・オブジェクトを含むオブジェクトの一覧が表示 ブジェク されます。オブジェクトのリストはファイルに保存でき トを表示]ます。
- 「フォルダ フォルダに移動します。 に進む]
- [コミュニ アプリケーションのホスト側ルート・テーブルを含めた ケーショ り、変更したりします。 ン管理機 ■ 知道にコニューケーション(第四機会)はオプション(本)開わ

能]

最初に[コミュニケーション管理機能]オプションを選択 した場合、現在のLANSAシステムのホスト側ルート (lroute.dat)とリスナー(listen.dat)ファイルのコピーがアプ リケーションの定義に追加されます。このバージョンの ホスト側ルートとリスナーファイルは、必要に応じて変 更できます。

3.2 パッケージ保守ウィンドウ

パッケージを選択(アプリケーション・ツリーの上でダブルクリック)すると、パッケージ保守ウィンドウが開きます。



このウィンドウでは、バージョンまたはパッチの定義に使用するすべて のオプションと設定を利用できます。また、オプションや設定の保存、 パッケージの生成などを行い、(パッケージの設定を別のパッケージの 雛形として使用する場合)オプションでパッケージをテンプレートとし て保存することができます。

配布テンプレートをパッケージの雛形として使用する場合、ごく少数の オプションの変更だけでよい場合があります。灰色で表示されているオ プションは、パッケージの基となっている配布テンプレートによりすで に設定済みであることを示しています。

オプションと設定については、ウィンドウ内部のスクロール可能なオプ ション・グループ(これらのサブセットを「導入オプション」と呼びま す)、またはツールバーのボタンから選ぶことができます。サブセット またはツールバーのボタンの1つを選択すると、関連するダイアログ・ ウィンドウが表示され、オプションや設定を選ぶことができます。各オ プションと設定については当ガイドの中で説明されています。
3.2.1 パッケージの[ファイル]メ 3.2.2 パッケージの[編集]メ ニュー

3.2.3 **パッケージの**[検証]メニュー 3.2.4 <mark>パッケージ</mark>保守ツールバー

ニュー

3.2.1 パッケージの[ファイル]メニュー



[ファイル]メニューでは、現在のパッケージを保存または終了(あるいは その両方)してメイン・ウィンドウに戻ります。

□[保存] 定義を保存します。(Ctrl + S)

- [保存して終 パッケージの定義を保存して、パッケージ保守ウィン 了] ドウを終了します。(Ctrl + E)
- [テンプレー 現在のパッケージを配布テンプレートとして保存しま ト保存] す。
- [終了] パッケージ保守ウィンドウを終了します。(Alt + X)

3.2.2 パッケージの[編集]メニュー

編	<u>≢(E)</u>	検証(<u>R</u>)	∧ルフ°(<u>H</u>)			
	ለ° ዓታ	-ジ記述の	変更			
	ለ°	-ジに関連	付けるテンプレート			
D	リホ°シ	リポジトリオブジェクト(<u>O</u>)				
6	ለ° ୬ケ	-ジ設定(P)			
2.	۶プIJ	アプリケーションアイコン(<u>I</u>)				
	X_R	UN引数(X)				
	実行	するコマンド(<u>(C)</u>			
٢	言語	言語(<u>L</u>)				
0	Webデザイン					
2	特別処理のファイル					

パッケージ保守ウィンドウのパッケージの[編集]メニューでは、現在の パッケージを構成して定義するための追加オプションを利用できます。 ほとんどのパッケージの[編集]メニューのオプションは、パッケージ保 守のツールバーからも使用できます。

[パッケー パッケージ記述を変更して特定しやすくします。 ジ記述の

変更]

[パッケー このオプションは、現在のパッケージに関連付けられた ジに関連 テンプレートがある場合のみ表示されます。

付けるテ 現在のパッケージに関連付けられたテンプレートを検証 ンプレー し、必要に応じて削除します。

」 「関連付けられたテンプレート」を参照してください。

□[リポジト パッケージに含めるLANSAオブジェクトと非LANSAオ リオブ ブジェクトを選択します。

ジェクト]

- ☞[パッケー [パッケージ設定]により、パッケージ生成処理の一部と ジ設定] して実行される追加の処理が決定されます。選択された 各オプションに応じて、生成時に特定の機能がパッケー ジに対して追加または除外されます。
- 「アプリ パッケージのインストール時にショートカットがター」
 - ケーショ ゲット・コンピュータに作成される場合、アプリケー
 - ンアイコ ションを特定するアイコンを選択します。

ン]

- [X_RUN 引数] パッケージを生成する場合、定義されたX_RUNパラ メータが起動ファイルに組み込まれます。 最も使用頻度の高いパラメータは、パッケージ保守ウィ ンドウの他のオプションでも代用されますが、追加の X_RUN情報は、実行時にアプリケーションの動作を変 更する場合に提供できます。
- ▶[実行する パッケージをターゲット・コンピュータにイントールす コマンド] る前または後に実行する必要のあるオペレーティング・ システム・レベルのコマンドを入力します。
- [言語] パッケージ言語ダイアログから、パッケージを導入する ときに使用する導入言語を選択することができます。
- ●[Webデザ パッケージにWAMを含めるときに入れる言語と技術 イン] サービスを表示します。
- [特別な処 パッケージに特別なファイルを含みます。これらのファ 理のファ イルがインストールされると、ファイルのタイプと命令 イル] に応じて特別な処理が実行されることがあります。

3.2.3 パッケージの[検証]メニュー



通常、パッケージの定義が完了している場合、パッケージのオプショ ン・メニューのエントリーのみを使用します([パッケージ記述の変 更]、[パッケージに関連付けるテンプレート]、[コミュニケーション管 理機能]を除く)。

- ■[生成] パッケージを保存すると、現在の定義に基づいてパッケー ジを生成できます。
- ▶ [ログの 現在のパッケージが最後に生成されたときに関連付けられ 表示] たログ・ファイルを確認します。

3.2.4 パッケージ保守ツールバー

パッケージ保守ツールバー にあるオプションは、全て3.2.2 パッケージの[編集]メニュー と3.2.3 パッケージの[検証]メニューにもあります。

🔁 💊 🚳 🖬 🖉 📮 💭 😭 🗑

パッケージ保守ウィンドウには、メニューのアクションへのアクセスを 簡単にするツールバーがあります。ツールバーのアイコンで非アクティ ブになっている(灰色で表示されている)ものは、現在のパッケージに関 連付けられた配布テンプレートで「非表示」に定義されている場合があ ります。パッケージのオプションや設定は大量にあります。「配布テン プレートのオプションと設定」を参照してテンプレートの制御について 学んでください。

- ツールバーの各ツールは以下のとおりです。
 - ■[パッケー パッケージの選択を[保存]します。詳細については、 ジの保存] 「パッケージの保存」を参照してください。
 - 「選択され あらかじめ決められた操作としてパッケージを検証し たパッケー ます。(この作業は、生成を試して失敗に終わるよりも ジをチェッ 早く済みます)。 ク)

- ■[生成] パッケージを保存すると、現在の定義に基づいてパッ ケージを生成できます。
- ▶ [生成ログ 現在のパッケージの最後の生成に関連付けられたロの表示] グ・ファイルを確認します。
- [リポジト パッケージに含めるコンポーネント、ファンクショ リオブ ン、プロセスなどのオブジェクトを選択します。詳細 ジェクト選 については、「リポジトリ・オブジェクトの選択」を 択] 参照してください。
- ☞[設定] パッケージに含めるコンポーネントを選択します。 例:[Visual LANSA サポートの配布]など。詳細について は、「設定」を参照してください。
- [アプリ [アプリケーション・アイコン]を使えば、アプリケー ケーション ションのデスクトップ・ショートカットに使用するア アイコン] イコンを指定できます。詳細については、「アプリ

ケーションアイコン」を参照してください。

- [X_RUN 引 X_RUNパラメータはX_RUNコマンドの追加の引数で数]
 す。詳細については、「X_RUN引数」を参照してください。
- ▶[インポー [コマンド]を選択して、パッケージ導入の前後に実行す トの前後に るOSレベルのコマンドを指定します。詳細について 実行するコ は、「実行するコマンド」を参照してください。 マンド]
- [言語] 複数言語を使用する場合に、[言語]を選択します。詳細 については、「言語」を参照してください。
- [Webデザ パッケージにWAMを含めるときに入れる言語と技術 イン] サービスを表示します。
- [特別処理 パッケージに特別なファイルを含みます。これらののファイ ファイルがインストールされると、ファイルのタイプル]
 と命令に応じて特別な処理が実行されることがあります。

3.3 ヘルプ

ファンクション・キーF1を使用して、配布ツールのどこからでもコンテ キスト対応ヘルプを開くことができます。F1を押すと、LANSAアプリ ケーション配布ツール・ガイドの関連トピックに直接移動します。

[ヘルプ]の[目次]メニューからLANSAアプリケーション配布ツール・ガ イド全体を開いて参照することもできます。

11,7	°(<u>H</u>)	
	目次	

3.4 キーボード・ショートカット

以下のショートカット・キーをパッケージ保守ウィンドウで利用できま す。

- アクション 使用するキー
- 保存 Ctrl + S
- 保存して終了 Ctrl + E

終了 Alt + X (メイン・ウィンドウでも使用可能)

4. 配布ツールの構成

配布ツールは、LANSAシステムをインストールするとすぐに利用できます。

インストール後、以下のオプションの構成ステップを実行すると、配布 ツール・エクスペリエンスを強化できます。

- 4.1 会社の詳細の設定 (必須です)。
- 4.2 省略値のクロスリファレンス設定 (オプションです)。

4.1 会社の詳細の設定

アプリケーションの作成には会社の情報が必要です。[表示]メニューの [会社管理]にアクセスすると、いつでも会社の詳細の設定、修正ができ ます。



会社の詳細は、アプリケーションを作成するときに、[会社]のプロンプト・ボタンを使って設定、修正することもできます。

新規アプリケーション	
アプリケーション	
記述	
会社	
	作成(C) キャンセル(N)

導入時に、会社情報を使って共通のWindowsプログラム・フォルダー内 でアプリケーションをグループ化します。アプリケーションを作成する 際、必要に応じて複数の会社を作成し、選択することができます。アプ リケーションを作成する際、必要に応じて複数の会社を作成し、選択す ることができます。

Organize Include in library Share with New folder Image: Common Files AutoIt3 Name Date modified Type AutoIt3 Common Files Image:	🗸 🗸 🗸 🗸 🗸	s\LAI	NSA Pty Ltd 🔹 😽 Search	LANSA Pty Ltd	
 Program Files Autolt3 Common Files DVD Maker InstallShield Installat LANSA LANSA DEMONSTR LANSA RSS Reader Ame Date modified Type Date modified Date	Organize 👻 Include in lib	rary 🖣	✓ Share with ▼ New folder		
 Autoit3 Common Files DVD Maker InstallShield Installat InstallShield Installat LANSA ActiveX LANSA DEMONSTR LANSA Pty Ltd LANSA RSS Reader X Marking Marking	Program Files	^	Name	Date modified	Туре
 Common Files DVD Maker InstallShield Installat InstallShield Installat Internet Explorer LANSA LANSA ActiveX 13/02/2012 11:17 File folde Translation Tool 07/03/2012 16:16 File folde Translation Tool 07/03/2012 16:16 File folde Translation Tool 	AutoIt3		\mu App using 3rd Party ActiveX	02/02/2012 12:53	File folder
 DVD Maker InstallShield Installat InstallShield Installat Internet Explorer LANSA LANSA DEMONSTR LANSA Pty Ltd LANSA RSS Reader Y 	Common Files		퉬 client server app	19/03/2012 11:17	File folder
Installshield Installar Installshield Installar Internet Explorer LANSA LANSA DEMONSTR LANSA Pty Ltd LANSA RSS Reader Tanslation Tool	UVD Maker		📙 LANSA ActiveX	13/02/2012 14:52	File folder
Internet Explorer LANSA LANSA DEMONSTR LANSA Pty Ltd LANSA RSS Reader	InstallShield Installa		퉬 LANSA Personnel System	14/02/2012 09:54	File folder
LANSA DEMONSTR LANSA Pty Ltd LANSA RSS Reader	Internet Explorer LANSA		Translation Tool	07/03/2012 16:16	File folder
🔒 LANSA Pty Ltd 🔢 👘 🐇 👘 👘	🌗 lansa demonstr				
🚹 LANSA RSS Reader 🔽 🔨 🏢	🌗 LANSA Pty Ltd				
	📔 LANSA RSS Reader	τ ₹	III		

会社名を使ってアプリケーションの発行者を表示することもできます。

Control Panel Home	Uninstall or change a program	Ithen elick Uninstall Change or	
Turn Windows features on or off	To uninstall a program, select it from the list and then click Uninstall, Change, or Repair.		
Install a program from the	Organize 🔻 Uninstall Change Repair	≡ -	
network	Name	Publisher	
	ANSA (Selective removal)	LANSA	
	App using 3rd Party ActiveX	LANSA Pty Ltd	
	🔄 LANSA Personnel System	LANSA Pty Ltd	
	Translation Tool	LANSA Pty Ltd	
	🔄 LANSA ActiveX	LANSA Pty Ltd	
	🔄 client server app	LANSA Pty Ltd	
	B Microsoft .NET Framework 4 Client Profile	Microsoft Corporation	
	📑 Microsoft SQL Server 2008	Microsoft Corporation	
	🔀 Microsoft Outlook 2010	Microsoft Corporation	
		- 10 00 V	

以下も参照してください。 4.1.1 会社の保守 4.1.2 会社の作成

4.1.1 会社の保守

会社を確認、変更または削除するには、会社保守ダイアログを開き、作 業をする会社と適切なアクションをツールバーで選択します。会社のリ ストで会社をダブルクリックするだけでも会社を開くことができます。 会社は、以下のダイアログからも作成できます。

会社選択	
ファイル(<u>E)</u> ^ルフ°(<u>H</u>)	
🖻 🤌 🗶	
会社	
ABC	
LANSA Pty Ltd	

4.1.2 会社の作成

×
LANSA Pty Ltd
Signtool.exe sign/f "c:\Downloads\LANSA.Wix.Key.pfx"\p password
www.lansa.com/aout
www.lansa.com/help
www.lansa.com/update
<u>OK(O)</u> キャンセル

- [会 必須。
- 社] 会社名の入力は必須です。アプリケーションが多言語で配布される場合、会社名をテキストとして入力するか、または、言語に依存する会社名にバリエーションのある複数言語対応変数を 指定することができます。
- [署名 任意。
- ツー この値に入力されたコマンドを使って、バージョンまたはパッ
- ルコ チが作成されるときに生成されるMSIとMSPファイルに自動的
- マン にデジタル署名します。署名ツール・コマンド・ラインを使う
- ドラ と、例えばデジタル証明書の位置のような、署名ツールに引き
- イン] 渡されるパラメータを指定できます。署名ツール・コマンド・ ラインには書式が必要です。 signtool [コマンド] [オプション] [ファイル 名] ...]
- [URL 任意。
- 詳 入力すると、エンドユーザーのコンピュータにアプリケーショ
- 細] ンをイントールしたときに、Windowsパッケージ・保守ウィン ドウにURLが表示されます。
- [URL 任意。
- ヘル 入力すると、エンドユーザーのコンピュータにアプリケーショ
- プ] ンをイントールしたときに、Windowsパッケージ・保守ウィン ドウにURLが表示されます。
- [URL 任意。
- (更新)入力すると、エンドユーザーのコンピュータにアプリケーションをイントールしたときに、Windowsパッケージ・保守ウィン

ドウにURLが表示されます。

4.2 省略値のクロスリファレンス設定

通常、作成した各配布パッケージには、LANSAオブジェクトまたは LANSA以外のオブジェクト(あるいはその両方)が選択されます。クロス リファレンスを使用すれば、バージョンまたはパッチに含めるオブジェ クト(例:ファンクション、コンポーネントなど)を選択することができ ます。その上、関連するすべての(あるいは選択したタイプの)実行オブ ジェクトや定義オブジェクトがパッケージ生成時にパッケージに自動的 に含められます。

クロスリファレンスの省略値の設定を使用して、各パッケージに使用さ れるクロスリファレンスの初期動作とオプションを定義します。ここで 定義されるデフォルトのオプションはバージョンまたはパッチを編集す るときに上書きできますが、省略値を正しく設定することで、パッケー ジ定義プロセスでの複数の繰り返しステップを省略できます。

[省略値のクロスリファレンスオプション]は、配布ツールで定義される すべてのアプリケーションに適用されます。

クロスリファレンスの省略値の動作は[省略値のクロスリファレンスオ プション]ダイアログで定義します。このダイアログは配布ツールのメ イン・ウィンドウの[表示]メニューで開きます。

📔 LANSA 配有	行ゾール	
ファイル(E) 表	示(⊻) ツール(工) ヘルプ(且)	
B 5	省略値のクロスリファレンスオプション	
 ▶ ○ AB(■ ▶ ○ BIF ▶ ○ IMPOR 	テンプレート保守(工) 会社管理 TS - Copy of IMPORTS for use in Partition Init	

[省略値のクロスリファレンスオプション]の左側に含まれる各オブジェ クト・タイプには、それぞれの省略値設定があります。各オブジェク ト・タイプを選択して、デフォルト設定を確認します。

省略値のクロスリファレンスオプション	and being and the best for the last of the
ኛ WAM 	 追加の自動クロスリファレンス ● なし
■ システム変数 27 ビジネス オブジェクト 17 ファイル	 追加のクロスリファレンスオフ[*]ションのフ[*]ロンフ[*]ト 省略値のオフ[*]ションを適用
 - 7₁−ルト* - 7₁−ム 	省略値のクロスリファレンスオフ [*] ション
☞ ブロセス & ファンクション <br 拿 再利用可能パーツ	□ 7ィールト* □ 7ァイル
	 ファイルデータ プロセス ファンクション
	 □ システム変数 □ 言語変数
	関連オブジェクトの選択
	<u>OK(O)</u> ー キャンセル

ダイアログの[追加の自動クロスリファレンス]のセクションで選択した オプションによって、省略値のクロスリファレンス・オプションが各 パッケージ内でどのように表示および適用されるかが決まります。次の ようなものです。

[なし] パッケージの[リポジトリオブジェクトの選択]ダイアログ内 でクロスリファレンス・アイコンをとオプションを手動で選択 した場合、クロスリファレンスはパッケージに含まれるオブ ジェクトにのみ割り当てられます。

[追加 [リポジトリオブジェクトの選択]ダイアログでパッケージに のクロ オブジェクトを追加し、[OK]を押してオブジェクトの選択を スリ 確定すると、パッケージに含めたオブジェクト・タイプごと ファレ のクロスリファレンス・オプションが表示されます。この初 ンスオ 期設定は[省略値のクロスリファレンスオプション]に基づいて プショ 省略値に設定されますが、各パッケージの要件に合わせて修 ンのプ 正できます。 ロンプ ト] [省略値[省略値のクロスリファレンスオプション」ダイアログの[省略のオプ値のクロスリファレンスオプション]セクションで設定したよションうに、オブジェクト・タイプの省略値が、パッケージに含まを適用]れるすべてのオブジェクトに自動で適用されます。パッケージの[リポジトリオブジェクトの選択]ダイアログでクロスリファレンス・アイコン™を選択し、必要に応じて設定を変更することで、省略値をパッケージ内で上書きすることもできます。

ダイアログの[省略値のクロスリファレンス・オプション]セクションの 設定は、バージョンまたはパッチに適用されるオブジェクト・タイプの 省略値設定を表示します。これらの設定は特定のバージョンまたはパッ チを編集するときに上書きできます。

詳細については、「クロスリファレンス設定」を参照してください。

5. 配布の計画

配布ツール・アプリケーションを作成する前に、作成したVisual LANSA アプリケーションの最適な配布構成がどのようなものかを検討します。

☆配布は「すべての内容を取得して移動するだけ」ではなく、 それよりも複雑なものであることを理解してください。配布を 成功させるには、理解と計画、徹底的なテストの実行が必要で す。

以下の質問を検討してから開始します。

- どこにアプリケーションをインストールしますか?
 - クライアントですか?サーバーですか?スタンドアロンですか?
 - Windowsですか?Linuxですか?
- どのようにして アプリケーションのインストールと以降のアップグレードの適用を行いますか?
 - MSIまたはMSPファイルですか?
 - ユーザーごとにですか?コンピュータごとにですか?
 - JITアップグレードを使用しますか?
 - SCCM による統合ですか?
 - 開発環境に実行しますか?
- アプリケーションのさまざまなパーツを異なるコンピュータに配布 する必要がありますか?
- アプリケーションをどのようにデータベースに接続しますか?
- 自分のアプリケーションの雛形に適したテンプレートがありますか?
 上記の質問すべてに回答できれば、アプリケーションを配布する準備ができています。

上記の質問に回答できなかった場合、配布の内容をさらに明確に把握してから進めてください。

最小のサポートされた構成を確立する

自分のソリューションに実際に必要な最小の構成を正式に定義してくだ さい。

- 最小のハードウェア要件
- 最小のソフトウェア要件

- 最小のネットワーク能力
- 最大データ量

最小のサポートされた構成では次のことができます。

- ソリューションにかかる全体的なコストについて十分に情報を得た 上で決定ができます。
- ソリューションの配布または後から加えられたパッチやホット フィックスをテストする際に必要な環境を確立します。
- 経営陣に"最小のサポートされた構成以下"のソリューションを導入した場合のリスクを認識してもらいます。

コンピュータごととユーザーごとの導入の影響

- Windows インストーラーは、インストールするユーザーのアクセス権限にしたがって、コンピュータのすべてのユーザー(コンピュータごとのコンテキスト)または特定のユーザー(ユーザーごとのコンテキスト)のソフトウェア製品をインストールしアップグレードできます。最初のバージョンをコンピュータごとにインストールした場合、以降のバージョンとパッチはコンピュータごとにインストールしなければなりません。
- JITアップグレードを使ってソフトウェア製品を配布しようとする場合、アプリケーションを実行しているユーザーは、アップデートをインストールする権限を持っていなければなりません。ユーザーがコンピュータごとにインストールする権限を持っておらず、ソフトウェアがコンピュータごとにインストールされている場合、アップデートを試みても失敗します。

5.1 配布ツールの環境

配布ツール・アプリケーションの作成には以下の構成が推奨されます。



推奨される配布ツール環境

開発用 Visual LANSAスレーブ・システムを、進行中のアプリケー PC ション開発用PCにインストールします。

> 開発者が1人だけの場合は、スタンドアロン・システムを使用 できます。

マス すべての開発作業をマスター・リポジトリに保存してくださ ター・ い。 リポジ

- トリ
- 開発シ 別のマスター・リポジトリのある、別の開発システムを使用 ステム して、進行中の開発が誤ってパッケージに含まれないように することをお勧めします。
- アプリ アプリケーション・サーバーは単純なファイル・サーバーな ケー ので、強力なプロセッサは必要ありません。
- ショ パッケージを配布してテストを実施すれば、導入先PCにイン
 ン・ ストールする準備ができます。パッケージの再生成や変更が
 サー 誤って行われないように、別のアプリケーション・サーバー
 バー を使用することをお勧めします。

アプリケーション・サーバーをJIT処理に使用する場合、導入 先PCからのアップグレードの要求を待ってから、導入先PCに パッケージを必要に応じてインストールします。

JIT処理を使用しない場合、導入先PCへのパッケージのインストールを手動で開始する必要があります。

「5.1.1 ワークステーションをサーバーとして使用する」も参照してください。

導入先 パッケージをインストールしてアプリケーションを実行する PC PCです。

パッケージやインストール・プロセスのテストに使用するPC などです。

MS SQL データベース・ライセンス

- 開発 Visual LANSA開発ライセンスを持っているVisual LANSA開発者 用PC には、MS SQLデータベース・サーバー・ソフトウェアの使用が と配 許可されます。このことは、Visual LANSAのインストール先が 布シ ネットワーク・システム、スタンドアロン・システムに関係な ステ く適用されます。
- 導入 MS SQLソフトウェアを使用してアプリケーションを配布する場 先PC 合は個別のライセンスが必要です。

5.1.1 ワークステーションをサーバーとして使用する

Windowsサーバーが稼働しているPCでは、リスナーは自動でインストールされます。

Windowsワークステーションが稼働しているPCをサーバーとして使用する場合、リスナーは手作業でコマンドを実行してインストールする必要があります。コマンドは:lcolist -I.です。詳細については、『LANSA for the Web 管理ガイド』の「データ/アプリケーション・サーバー上でリスナーを設定する」を参照してください。

PCをサーバーとして使用する前にリスナーの状態を確認する必要があります。

5.2 アプリケーションのライフサイクル

アプリケーションの配布はアプリケーションがターゲット・システムに 正しくインストールされたら終了するのではありません。ここからが始 まりです。

ユーザーのアプリケーションは、小さなまたは大きなアップデートを受け取り、LANSAの新バージョンがインストールされ、または既存のア プリケーションと一緒にアプリケーションの新バージョンのインストー ルが必要になることがあります。これらやその他のバージョンは、アプ リケーションの有効期間を通じてユーザーのソフトウェアをどのように 管理し発展させるかを決定します。

次のシナリオでは、ユーザーのソフトウェア開発の管理方法の1つを説 明しています。



このシナリオでは、異なるバージョンでのアプリケーションの開発をサ ポートするために3つの開発環境が必要です。

アプリケーションの開発は、BL2区画のバージョン 13 LANSAシステム V13PGMLIB上のバージョン 1.0.0で開始します。バージョン 1.0.0がリ リースされ配布された後、パッチ1.0.0.1 と 1.0.0.2が、アプリケーション の小さな変更として異なる日付でリリースされます。これらのパッチは 既存のソフトウェア製品に適用されます。ユーザーは、両方のパッチを インストールしなければならない場合もありますが、各パッチがお互い に独立してインストールできる場合もあります。

より重要なアプリケーションの機能強化が計画され完了すると、強化されたアプリケーションはバージョン 1.0.1としてリリースされます。この変更に続くバージョン 1.0.1のマイナーチェンジは、1.0.1.1から始まるパッチとしてリリースされます。

この時点で、アプリケーションに一連の大きな機能強化が計画されま す。これは、バージョン 2.0.0としてリリースされます。すべてのアプリ ケーションのユーザーがすぐにバージョン 2.0.0にアップグレードする必 要がある/都合がよい/金銭的余裕があるわけではないと予想されるた め、このバージョンはスタンドアロンアプリケーションとしてリリース され、バージョン 1.0.1へのサポートと修正の提供は継続されます。

そのために、すべてのアプリケーションのオブジェクトが、同じ LANSAシステムのBLD区画からBLD2区画にエクスポートされます。 製品のバージョン 1.0.1の開発とリリースは引き続きBLD区画内で継続さ れますが、BLD2区画内のアプリケーションの分岐はバージョン 1.0.1に 影響を与えずに修正できます。

この、異なる区画で共有されるLANSAシステムの意味は次のとおりで す。

- 2つの区画がアプリケーション定義を共有します。バージョンとパッチを生成する際、正しい区画にログインすると同時に注意が必要です。
- どちらのアプリケーションのバージョンも同じLANSAのバージョン がもとになっています。これにはEPCが含まれます。

そのために問題が起こります。バージョン 1.0.1とバージョン 2.0.0のサ ポートを継続したいが、新しいLANSAがリリースされ、そのソフト ウェアの機能を利用してユーザーのアプリケーションを強化したい場合 はどうすればよいでしょうか。

この場合、第2LANSAシステム ABCPGMLIBをリリース・レベル V13SP1でインストールしてください。すべてのアプリケーションのオ ブジェクトを、ユーザーのアプリケーションの最新のバージョン(この 場合はBL2区画)からエクスポートし、LANSAシステム ABCPGMLIBの 新しいABC区画にインポートします。新しいLANSAシステムのセット アップを終了するには、X_APPSのアプリケーション定義と、オプショ ンとして関連付けられたバージョンとパッチ定義(履歴の参照のみ)も 新しい位置にコピーしてください。「アプリケーションのバックアップ または修復」を使って共通の位置にコピーできます。バージョン 2.0.0を バージョン 3.0.0にアップグレードしたい場合、最初のアプリケーション のGUIDが必要なため、アプリケーションのコピーは重要です。 5.3 バージョンまたはパッチのアップグレード

アプリケーションをアップグレードするときは、バージョン (MSIファイル)としてアップグレードするか、またはパッチ(MSPファイル)として アップグレードするかを検討してください。これを決定する前に、それ ぞれのファイルがどのようにWindowsインストーラーで処理されるか理 解することが重要です。

基本的に、Windowsインストーラーはバージョン・アップグレードを パッチではなくフルインストールとして処理します。アプリケーション の旧バージョンがターゲット・システム上にある場合、Windowsインス トーラーは新しいバージョンをインストールする前に旧バージョンをア ンインストールします。アプリケーションの旧バージョンがターゲッ ト・システム上で見つからない場合、Windowsインストーラーはこれが アプリケーションの最初のインストールであるかのように、インストー ルを開始します。

一方、パッチのアップグレードの場合、Windowsインストーラーはまず アプリケーションのバージョンがパッチを受け取ることができるかを判 断します。 アプリケーションのアップグレードが可能な場合、パッチ に含まれる変更は既存のアプリケーションの上に適用されます。バー ジョンのインストールに対するパッチのインストールの主な利点は、 パッチにはユーザーのアプリケーションの変更のみが含まれるため、通 常、バージョンよりずっと小さいことです。

通常、パッチはアンインストールできないように設計されています。 データベースの変更の管理は複雑なため、通常、データベースの変更は バージョンのアップグレードにより配布されます。データベースの変更 は、アンインストールする時が特に複雑です。まず、データベースの クローザーが一人だけデータベースの変更をアンインストールしてください。データベースの変更は自動では取り消されません。具体的に要求し てください。次に、Windowsプログラムにより標準のアンインストール 処理が提供されます。ユーザー・インターフェースは機能では提供され ないため、データベースの変更の取消を要求することはできません。機 能の代わりにコマンド・ラインを使ってください。

または、データベースの変更を含んだパッチを取り消すには、別のパッ チを作成し、データベースのオブジェクトを元の状態に戻す必要があり ます。

バージョンのアップグレードの使用を考える理由は以下のとおりです。

- アプリケーション名の変更
- ユーザーがアプリケーションの旧バージョンと最新バージョンを同じシステム上で並列インストールできるようにする必要性
- 最終バージョンのリリースによるアプリケーションの機能の主な変更
- 最後のバージョンのリリース以降LANSAに適用される大幅なアップ グレード
- 最新バージョンを完全に機能するアプリケーションとしてインス トールする必要性
- データベースの変更を含むソフトウェアの変更

パッチのアップグレードの使用を考える理由は以下のとおりです。

- 既存機能の強化の提供
- 新しい機能の提供(データベースの変更を除く)
- ショートカットの変更、削除、追加
- 頻繁に小さな一連の変更の配布を必要とするアジャイル開発
- ユーザーのアプリケーションの問題を解決するバグ修正の適用

5.4 ユーザーごとまたはコンピュータごとのインストール

Windows インストーラーは、ユーザーとオペレーティング・システムの アクセス権限にしたがって、1台のコンピュータ(コンピュータごと) のすべてのユーザーまたは特定のユーザー(ユーザーごと)のアプリ ケーションまたはアップグレードをインストールすることができます。 配布パッケージを定義するときは、アップデートのインストールのコン テキストを検討する必要があります。アプリケーションとアップデート のコンテキストが異なる場合、アプリケーションが期待通りにアップ デートされないことがあります。

5.5 デジタル署名

デジタル署名を利用するには、アプリケーションに関連付けられた会社 の詳細に、適切な項目を入力する必要があります。この詳細は署名ツー ル・コマンド・ラインに入力されます。コマンドのフォーマットと構文 は利用される署名ツールによって決定されます。

指定されたコマンドは生成処理時に実行され、作成されるMSIまたは MSPファイルはデジタル署名されています。

5.5.1 MSIとMSPファイルにデジタル署名する理由

生成されたMSIまたはMSPファイルに有効なデジタル証明書の署名がある場合、インターネットからダウンロードする場合に以下の警告は表示されません。



デジタル署名されたファイルは、fileプロパティ内のファイル作成に責任のある関係者について詳述します。

msxml.msiのプロパティ				
全般 互換性 デジタル署名 セキュリティ カスタム 詳細 以前のバージョン				
署名の一覧				
署名者名: 電子メール タイムスタンプ				
Microsoft Co 利用不可 2003年4月24日				
[詳細(D)				
OK キャンセル 適用(A)				

5.6 インストール・モード

配布ツールの生成処理によって作成されたMSIまたはMSPファイルは、 これらのファイルで定義されるインストールを管理するMicrosoftインス トーラーに関連付けられています(msiexec.exe)。ファイルがMicrosoftイ ンストーラーに関連付けられているので、Explorer内のファイルをダブ ルクリックするだけでファイルのインストールを開始することができま す。

msiexec.exeコマンドにMSIファイル名またはMSPファイル名をパラ メータとして提供することにより、MSIまたはMSPファイルをコマンド ラインを通じてインストールすることもできます。無人インストール、 サイレント・インストール、詳細インストール・モードなどのインス トールの処理を制御する様々なパラメータがあります。

さらに、msiexec.exeコマンドと関連付けられたスイッチがあり、ロ グ・モードを制御します。

注 - msiexec.exe コマンドで使われたログ・モードにかかわらず, 配布 ツールのインストールは、すべて自動的にインストールの動作 (たとえ ば MSI2ce4c.log内) をエンドユーザーが定義した%TEMP% フォル ダー内のランダムに指定されたファイルにログします。

Administrator: Command Prompt	
C:\Src\Visual Lansa\X_Win95\X_Lansa\> -us.msi_	(_Apps\D20A>msiexec.exe /i D20A_v1.22.333_en

5.7 SCCM による統合

配布ツールにより作成されたMSIとMSPファイルはMicrosoftシステム・ センター構成マネージメントまたはシステム・マネジメント・サーバー ツールに組み込むことができます。これらの製品は、アプリケーショ ン・ソフトウェアを会社の環境内で配布するための高度な機能とLANSA のJITアップグレードの代わりの機能を提供します。



6. アプリケーション

LANSAで開発したアプリケーションを配布する最初のステップとして、1つまたは複数のアプリケーションを作成します。その方法は、「6.1アプリケーションの作成」に説明されています。

配布ツールの初心者ユーザーの場合は、始める前に「5. 配布の計画」を 参照してください。

アプリケーションは、ホスト側のルート・テーブルとリスナー・テーブ ルをアプリケーションと一緒に配布するかを決める際にも重要です。詳 細については、「6.4 コミュニケーション・テーブルを含める」を参照 してください。

6.2 アプリケーションの詳細の変更 や 6.3 アプリケーションの削除も可能です。

6.1 アプリケーションの作成

メイン・ウィンドウでツールバーの [新規アプリケーション] ツール を選択します。ツリーのメニューから[新規作成]を選択することも できます。

◎新規アプリケーション		X
アフ [°] リケーション	МҮАРР	
記述	アプリケーション	
会社	LANSA Pty Ltd	-
		作成(C) キャンセル(N)

「ア」必須。

プリ アプリケーションの名前を8文字以内で入力してください。名前

ッ^ーの1文字目は英字で始め、途中にブランクを含めないように入力

ショ する必要があります。アプリケーションの名前を'X'で始めること ン] はできません。

- [記 必須。
- 述] 多数のアプリケーションがある場合に、該当のアプリケーション を容易に探し出し理解できるように説明を入力します。アプリ ケーションが、言語によってバリエーションがある記述とともに 多言語で配布される場合、記述をテキストとして入力するか、ま たは複数言語対応変数を指定することができます。 このアプリケーションの記述はアプリケーションをインストール

およびアンインストールする時に使われます。

[会 必須。

社] このアプリケーションに関連付けられる会社を選択します。会社 を定義するには、省略記号(...)のボタンを使って[会社の保守]にア クセスします。 会社および関連付けられた詳細は、生成処理中 とアプリケーションのインストールおよびアンインストール時に 使われます。

詳細については、「会社の詳細の設定」を参照してください。
アプリケーションを定義する情報の入力が完了したら、[作成]を押しま す。新しいアプリケーション内にバージョンを作成するかどうかを確認 するプロンプトが自動で表示されます。

6.2 アプリケーションの詳細の変更

アプリケーション名は変更できませんが、関連付けられた記述と会社は編集可能です。

C ABCINST - ABC	Installation	×
アプリケーション	ABCINST	
記述	ABC インストール	
会社	ABC	
		OK(O) キャンセル

[アプ 保守できません。

リ ケー アプリケーション名は変更できません。

- ショ ン1
- ~]
- - アプリケーションの記述を必要に応じて変更します。 記述は、インストール中とインストールされたアプリケーショ ンの特定に使われるため、アプリケーションの配布後にアプリ ケーションの記述を変更することは推奨できません。
- [会 必須。

社] 会社名の入力は必須です。アプリケーションが多言語で配布される場合、会社名をテキストとして入力するか、または、言語に依存する会社名にバリエーションのある複数言語対応変数を指定することができます。 会社は、インストール中とインストールされたアプリケーションの特定に使われるため、アプリケーションの配布後に会社を変更することは推奨できません。 詳細については、「会社の詳細の設定」を参照してください。

アプリケーションの変更を保存するには[OK]を押します。変更を保存 せずにダイアログを閉じるには[キャンセル]を押します。

- 6.3 アプリケーションの削除
 - ✗ 削除するアプリケーションを選択します。次に、ツールバーの[削除]ツールを押すか、または右クリックメニューの[削除]コマンドを 選択します。

削除確認のメッセージが表示されます。



アプリケーションを削除すると、アプリケーション内のバージョン とパッケージもすべて削除されます。「アプリケーションの定義の バックアップと復元」を参照してください。

- 6.4 コミュニケーション・テーブルを含める
 - アプリケーションのホスト側のルート・ファイルを含めるかまたは 変更するには、ツールバーの[コミュニケーション管理機能]ツール を押します。 最初に現在のLANSAシステムからホスト側のルート(lroute.dat) 情報 がコピーされます(lroute.dat)。このコピーは特定のアプリケーショ ンの必要に応じて変更することができます。 ホスト側のルートで[リスナーの詳細を表示する]を選択し、必要に 応じて変更すると、リスナー情報も配布することができます。
- 詳細については、「LANSA コミュニケーション機能の配布」を参照してください。

7. バージョンとパッチ

オブジェクトを選択してパッケージの設定とオプションを指定する前 に、まず名前と記述(最低限必要)を指定してパッケージを作成する必要 があります。

配布ツール・メイン・ウィンドウの[パッケージ]メニューから以下の作 業が行えます。

7.1 バージョンの作成

7.2 パッチの作成

7.3 パッケージを開く

7.4 **パッケージの**削除

7.7 バージョンまたはパッチのチェック7.7 バージョンまたはパッチの チェック

7.8 バージョンまたはパッチの生成7.8 バージョンまたはパッチの生成 7.8.1 パッケージの生成ログのチェック

7.9 配布されたパッケージ7.9 配布されたパッケージ

追加のオプションは、パッケージが編集または確認のために開いている 場合に使用できます。

7.6 **パッケージの**保存

「配布テンプレートの作成」に示すように、パッケージをテンプレート として保存します。

また

「8. オプションと設定」により、その他のパッケージの構成が可能で す。

7.1 バージョンの作成

アプリケーションが作成されるとアプリケーションの最初のバー ジョンが作成されます。アプリケーションの詳細の確認後、[新し いバージョン]のダイアログが表示されます。

🍞 新しいバージョン		X
アプリケーション	MYAPP My Application	
バージョン番号	1.0.0	
記述	バージョンの設定	
テンプレート	▲ 記述	
	テンプレートを使用しない	
XACTIVEX	ActiveX としてラッピングされた LANSA コンポーネントの発行	
XALONE	スタント・アロン システム	
XAPPSV	アプ [®] リケーション サーバーのセットアップ (データヘースなし) - JIT パッケージ アップグレード	
XAPPSVDB	アプ [®] リケーション サーバーのセットアップ (データヘベースあり) - JIT パッケージ アップクレード	
XCLT400	スーパーサーバー アプリケーション - IBM i のデータ サーバー RDML	
XCLT400X	スーパーサーバー アプリケーション - IBM i のデータ サーバー RDMLX	
XCLTBIF	スーパーサーバー アプリケーション - 組み込み関数を使用したデータサーバーへの接続	
XCLTJIT	スーパーサーバー アフ゜リケーション - JIT パッケージ アッフ゜グレート゛	
XCLTOTH	スーパーサーバー アプリケーション - IBM i 以外のデータ サーバー	
XEXPORT	内部定義のエクスポート	
VOTUODI	LANCA NO METRIC ALCOURTS	-
	作成(C) キャン	セル <mark>(N)</mark>

以降のアプリケーションのバージョンは、元のバージョンをコピーして 作成されます。メイン・ウィンドウのツリーでバージョンが選択された 時、右クリックメニューの[次のバージョンの作成]オプションが使用で きます。バージョンは、選択したアプリケーションの下に作成されま す。

IL コピーして作成		X
アフ゜リケーション	МҮАРР	
バージョン	1.0.1	
記述	バージョン 101	
		<u>OK(Q)</u> キャンセル

[アプリ ケー パッケージを含めるアプリケーションです。 この値は省略値 ション]として入っており、変更できません。

- [バー 次のバージョン番号を入力します。 以降にリリースされる ジョン] バージョンの番号は増加していかなければなりません。推奨 する命名の方法は以下のとおりです。 <メジャー・バージョン番号>.<マイナー・バージョン番号>.< ビルド番号>
- [記述] 記述を入力します。
- [テンプ アプリケーションの最初のバージョンを作成するときのみテレート] ンプレートが選択できます。

新しいバージョンの雛形として使用するテンプレートを選択 するか、リスト内の[テンプレートを使用しない]を選択しま す。

配布テンプレートは設定済みのオプションを提供し、不要な オプションを非表示にするので、パッケージの編集時間を短 縮することができます。

時間を短縮するために、配布ツールにテンプレートが提供されていま す。テンプレートの一覧については、「提供配布テンプレート」を参照 してください。

以上の入力が完了したら、[OK]を押してください。オプション、設定、 新しいパッケージに含めるオブジェクトを選択できるパッケージ保守 ウィンドウが開きます。「7.3 パッケージを開く」を確認してくださ い。

7.2 パッチの作成

パッチは同じアプリケーションのバージョンまたはパッチをコ ピーして作成します。コピーされたバージョンまたはパッチは、 パッチ定義のベースになります。

メイン・ウィンドウのツリーでバージョンまたはパッチが選択された時、右クリックメニューの[パッチの作成]オプションが使用 できます。パッチは、選択したアプリケーションの下に作成され ます。

No. 18 - して作成	
アプリケーション	МҮАРР
ಗೆಿಶ್	1.0.0.1
記述	
	OK(O) キャンセル

 「アプ パッケージを含めるアプリケーションです。 この値は省略値 として入っており、変更できません。
 ケーション]
 「パッ 次のパッチ番号を入力します。 以降にリリースされるパッチ の番号は増加していかなければなりません。パッチ番号はその ベースとなるバージョンもしくはパッチに直接関係がありま す。例えばパッチ1.0.0.1 はバージョン1.0.0の最初のパッチで す。推奨する命名の方法は以下のとおりです。

ルド番号>.<パッチ番号>

[記 記述を入力します。

述]

パッチの詳細を入力したら、[OK]を押してください。特別な設定のファ イルやパッチに含めるオブジェクトを選択し、変更できるパッケージ保 守ウィンドウが開きます。他の設定とオプションはすべて変更できませ ん。コピー元のバージョンまたはパッチの値を反映しています。

7.3 パッケージを開く

メイン・ウィンドウで保守するバージョンまたはパッチを選択し、 ツールバーの[開く]ツールを使用するかまたは右クリックメニュー から、選択したバージョンまたはパッチを開きます。メイン・ウィ ンドウのツリーでパッケージをダブルクリックしてもパッケージを 開いて編集できます。

「バージョンの作成」時、または「パッチの作成」時は、自動的に 開いて編集できます。

パッケージ保守ウィンドウは、あらゆるオプションや設定、パッケージ に含めるオブジェクトなどを選択するための開始ポイントです。このオ プションや設定は、パッケージの導入時や実行時における動作を管理し ます。

パッケージの基本の定義を修正するには、以下を参照してください。

7.3.1 導入オプションの編集

7.3.3 記述の変更

7.3.4 関連付けられたテンプレート

小イパーリンクを設定するグラフィック。ダイアグラム内のエリア をクリックすると、詳細にジャンプします。



このウィンドウでは、オプションはグループ化されています。そのた め、(多くのグループがそうですが)1つのグループ全体を無視して省略値 を適用することができます(パッケージに関連していない場合)。例え ば、パッケージでJIT機能を使わない時は省略値が適用できます。この 場合、JITグループ全体を無視することができます。同様に、ローカ ル・データベースに配布しない場合は、[データベース]オプションを無 視することができます。

7.3.1 導入オプションの編集

パッケージ保守ウィンドウに表示される値はすべて確認でき、ほとんど の場合で変更できます。以下の方法でパッケージを作成した場合:

- 配布テンプレートを使うと、テンプレートでオプションを表示のみ にするか変更可能にするかを制御することができます。
- 配布テンプレートを使わないと、省略値が表示されます。
- ー度変更されたオプションは、背景が灰色になり、テキストが黒く変わ るので変更されたことが分かります。

テンプレートであらかじめ設定されているように、特定の値に事前に設 定されて変更できないオプションは、背景とテキストが灰色で表示され ます。

テンプレートであらかじめ設定されているように、入力が必要なオプ ションは、背景が灰色でテキストが黒く表示されます。詳細について は、「配布テンプレートのオプションと設定」を参照してください。

オプションの多くは特定の実行パラメータと直接結び付きます。相当するX_RUNパラメータはオプションの説明の最後に記述されています。 X_RUNコマンドとパラメータの使用の詳細については、『LANSA テクニカルリファレンスガイド』の「X_RUNコマンドの使用」を参照してください。

☆重要 - 導入オプションの省略値は、角括弧で囲みます。例えば、言語 (LANG)の省略値は[現行]です。使用する導入オプションの値を角括弧で囲まないでください。囲んだ場合、パッケージのインストール時にそのオプションは無視され、該当オプションの配布ツールの省略値に戻ります。

パッケージ保守ウィンドウでオプションの値を設定するには、以下の操 作を行います。

ステッ 方法 プ

~ 1オプ バージョンを作成するか、開きます。表示されたパッケージ

ションを保守ウィンドウのオプションに関連付けられたフォントと強 ダブルク調表示に注意してください。パッケージがテンプレートを リックす ベースに作成された場合、テキストは標準の黒、背景は白の る エントリーのみになります。 オプションをダブルクリックして、値と表示の設定を確認し ます。例えば、オプション[実行するフォーム]をダブルク リックします。



特定のオプションについては、「8.1 導入オプション」を参照してください。

- 2値の省 必要な値とオプションを選択または入力するためのダイアロ 略値を グ・ボックスが表示されます。

[実行するフォーム(FORM)]などのように、フリーフォー マット入力のオプションの場合、編集ボックスが表示されま す。パッケージのセットアップとインストール時に適用する 値に変更します。



この場合、セットアップの実行時にこの値のプロンプトを表示してインストール実行時に変更できるようにするかどうか

も決定できます。一部のオプションには、[X_START のプロ ンプト]も含まれます(関連する場合)。

使用する導入オプションの値を角括弧で囲まないでください。

インストール時のプロンプト

パッケージをインストールする場合、このオプションの値を 入力または確認するプロンプトが表示されます。値がパス ワード(PSWD、PSPWおよびASPW パラメータ)の場合、省 略値は '*password_optional'に設定されます。インストール時 にパラメータの値がない場合、省略値は*optional_data_'に設 定されます。詳細については、『LANSA テクニカル リファ レンスガイド』の「8.1.8 [インストール ダイアログ]」と 「コマンドと特殊変数」を参照してください。

X_START のプロンプト

(通常はデスクトップ・アイコンから) X_RUNを使用してアプ リケーションを実行する場合、アプリケーションの起動時に X_STARTの値のプロンプトが表示されます。入力した値は、 X_STARTプロンプトの省略値として使用されます。通常の場 合、このオプションは選択すべきではありません。

注-オプションの[インストール時のプロンプト]を指定した 場合、対応するダイアログ、インストールのダイアログの表 示に[はい]を設定する必要があります。この設定をしないと オプションのプロンプトは表示されません。

あらかじめ定義された値のリストがオプションにある場合、 一連のラジオ・ボタンが[値]タブに表示されます。

省略値の]ミュニケーション タイプ (CMTH=)
1000
クライアント アクセス/400
○ Netsoft
○ その他の APPC
○ その他の CPI-C
◯ Microsoft SNA サーパー
● TCP/IP

ヒント - 前のダイアログを閉じずに、続きのオプション・ダ イアログを開くことができます。現在のダイアログは、新し く開いたダイアログで置き換えられます。 7.3.2 設定の編集

パッケージの設定は、パッケージ保守ウィンドウのツールバーから利用 できます。設定内容は以下のとおりです。

- 8.4 アプリケーション・アイコン
- 8.5 X_RUN 引数
- 8.6 実行するコマンド
- 8.7 言語
- 8.8 Webデザイン
- 8.9 特別な処理のファイル

設定は順番に関係なく選択することができます。

パッケージの設定はすべて確認でき、ほとんどの場合で変更できます。 配布テンプレートを使用してパッケージを作成した場合、テンプレート で設定を表示のみにするか変更可能にするかを制御することができま す。配布テンプレートが使用されていない場合、新しいパッケージには 省略値が表示されます。

テンプレートであらかじめ設定されているように、特定の値に事前に設定されて変更できないオプションには、読み取り専用モード-値の変更は保存できませんというメッセージが表示されます。値を変更するには、 テンプレートの参照を削除する必要があります。詳細については、 「7.3.4 関連付けられたテンプレート」を参照してください。 7.3.3 記述の変更

現在のバージョンまたはパッケージの記述を変更するには、パッケージ 保守ウィンドウの[編集]メニューから[パッケージ記述の変更]を選択し ます。



7.3.4 関連付けられたテンプレート

[パッケージに関連付けるテンプレート]オプションは、現在のバージョ ンまたはパッチに関連付けられているテンプレートがある場合にのみ使 用できます。テンプレートは、パッケージ保守ウィンドウの[編集]メ ニューのコマンドから開きます。

このオプションを使って、パッケージのベースになったテンプレートを 確認します。また、パッケージの定義をより柔軟に行えるテンプレート の関連付けを必要に応じて削除します。関連付けられたテンプレート は、一部の設定とオプションを非表示にしたり、その利用を制限したり することができます。

×
削除 キャンセル

テンプレートに基づくパッケージ

多くの場合、パッケージの作成時に配布テンプレートをベースにすれ ば、パッケージで検討しなければならないオプションの数を制限するこ とができます。テンプレートにより、あらかじめ設定されたオプション を含めることができます。さらにサブセット一式でオプションを無効に したり非表示にしたりすることもできます。

パッケージ保守ウィンドウでは、選択したテンプレートに指定されたオ プションが表示されます。したがって実際に表示されるパッケージ保守 ウィンドウは、次の例とは異なる場合があります。あらかじめ設定され たオプションは、背景が灰色でテキストは黒く表示されます。

注 - 削除したテンプレートがパッケージに使用されている場合、パッケージがロードされたときにテンプレートの設定が無視されます。つまり、パッケージは省略値の状態で表示され、 すべてのオプションの表示と変更が可能となります。

詳細については、「配布テンプレートのオプションと設定」を参照して ください。

7.4 パッケージの削除

※ 配布ツールのメイン・ウィンドウのリストから削除するパッケージ を強調表示して、[削除]アイコンを押します。

[削除]アイコンは、パッケージを閉じている場合にのみ使用可能で す。パッケージがすでに出荷されていれば、削除の確認用プロンプ トが表示されます。



削除オプションで、パッケージ定義および全物理オブジェクトが削 除されます。

削除されたパッケージに対するバックアウト機能は用意されていま せん。

7.5 V13以前のパッケージを変換

このオプションを使用して、V13以前のLANSA環境のパッケージを変換 し、バージョン13のアプリケーションのベース・バージョンとして使い ます。メイン・ウィンドウの[ツール]メニューで[V13以前のパッケージ を変換]オプションを選択し、LANSAの旧バージョンで定義されたパッ ケージを検索し、変換します。

ツール	(<u>I</u>)	∧ルフ°(<u>H</u>)
64	77° I,	りーションを検索
	77° I,	レケーションのバックアップまたは修復
	V13	以前のパッケージを変換
	V13	以前のテンプレートを変換

パッケージを変換する前に「配布モデル」とバージョン13での配布パラ ダイムでの変更について理解してください。

重要 – 1つのアプリケーションにインストールするV13以前のLANSAの パッケージが複数ある場合、変換が最も複雑なパッケージを選択しま す。追加のオブジェクト、オプションまたは設定は、変換が完了してか ら追加できます。

変換インターフェースのプロセスには4つのステップがあります。

- 1. 変換されるパッケージがあるパスを入力します。
- 2. 変換するパッケージを選択します。
- 3. 詳細を確認し、必要に応じて変更します。
- 4. 詳細が完成したら[OK]を選択し、選択したパッケージを変換しま す。

■ V13以前のパッケーシ、を	r变换 X
ー・パッケージのルート ディレ	
	.:\PROGRAM FILES\LANSA135P1\X_WIN95\X_LANSA\X_PKG5\ ····
──変換するパッケージを追	選択
BBB - testing -	various
BIF - testing - v	a to runtime environment various
😚 BIF01 - Tes	t Create_Package
BIF02 - Tes BIF01 - Test CF	it Build_package
🖃 🍎 DEMO - Deploy	DEM system
C DEMO1 - D	eploy demo
「バージョンとして作成	
アフ゜リケーション	DEMO
記述	DEM システムの配布
会社	LANSA Pty Ltd *
バージョン番号	1 . 22 . 0
記述	DEMO1から変換
	OK(O) キャンセル

[ア パッケージはコピー元のテンプレートからすでに記入されてお . プリ り、修正はできません。 ケー ショ ン [記 アプリケーションの記述を入力するか、またはコピーしたアプ 述] リケーションの記述を使います。記述はインストールされたア プリケーションの識別に使われるため、これは重要なことで す。 [会] アプリケーションの配布者として使われる会社を選択します。 使用できる会社がない場合は、[表示]メニューの[会社の保守]を 社1 使って会社の詳細を作成します。詳細については、「会社の詳

細の設定」を参照してください。

[バー ソフトウェアのリリースを示す適切なバージョン番号を入力し ジョ ます。

ン番

号]

- [記 バージョンの記述を入力します。これは参照するのみで、イン
- 述] ストールされたアプリケーションでは使われません。

7.6 パッケージの保存

パッケージを保存するには、パッケージ保守ウィンドウのツール バーから[保存]ツールを選択するか、[パッケージ]メニューから[保 存]コマンドを選択します。

パッケージを保存すると、指定したオプション、設定、オブジェクト・ リストはLDLファイルに保管され、パッケージのワーク・フォルダーに 書き出されます。

パッケージを保存すると、「7.8 バージョンまたはパッチの生成」で説 明する手順に従って、パッケージを生成できます。

注 - 最初にパッケージが保存されるまでは最小セットの情報が ディスクに保存されています。パッケージを保存しなかった場 合、次回そのパッケージを開いた時に、省略値(保存された最小 セットの情報)だけしか表示されません。

保存したパッケージの詳細は、以下の作業ディレクトリ構造で保管され ます。



7.7 バージョンまたはパッチのチェック

 配布ツールのメイン・ウィンドウまたはパッケージ保守ウィンドウ のツールバーから[チェック] オプションを選択します。[チェック] オプションは配布ツールのメイン・ウィンドウにある[右クリッ ク」メニューでも使用できます。 このオプションは、バージョンまたはパッチを保存してから生成を 試みるまでの間でしか使用できません。さらに変更を加えた場合、 再度パッケージを保存するまで[生成]と[検証]オプションは利用で きません。

これは、パッケージを生成する前に行うオプションのステップです。 [検証]オプションを使用してパッケージの問題を特定し、パッケージ生 成を開始する前にその問題を修正できます。このため、パッケージの生 成段階の時間を大幅に節約できます。

☆ 重要 - パッケージを生成する前に、このパッケージ検査処理から返されたすべての警告メッセージについて、条件を修正されることをお勧めします。

- 7.8 バージョンまたはパッチの生成
 - バージョンまたはパッチが保存され、オプションであらかじめ決められた検査処理をパスすると、バージョンまたはパッチを生成することができます。
 生成処理を開始するには、配布ツールのメイン・ウィンドウまたはパッケージ保守ウィンドウのツールバーから[生成]アイコンを選択します。生成オプションは配布ツールのメイン・ウィンドウにある[右クリック」メニューでも使用できます。

生成処理では、LDLと(パッケージの保存処理中に作成された)関連付け られたファイルの各種定義を使用して必要なフォルダーを作成し、必要 なエクスポートを実行して、必要なオブジェクトをパッケージ構造にコ ピーします。パッケージにクロス・リファレンス・オブジェクトを含め た場合、生成中にクロスリファレンスは解決され、EDLファイルに格納 されます。

生成処理の最終段階ではWIX XMLソース・ファイルが生成され、WIX ツールセットによりコンパイルされてMSIとMSPファイルに変換されま す。

7.8.1 パッケージの生成ログ

パッケージを生成すると必ず生成ログが作成されます。生成ログには パッケージの生成処理中に発生したすべてのメッセージが含まれます。

配布ツールのメイン・ウィンドウまたはパッケージ保守ウィンドウ のツールバーから[ログの表示]を選択します。[ログの表示]オプ ションは配布ツールのメイン・ウィンドウにある[右クリック」メ ニューでも使用できます。 このオプションは、選択したパッケージが生成された場合にのみ使

ログは次のように表示されます。

用できます。



ダイアログ上部のオプションを選択して、表示するメッセージを絞り込 みます。選択したオプションは生成が変わってもそのまま残ります。 [自動表示]オプションは、生成が完了した直後に[ログの表示]を自動で 表示するかどうかを決定するため、特に注意してください。

✿ 重要 - 何らかの理由で生成が失敗したときは、「ログの生 成」の説明を参照してください。

このダイアログに関連付けられた実際のログ・ファイル、lpcreate.log は、対応するパッケージ・ディレクト

 $U_{\ \ CansaRoot} = X_Win95 X_Lansa X_Apps$

<Application>\X_PKGWRK\<Version>\Build\dpcreate.logに格納されます。生成処理時に生成されたエクスポート・ログの詳細は、

lpcreate.logに自動で組み込まれ、接頭辞->で特定されます。

7.9 配布されたパッケージ

パッケージが配布されたことを表示するには、パッケージ保守ウィンドウのツールバーか、または選択されたパッケージの右クリックメニューの[配布]を選択します。
 パッケージには、生成して初めて配布されたとフラグを付けることができます。
 パッケージを配布するということは、JITサーバーから自動でパッケージをダウンロードできるようになったということです。このアプリケーションに、以降のバージョンまたはパッチがないか慎重に検討する前にパッケージを再構築してはいけないことも意味しています。パッケージが再構築されると、生成された新しい一連のGUIDは以降のパッチと互換性がなくなります。

ハッケーシンクを実施したシステムとJIII配布で使用しているシ ステムが同じ場合、配布されたパッケージは直ちにダウンロー ドができるようになります。これが好ましくない場合もありま す。パッケージの作成と配布は別のコンピュータを使用するこ とをお勧めします。

8. オプションと設定

オプションと設定は大きく以下の3つのカテゴリーに分けられます。次のようなものです。

- パッケージ保守ウィンドウのメイン・ウィンドウから利用可能な8.1
 導入オプション
- 8.2 リポジトリオブジェクトの選択に記述されたアプリケーションの オブジェクト
- パッケージ保守ウィンドウのツールバーから利用できる8.3 設定。設定内容は以下のとおりです。
 - 8.4 アプリケーション・アイコン
 - 8.5 X_RUN 引数
 - 8.6 実行するコマンド
 - 8.7 言語
 - 8.8 Webデザイン
 - 8.9 特別な処理のファイル
- オプションと設定は順番に関係なく選択することができます。

8.1 導入オプション

パッケージ保守ウィンドウで指定する導入オプションは、インストール 時におけるパッケージの動作およびインストール後における導入先PCで の実行を制御します。

導入オプションの多くは、そのグループ全体を無視して省略値を採用す ることができます。例えば、JIT機能を使わない場合、そのオプショ ン・グループを無視することができます。

アプリケーションの最初のバージョンを配布テンプレートをベースに作 成する場合、指定する必要のある要件はさらに少なくなります。

導入オプションの多くは特定のLANSA実行パラメータと直接結び付きます。適用できるものがあれば、相当するX_RUNパラメータが項目の説明の最後に記述されています。X_RUNと引数についての詳細は、

『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の「X_RUNコマンドの使用」を参照してください。

導入オプションの省略値は、角括弧で囲まれて表示されていま す。例えば、言語(LANG=)の省略値は[現行]です。使用する導 入値を角括弧で囲まないでください。囲んだ場合、導入値は無 視され、該当オプションの配布ツールの指定された省略値に戻 ります。

必要なパラメータ・グループは以下のとおりです。

- 8.1.1 [実行の必須パラメーター]
- 8.1.2 [コミュニケーション]
- 8.1.3 [JIT]
- 8.1.4 [スーパーサーバー]
- 8.1.5 [データベース]
- 8.1.6 [デスクトップの設定]
- 8.1.7 [アップグレードオプション]
- 8.1.8 [インストールダイアログ]

8.1.1 [実行の必須パラメーター]

以下のパラメータは、Visual LANSAアプリケーションを実行する前に必ず指定しなければならないパラメータです。指定すると、プロセス、 ファンクション、またはフォームを起動できます(すべてを起動できる わけではありません)。

[言語 アプリケーション実行時に使用する言語コードを入力しま (LANG)] す。

省略値:[現行]-パッケージ作成時に使用する言語コード

[実行す アプリケーションをインストールした直後のアプリケーショるプロセン起動に使用されるプロセスを指定します。実行するプロセス
 ス スまたはフォームに指定がない場合、実行するプロセスには
 (PROC)]特別プロセスである*INSTALLが指定されます。

一般的にアップグレード・パッケージの場合、情報は以前に 配布されているため、プロセスやファンクション、フォーム を指定する必要はありません。

実行するプロセス (PROC)と実行するフォーム (FORM)の両 方が指定された場合、予測不可能な結果が生じます。 このオブジェクトは、パッケージに含める必要があります。 省略値:[なし]

[実行す アプリケーションがインストールされた後に呼び出される るファン ファンクションを指定します。

- るノアノ ノアノクンヨノを拍圧しまり。
- クション このオプションを指定した場合、[実行するプロセス
- (FUNC)] (PROC)] も指定する必要があります。 このオブジェクトは、パッケージに含める必要があります。 省略値:[なし]
- [実行す アプリケーションをインストールした直後のアプリケーショ るフォー ン起動に使用されるフォームを指定します。
- ム 実行するプロセスとフォームの両方が指定された場合、予 (FORM)] 測不可能な結果が生じます。

このオブジェクトは、パッケージに含める必要があります。 省略値:[なし] [区画 アプリケーション実行時に使用する区画を入力します。

(PART)] 省略値:[現行]-パッケージ作成時に使用する区画

[LANSA アプリケーションを実行するLANSAユーザー

ユーザー 省略値:[QPGMR]

(USER)]

8.1.2 [コミュニケーション]

コミュニケーション・オプションを選択して、適用可能であれば、アプ リケーションとサーバーが通信する方法を管理します。

[リスナーのインス リスナーがインストールされるかどうかを表示 トール] します。 [はい] – リスナーがインストールされます。 [いいえ] – リスナーはインストールされません。

省略値:[いいえ]

8.1.3 [JIT]

JITオプションを設定するのは、エンドユーザーがアプリケーションを 開始する時にアプリケーションのアップグレードをセントラル・サー バーから自動で配布する場合です。変更を手作業またはDVDやネット ワーク経由で配布する場合は、このJITオプションは無視できます。 JITのオプションと設定を選択する前に「JITアップグレードの手引き」 の推奨事項を参照してください。

- [アップグ アプリケーション・サーバーからの*JIT*アップグレードの レード オプ 方法を以下のオプションを使って指定します。
- ション [アップグレードなし] JITアップグレード処理はなし。 (UPGD)] エビーンバージョン/パッチル 新しいバージョンまたけ
- (UPGD)」 [新しいバージョン/パッチ]-新しいバージョンまたは パッチのコピーを取得します。 省略値:[アップグレードなし]
- [パッケージ [現行のアプリケーション] アプリケーションを実行す の導入 る前に現行アプリケーションの導入されていないパッ
- (INST)] ケージをすべてインストールする。
 [パッケージを導入しない]-パッケージをインストール せずにアプリケーションを実行する。
 省略値:[現行のアプリケーション]
 実行するプロセスまたは実行するフォームに指定がない 場合、プロセスは自動的に*INSTALLに設定されます。
 - このとき、パッケージの導入 にパッケージを導入しない が設定されていてもパッケージはインストールされま す。
- [スタンドア このオプションは、パッケージの導入の際に、すべての ロン導入 ユーザーをLANSAシステムから切断する必要があるかど
 (UPSI)] うかを指定します。アプリケーションをアイコンから開 始するときに開始プロセスに追加されます。
 [はい]-パッケージを導入する前にシステムにアクティ
 - [luin] ハッケーシを導入する前にシステムにアクティ ブ・ユーザーがいないようにします。接続しているユー ザーがいる場合、パッケージは、導入またはアップグ レードされません。
 - [いいえ] パッケージが導入またはアップグレード中で

もユーザーの接続は保持されます。通常これは、ネット ワーク・クライアントまたはスタンドアロン・システム にパッケージを導入する場合にのみ適しているオプショ ンです。
[プロンプト] - パッケージを導入またはアップグレード する前に、一部のアプリケーションがアクティブな場 合、ユーザーにプロンプトを表示します。

省略値:[はい]

- [アプリケー 省略値:[なし]
- ションサー JITアップグレードが置かれるアプリケーション・サー バー名 バーの名前(ASLU)を指定します。詳細は、『LANSA テ (ASLU)] クニカルリファレンスガイド』の「PSXX=パラメー タ」の「PSLU=」の項目を参照してください。
- [アプリケー 省略値:[ユーザー]
- ション サー アプリケーション・サーバーへの接続に使用するユー
- バーのユー ザー名を指定します。詳細は、『LANSA テクニカル リ ザー ファレンスガイド』の「PSXX=パラメータ」の

(ASUS)] 「PSUS=」の項目を参照してください。 LANSAユーザーと同じ値の場合、このオプションを指定 する必要はありません。

- [アプリケー 省略値:[なし]
- ション サー アプリケーション・サーバーへの接続に使用するパス
- バーのパス ワードを指定します。
- ワード
 (ASPW)]
 「PSXX=パラメータ」の「PSPW=」の項目を参照してく ださい。

[クライアン 省略値:[なし]

トからサー 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の バーへの変 「PSXX=パラメータ」の「PSCT=」の項目を参照してく 換テーブル ださい。 (ASCT)]

[サーバーか 省略値:[なし]

らクライア 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の
ントへの変 「PSXX=パラメータ」の「PSST=」の項目を参照してく 換テーブル ださい。 (ASST)]

[接続失敗時 アプリケーション・サーバーへの接続に失敗したときのの操作 対応を指定します。

(UPCF)] [終了] - アプリケーションのアップグレードを終了し て、アプリケーションを終了する。 [継続] - アプリケーションのアップグレードは終了する が、アプリケーションの実行は継続する。 [プロンプト] - プロンプトを表示して必要な対応をユー ザーに確認する。 省略値:[プロンプト]

- [ダウンロー アプリケーション・サーバーからのダウンロードに失敗 ド失敗時の したときの対応を選択します。
- 操作 [終了] ダウンロードを直ちに終了して、アプリケー (UPDF)] ションを終了する。
- [アプリケー [はい]- CONNECT_SERVER組み込み関数を呼び出す際
- ションサー に、Kerberos 認証を使用する。

バーの信頼 [いいえ]- CONNECT_SERVER組み込み関数を呼び出す際 済み接続 に、*Kerberos* 認証を使用しない。 (ASTC)] 少弊値、いいまい

省略値:[いいえ]

詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の 「PSXX=パラメータ」の「PSTC=」の項目を参照してく ださい。 8.1.4 [スーパーサーバー]

LANSAのスーパーサーバー導入オプションを使って、実行時にアプリ ケーションが自動でサーバーに接続するように構成します。アプリケー ションでLANSAスーパーサーバーの組み込み関数を使用している場 合、このオプションを指定する必要はありません。

LANSAスーパーサーバーの組み込み関数には、 DEFINE_OS_400_SERVER、CONNECT_SERVER、CONNECT_FILEがあ ります。

- [サーバータ PSXXパラメータを使用する場合、接続先のサーバー・ イプ (PSTY タイプを指定します。
- および [なし] PSXXパラメータは使わない
- DBID)][RDMLX IBM i] RDMLX対応LANSAでIBM iサーバー
に接続する。PSTYとDBIDを*ANYに設定する[IBM i] IBM iアプリケーション・サーバーに接続す
る。PSTYとDBIDを*AS400に設定する[IBM i以外] IBM i 以外のサーバー(Windows サーバーな
ど)に接続する。PSTYとDBIDを*OTHERに設定する
省略値:[なし][IBM i以外]を選択した場合、サーバー・オーバーライ
ド・パラメータの値を設定する必要があります。
- [サーバー 省略値:[なし]
- 名(PSLU)] LANSA コミュニケーション管理機能で定義されている 接続先のサーバー名。LANSAコミュニケーション管理 機能テーブル(lroute.dat)に対応するエントリーが必要で す。
- [サーバーの 省略値:[ユーザー]
- ユーザー 値がLANSAユーザーと同じ場合、このオプションを指 (PSUS)] 定する必要はありません。
- [サーバーの 省略値:[なし]
- パスワード PSPWで、CONNECT_SERVER組み込み関数の省略値の (PSPW)] パスワードだけを指定する場合は、ここでは指定しない でください。[X_RUN のパラメーター]ダイアログでパ ラメータを追加してください。

[サーバー 省略値:[なし]

オーバーライ 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の ドパラメー 「PSXX=パラメータ」の対応するパラメータの項目を ター (PSEA)] 参照してください。

[コミット制 省略値:[なし]

御の使用 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の (PSCC)] 「PSXX=パラメータ」の対応するパラメータの項目を 参照してください。

[DBCS使用 省略値:[なし]

- 可能 (PSDB)] 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の 「PSXX=パラメータ」の対応するパラメータの項目を 参照してください。
- [サーバー側 省略値:[なし]
- のロック (PSDL)] 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の 「PSXX=パラメータ」の対応するパラメータの項目を 参照してください。

[接続メッ 省略値:[なし]

セージの表示 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の (PSWM)] 「PSXX=パラメータ」の対応するパラメータの項目を 参照してください。

[実行優先順 省略値:[なし]

位 (PSEP)] 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の 「PSXX=パラメータ」の対応するパラメータの項目を 参照してください。

[クライアン 省略値:[なし]

ト → サー 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の バー変換テー 「PSXX=パラメータ」の対応するパラメータの項目を ブル (PSCT)]参照してください。

[サーバー → 省略値:[なし]

クライアント 詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の 変換テーブル 「PSXX=パラメータ」の対応するパラメータの項目を

(PSST)] 参照してください。

[プライマリ [はい]- CONNECT_SERVER組み込み関数を呼び出す際 の信頼済み に、*Kerberos* 認証を使用する。

サーバー接続 [いいえ]- CONNECT_SERVER組み込み関数を呼び出す (PSTC)] 際に、*Kerberos* 認証を使用しない。

省略値:[いいえ]

詳細は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の 「PSXX=パラメータ」の「PSTC=」の項目を参照してく ださい。. 8.1.5 [データベース]

以下のオプションでは、データベースの有無とデータベースに対する接続をパッケージがチェックするかどうかを制御します。データベース・ オプションは、配布されたアプリケーションがローカル・データベース を使用する場合にのみ関連します。

☆ Sybase ASAデータベースのインストールとアップグレードは、配布ツールでサポートされなくなりました。

データベースのX_RUNデータベース引数の詳細については、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の「DBID、DBUT、DBII、DBITパラ メータ」を参照してください。

[DBMS タ インストールするDBMSタイプをリストから選択します。

- イプ [データベースなし](DBUT)] DATE SOL Semigral
 - [MS SQL Server]

[Oracle]

[Sybase ASA]

省略値:[データベースなし]

このオプションを[データベースなし] に設定した場合、導入処理で自動的にDBII=*NONEが設定され、その他のデータベース・オプションはすべて無視されます。

- [データ・ パッケージを受け取るときのデータベースのデータ・ソー ソース名 ス名。
- (DBII)] 省略值:[省略值]

データベースが必要ない場合は、データ・ソース名 (DBII) を[省略値]のままにして、 [DBMS タイプ (DBUT)] を[デー タベースなし]に設定します。

データ・ソース名を[省略値]に設定した場合、インストー ルは、[アプリケーションの記述]を使ってデータ・ソース 名を作成しようとします。この値を使ったデータ・ソース 名が既にある場合、そのデータ・ソース名が使われます。

- [データ データベースへの接続に使用するデータベース・ユー
- ベース ザー。
- ユーザー 省略値:[省略値]
- (DBUS)] 指定したデータ・ソース名がすでにターゲット・システム で定義されており、データベースユーザーに*DEFAULTが 設定されている場合、データベース・ユーザーは既存の データ・ソース名から抽出されます。 指定したデータ・ソース名がすでにターゲット・システム で定義されており、データベースユーザーに*DEFAULT以 外の値が設定されている場合、データ・ソース名の定義は 指定したデータベース・ユーザーで更新されます。 指定のデータ・ソース名が存在しない場合、パッケージの インストーラは、指定のデータベース・ユーザーとデータ ベース・パスワードを使用してデータ・ソース名を作成し ます。データベース・ユーザーに特別な値 *DEFAULT が設 定されている場合には、ユーザーは次のように設定されま す。

MS SQLサーバー - sa

Oracle - SYSTEM

Sybase ASA (すべてのバージョン) - DBA

- [データ データベースへの接続に使用するパスワード。
- ベース・ 省略値:[省略値]
- パスワー 指定したデータ・ソース名がすでにターゲット・システム ド で定義されており、データベース・パスワードに
- (PSWD)] *DEFAULTが設定されている場合、データベース・パス ワードは既存のデータ・ソース名から抽出されます。 指定したデータ・ソース名がすでにターゲット・システム で定義されており、データベース パスワードに*DEFAULT 以外の値が設定されている場合、データ・ソース名の定義 は指定したデータベース・パスワードで更新されます。 指定のデータ・ソース名が存在しない場合、パッケージの インストーラは、指定したデータベース・パスワードを使 用してデータ・ソース名を作成します。データベース・パ スワードに特別な値*DEFAULTが設定されている場合に は、パスワードは次のように設定されます。

MS SQLサーバー - "" (空の文字列)

Oracle - MANAGER

Sybase ASA 9 - SQL

Sybase ASA 10 – sql

Sybase ASA 11 – sql

- [データ データベース・サーバーの名前。
- ベース・ 省略値:[省略値]
- サーバー 新しいデータ・ソース名がパッケージのインストールで生 名 成される場合、ここに*DEFAULTが設定されていると、
- (DBSV)] データベース・サーバー名にはデータ・ソース名と同じ値 が設定されます。 既存のデータ・ソース名が使用される場合、ここに *DEFAULTが設定されていると、既存のデータ・ソース名 からデータ・サーバー名を使用します。
- [データ Adaptive Server AnywhereまたはMS SQLサーバー・データ
- ベース ベースのインストール時に使用するデータベース名。
- 名(DBAS)] 省略值:[省略值]

新しいデータ・ソース名がパッケージのインストールで生 成される場合、省略値では、データベース名にデータ・ ソース名と同じ値が設定されます。 既存のデータ・ソース名が使用される場合、ここに

*DEFAULTが設定されていると、既存のデータ・ソース名からデータベース名を使用します。

[信頼関係 MS SQL サーバー・データベースに接続する際にWindows

- を使用 認証を使用する必要があるかどうかを指定できます。この
- (DBTC)] オプションは、MS SQLサーバーまたはSybase ASAデータ ベースにのみ関連します。

[はい]-Windows認証を使用します。この場合、データベース・ユーザーとデータベース・パスワードは無視されます。

[いいえ] - Windows認証を使用しません。この場合、指定したデータベース・ユーザーとデータベース・パスワードを 使用してデータベースに接続します。

省略値:[はい]

- [ユー この値は通常[l ll l2]として設定されます。 企業のアプリ ザー・ ケーション、つまり共通のデータベースを使うアプリケー データ ションをインストールする場合は, アプリケーションを最 ベースの 初にユーザーのコンピュータにインストールする時のみ導 セット 入処理の一部としてデータベースのセットアップが必要で アップ す。.
- (SUDB)] 最初のインストールが[いいえ]の設定を上書きするように するには、[インストール時のプロンプト]オプションを選 択する必要があります。

[はい]-バージョンまたはパッチと一緒に提供されるファ イルとファイル・データを指定されたデータベースにイン ストールします。インストールによってデータベースは作 成されません。

[いいえ] - データベースは変更されません。

省略値:[いいえ]

注-この設定はユーザー・インストール実行時のみ適用されます。管理者インストールはこの設定を参照しません。

8.1.6 [デスクトップの設定]

以下の設定で導入先PC上に作成するWindowsのアプリケーション・ ショートカットを管理します。

通常、このオプションはアプリケーションを初めてインストールする時 にのみ必要です。以降のアップグレード・パッケージでは、これらのオ プションを [いいえ] に変更する必要があります。

[コミュニケーション管理機 能のショートカットの作成]	[はい]-LANSA通信エクステンションへ のショートカットを作成します。 [いいえ]-LANSA通信エクステンション へのショートカットを作成しません。 省略値:[はい]
[ODBC アドミニストレー	[はい] - ODBCアドミニストレーション

ションのショートカットの作 へのショートカットを作成します。 成1 「LILIAL ODBCアドミニストレーショ

[いいえ] - ODBCアドミニストレーショ ンへのショートカットを作成しません。 省略値:[いいえ]

8.1.7 [アップグレードオプション]

[以前の アプリケーションがすでに導入先のコンピュータの別の ターゲッ ディレクトリにインストールされている場合、導入処理で トディレ 自動的に以前のインストールの削除を試みることができま クトリの す。アプリケーション・コードを使ってレジストリ内の以 前のインストールの場所を検索し、関連付けられたフォル 除(DPAP)] ダの消去を試みます。この設定は導入時にダイアログを表 示することができます。 [はい] – アプリケーションが以前インストールされていた 場所からディレクトリを削除します。 [いいえ] – アプリケーションが以前インストールされてい た場所からディレクトリを削除しません。 省略値:[いいえ]

- [以前のア 以前のインストールを削除する場合、インストールされた
- プリケー 時の以前のアプリケーションのフォルダ名を表示します。
- ション この名前と一致するデスクトップ・アイコンまたはプログ
- フォルダ ラム・フォルダは導入処理時に削除されます。
- 名______ 省略値:[アプリケーション名]
- (UDBP)]

8.1.8 [インストール ダイアログ]

配布ツールの導入オプションの多くは、インストール中に値を入力させ るように設定できます。エンドユーザーが導入設定を変更する必要がな い方が望ましいのですが、そうすると異なる構成に同じバージョンを導 入する柔軟性も提供されます。

パッチは限られたユーザー・インターフェースをインストールします -DBMSダイアログだけが構成ダイアログとして表示されます。ほとんど のインストール・ダイアログはバージョンのインストール時のみ表示で きます。

インストール時のプロンプトを使用する場合、以下の2点を確認しま す。

- オプションに関連付けられた[インストール時のプロンプト] チェックボックスがチェックされている。
- 対応するインストール・ダイアログを表示するフラグが設定されている。

☆重要 - [インストール時のプロンプト]オプションが選択されているが、関連付けられたインストール・ダイアログが[いいえ]に設定されている場合、オプションのプロンプトは表示されません。

[アプリ [はい]-インストール時にアプリケーション・ダイアログを表 ケー 示します。

ション [lヽlヽえ]-インストール時にアプリケーション・ダイアログを ダイア 表示しません。 ログの 小吹(す, u, v, z, v)

1000 省略値:[いいえ] 表示]

LANSA Personnel Sys	tem Setup	
Setup the Applicat	ion e default application settings or edit as required	
Dbms Type	MSSQLS 👻	(DBUT)
Partition	IDE	(PART)
Language	ENG	(LANG)
Startup Form	VL_DEM20	(FORM)
Startup Process		(PROC)
Startup Function	,	(FUNC)
Initial Function	,	(INIT)
	Delete Previous Application	(DPAP)
	<u>B</u> ack Next	Cancel

データベース・システムを選択するには、[DBMS タイプ (DBUT)]を[インストール時のプロンプト]に設定する必要があ ります。

[DBMS [はい]-インストール時にDBMSダイアログを表示します。

- のダイ [いいえ]-インストール時にDBMSダイアログを表示しませ アログ ん。
- の表示] 省略値:[いいえ]

Data Source Name	LANSA Personnel System	(DBII)
Server	KATEVISTA\SQLSERVER	(DBSV)
Database	LANSADB	(DBAS)
User		(DBUS)
Password		(PSWD)
Local Database	Setup Database Upgrade V12 Database	(SUDB-UPDB)
Upgrade Folder	C:\X_WIN95\X_LANSA\X_IDE\	(UDBP)
	Browse	

データ・ソースを選択するには、[データソース名 (DBII)]を [セットアップのプロンプト]に設定する必要があります。

- [スー [はい] インストール時にスーパーサーバーのX_RUN接続引
- パー 数が入った1番目のダイアログを表示します。
- サー [いいえ] インストール時に、LANSAスーパーサーバーの
- バーオ X_RUN接続引数が入った1番目のダイアログを表示しませ プショ ん。 ンの表 (小吹伝・「いいう)
- ンの表 示(1)] 省略値:[いいえ]

Setup	
fault server settings or edit as required	
QPGMR	(USER)
QPGMR.	(PSUS)
,	(PSPW)
	(PSLU)
	(PSTY)
	(PSCC)
,	
Back Next	Cancel
	Setup fault server settings or edit as required QPGMR QPGMR

このダイアログのオプションは、スーパーサーバー・オプ ション[スーパーサーバーオプションの変更1]を[はい]に設定 した場合にのみ変更できます。これらのオプションには[イン ストール時のプロンプト]の個別のチェックボックスはありま せん。グループとしての使用がこのオプションで制御されま す。

- [スー [はい] インストール時にスーパーサーバーのX_RUN接続引
- パー 数が入った2番目のダイアログを表示します。
- サー [いいえ] インストール時に、LANSAスーパーサーバーの
- バーオ X_RUN接続引数が入った2番目のダイアログを表示しませ プショ ん。
- ンの表 省略値:[いいえ]
- 示(2)]

LANSA Personnel System Setup		
Setup the Server		
Click next to install the default se	rver settings or edit as required	
DBCS Compatable	(PSDB)	
Divert Locks	(PSDL)	
Show Wait Message	(PSWM)	
Server Execution Priority	(PSEP)	
Client to Server Table	(PSCT)	
Server to Client Table	(PSST)	
,		
	Back Novet Cased	

このダイアログのオプションは、スーパーサーバー・オプ ション[スーパーサーバー オプションの変更 2]を[はい]に設定 した場合にのみ変更できます。これらのオプションには[イン ストール時のプロンプト]の個別のチェックボックスはありま せん。グループとしての使用がこのオプションで制御されま す。

8.2 リポジトリ オブジェクトの選択

アプリケーションに含めるオブジェクトを指定するには、パッケー ジ保守ウィンドウのツールバーで[リポジトリオブジェクト選択]ア イコンを選択して、[リポジトリオブジェクト選択]ダイアログを開 きます。

リポジトリ・ツリーでパッケージに含めるオブジェクトを選択して、右側のパネルにドラッグします。

100 U#° ジ トUオブ ジ エクト選択	100 million (100 million)	
ø	XA	
VF_CO001 - Connect dialogue	フォームの名前	記述
VF_CO002 - Connect to Newloc	VF_SY152	Master Window
VF_GP001 - Wait Image		
VF_HE003 - Frameworks Help /		
VF_SY102 - Application Level T		
VF_SY152 - Master Window		
VF_UM001 - VL Main Form		
VF_UM002 - Standalone Progre		
VF_UM003 - Free Floating Form		
VF_UM017 - Application Definit		
VF_UM018 - Business Object Pr	- Server Properties	
VF_UM019 - Server PropertiesUM021	- Framework Prope	
VF_UM020 - User PropertiesF_UM031	- Command Proper	
VF_UM021 - Framework Propermos	- Online Assistant a	
VF_UM031 - Command Propert		
VF_UM034 - Online Assistant a		
VF_UM036 - Help About Dialog		
VF_UM041 - Menus		
VF_UM046 - Handle VF_UM012		
VF_UM048 - Change Password		
VF_UM050 - Owned Child versi		
VF_UM051 - Change Warning F		
VF_UM052 - Code Assistant		
VF_UM060 - Upload Details to I -		
× ×		
		OK(O) キャンセル
	100 P	

バージョンまたはパッチに含めることができるオブジェクトのタイプは 次のとおりです。

.NETコンポー ネント	ActiveX	ビットマッ プ	組み込み関数
ビジネス・オ ブジェクト	カーソル	外部リソー ス	フィールド
ファイル	フォーム	アイコン	リスト
メッセージ ファイル	メッセージ	複数言語変 数	LANSA以外の オブジェクト
タスクによる オブジェクト	プロセスとファン クション	再利用可能 パーツ	システム変数
テクノロジ・ サービス	アプリケーショ ン・テンプレート	ビジュア ル・スタイ ル	WAM
Webコンポー ネント	ウェブレット	Webサービ ス	

オブジェクト・タイプが異なると要件も異なります。したがって、8.2.1 選択されたオブジェクト・ビューアーパネルはオブジェクト・タイプに 合わせてフォーマットが変わります。例えば、プロセスとファンクショ ンの表示画面では選択項目がツリー形式で表示されますが、フォームの 画面ではリスト形式で表示されます。

オブジェクトの選択

リポジトリ・ツリーに表示されるオブジェクトは、英数字でグループ分けしたり(省略値)、アルファベット順のオブジェクト一覧で表示することができます。リポジトリ・ツリーでオブジェクト・タイプを右クリックすると、英数字のグループ分けのオン/オフが切り替わります。

🕨 ! フィールト	
▲ = 7ォーム アルファヘ゛ットでク゛ルーフ°化	
▷ _ # ▷ _ \$	

パッケージに表示する項目を選択するには、マウスと、Shift + Ctrlキー を使ってツリーの中の1つまたは複数の項目を選択し、右側の選択エリ アにドラッグ・アンド・ドロップします。あるいは、最下位のレベルで 項目をダブルクリックしても、その項目は選択されパッケージの中に入 れられます。

選択は「自己拡張」形式です。例えば、プロセス/ファンクションの ヘッダー項目を選択して右側のウィンドウにドラッグ・アンド・ドロッ プすると、ヘッダー項目内のプロセスとファンクションがすべて選択さ れたことになります。

同じツリー・レベルで複数の項目を選択できます。例えば、コンポーネ ントと、プロセス/ファンクションの両方を選択できます。選択した項 目を右側でドロップすると、選択したプロセス/ファンクションおよび コンポーネントがすべて選択されます。コンポーネントはコンポーネン ト・リストに追加され、プロセスとファンクションはプロセス/ファン クション・リストに追加されます。

オブジェクトの選択の詳細については、「8.2.1 選択されたオブジェクト・ビューアー」と「8.2.2 オブジェクト・タイプに関する特別の配慮」 を参照してください。

リポジトリ・オブジェクトの更新

リポジトリの変更(オブジェクトの追加や削除)は、[リポジトリオブジェクト選択]リポジトリ・ツリーに自動的に反映されません。リポジトリは、雪更新オプションを使用して手動で更新できます。

クロスリファレンス

クロスリファレンスにより、バージョンまたはパッチに含めるために明 確に選択されるオブジェクトの数を減らすことができます。ユーザー自 身のオブジェクトにクロスリファレンスを定義されることを強くお勧め します。

選択されたオブジェクトにクロスリファレンスを追加すると、選択され たオブジェクトに使用される適切な関連するオブジェクトを、生成処理 で自動的にユーザーのパッケージに含めます。詳細については、「省略 値のクロスリファレンスオプション設定」、「8.2.3 クロスリファレン ス設定」および「パッケージに含まれるオブジェクト」を参照してく ださい。 8.2.1 選択されたオブジェクト・ビューアー

パッケージに含めるために選択したオブジェクトは、[リポジトリオブ ジェクトの選択]ダイアログの右側のパネルに表示できます。

オブジェクトの表示画面で使用可能なツールバーのオプションは、使用 するオブジェクトのタイプによって異なります。

パッケージに以前に含まれていたオブジェクトがすでにローカル・リポ ジトリにない場合でも、マスター・リポジトリに存在することが分かっ ていれば、そのオブジェクトは マイコンで表示されます。

パッケージに以前に含まれていたオブジェクトがローカル・リポジトリ にもマスター・リポジトリにも存在しない場合、そのオブジェクトは? (疑問符)アイコンで表示されます。

反 リポジトリオブジェクト選択		1	
\$		X Å	
🕨 🕎 דרא	*	フォームの名前	記述
		VF_SY152	Master Window
ト D カーソル			
🕨 💐 システム変数			
🕨 📴 タスクによるオブジェクトの検索			
🕨 🗔 テクノロジー サービス			
▶ 國 テンプレート			
🕨 🛃 ビジネス オブジェクト			
🕨 彦 ビジュアル スタイル			
🕨 💼 ビットマッフ			
📕 🕨 🔚 ファイル	-		
	•		
		(
			OK(O) Fryzh

使用可能なツールバーのオプションは、オブジェクトのタイプに関連し ます。

このオプションはすべてのオブジェクト・タイプに使用できます。 オブジェクトの選択を解除する(パッケージに含まれないようにす る)には、選択したオブジェクト・リストでオブジェクトを強調表 示して削除アイコンを押します。 プロセスを削除するとファンクションもすべて削除されます。

- このオプションはフィールド、ファイル、フォーム、プロセス、 ファンクション、再利用可能パーツ、システム変数、WAMおよび ウェブレットに使用できます。 ツールバーの[クロスリファレンス]オプションを選択し、特定の パッケージのオブジェクトにクロスリファレンスを追加します。詳 細については、「8.2.3 クロスリファレンス設定」を参照してくだ さい。
- 💉 このオプションはファイルにのみ使用できます。

配布にファイルと一緒にデータを含め、そのデータを、既存のファ イル・データを考慮してどのようにロードするかを制御することが できます。必要なファイルを強調表示し、ツールバーの[ファイ ル・データの含有]アイコンを選択し、適切なドロップダウン・エ ントリーを選択してデータのアンロードとロードの方法を定義しま す。

詳細については、「ファイル・データの含有および処理」を参照 してください。

- このオプションはファイルにのみ使用できます。 ファイルが配布される時に適用されるライブラリ(その後はコレクションとオーナー)を表示します。 詳細については、「ファイル・ライブラリの置換」を参照してください。
- このオプションは、LANSA以外のオブジェクトやメッセージにの み使用できます。
 [その他のオブジェクト]リストでLANSA以外のオブジェクトまた はメッセージを選択し、ツールバーで[検索]オプションを使用して 適切なダイアログを開き、パッケージに含めるオブジェクトを検索 して選択します。
 選択されたオブジェクトは、最初にDFTPATHにインストールする ように割り当てられます。DFTPATHは、何も指定しなければ区画 実行ディレクトリ(例:/x_ppp/EXECUTE。pppは区画)に設定さ れます。
- このオプションは、LANSA以外のオブジェクトにのみ使用できます。
 別の場所にオブジェクトをインストールするには、必要なオブジェ

クトを強調表示して、ツールバーの[導入パスの設定]オプションを 選択します。[導入パスの定義]ダイアログが開き、8.2.6 LANSA以 外のオブジェクトの導入パスの構成ができます。 8.2.2 オブジェクト・タイプに関する特別の配慮

どのオブジェクトを配布する必要があるのかを理解することが重要で す。これは、配布先の環境によって異なります。また、オブジェクトが どのようにしてコンパイル済みオブジェクトにバインドされるのかをあ る程度把握する必要があります。

次のリストは、オブジェクトを選択して含める場合のガイドラインで す。すべてのオブジェクト・タイプがこの表に記載されているわけでは ありません。特別な配慮が必要なオブジェクトのみです。

組み込 Visual LANSAの命名規則に従っていれば、パッケージを生み関数 成する時に、ユーザー定義の3GL組み込み関数に関連する DLLが自動で検出されます。 RDMLユーザー定義組み込み関数を選択して、内部定義の 配布を有効にすることができます。関連付けられた関数 は、パッケージに手動で追加する必要があります。 関連付けられたDLLは、 設定の[実行環境アドオンの配布] を選択すれば、パッケージに含められます。

- エディ エディター・リストを選択すると、エディター・リストに ター・ 現在含められているすべてのオブジェクトがパッケージが
 - リスト 保存される時にパッケージに含められます。 パッケージを保存すると、個々のオブジェクトは保存され ますが、選択されたエディター・リストはオブジェクトと
 - して含められません。エディター・リストの変更を取得す るには、エディター・リストを再度パッケージに追加する 必要があります。
- フィー フィールド定義は、アプリケーションにLANSAリポジトリルド のヘルプ機能を使う時のみ、アプリケーションと一緒に配布する必要があります。
- ファイ アプリケーションのインストールの一部として設定される ル Windowsのデータベースにアプリケーションがアクセスす る場合、ファイルを含める必要があります。

 ファイル・データも含めることができます。詳細については、「ファイル・データの含有および処理」を参照してください。

外ッ メッセージは、言語、メッセージ・ファイル、メッセージ セージ IDの最初の3文字でグループ化されています。

ツールバーの[検索]アイコンのを使用するか、ツリーで LANSA以外のオブジェクトをダブルクリックし、必要な メッセージを見つけて選択します。

メッセージは、別の開発環境にのみ配布します。

- メッ メッセージ ファイルは、別の開発環境に配布する場合にの セージ み選択する必要があります。 ファイ ル
- ▲ 複数言 言語変数がアルファベット順にグループ化されている場語変数 合、その複数言語変数は、複数言語変数名の接頭辞*MTXTの後の最初の英字でグループ化されます。 Visual LANSAでは、複数言語変数はアプリケーションDLLにコンパイルされています。複数言語変数を配布する必要はありません。ただし、別の開発システムに配布する場合や、複数言語変数が実行時に解決されるWebアプリケーションをサポートする場合を除きます。
- ▲ LANSA LANSA以外のオブジェクトとは、ActiveXなどのサード・ 以外の パーティ・ソフトウェアやパラメータ・ファイルなどで オブ す。
 - ジェク
 Visual LANSAに関連付けられているLANSA以外のオブジェ
 クトの明確なセットはないため、ツールバーで[検索]アイ コンペを使用するか、ツリーで[LANSA以外のオブジェクト]をダブルクリックして[検索]ダイアログを有効にし、必要なオブジェクトを見つけて選択します。
 LANSA以外のオブジェクトの導入先を制御する方法については、「LANSA以外のオブジェクトの構成」を参照してください。
- タスク タスクを選択すると、そのタスクの下で変更されたすべてのオブ のオブジェクトがパッケージにすぐに含められます。タス
 - ジェク クを解除するとオブジェクトは解除されます。
 - ト ステータスがオープン、実行中、クローズのタスクはパッ ケージに追加できます。

注 - パッケージを保存すると、個々のオブジェクトは保存 されますが、選択されたタスクはオブジェクトとして含め られません。

- ✓ プロセ ファンクションは、プロセスの子項目として選択できま スと す。プロセスを選択した場合、すべてのファンクションが ファン 自動で含められます。ファンクションを1つだけ選択した場 クショ 合は、そのプロセスが自動で含められます。 ン
- システ 通常、システム変数はWebアプリケーションを配布する場 ム変数 合にのみ含めます。プロセス関連の変数は、プロセスと ファンクションのクロスリファレンスの一部としてセット アップします。パッケージを生成するときにプロセス関連 の変数を自動で含めることができます。 リスト・グラフィカル変数関連のシステム変数は手作業で 含める必要があります。
- ☞ テクノ 標準のテクノロジー・サービスは、テクノロジ・プロバイ ロジ・ ダLANSAで定義されます。 サービ ス
- アプリ アプリケーション・テンプレートを配布に含める必要があ ケー るのは、別のLANSA開発環境へ配布する場合のみです。ア ショ プリケーション実行のみのパッケージを配布する場合は、 ン・テ アプリケーション・テンプレートを含める必要はありませ ンプ ん。 レート
- ✿ WAM WAMを選択すると、省略値のレイアウトのWAMのウェブ レットが自動でパッケージに追加されます。

注 - パッケージを生成すると、([開発環境に配布]が選択されなければ)選択したオブジェクトに関連付けられたDLLがパッケージに自動で含められます。

8.2.3 クロスリファレンス設定

クロスリファレンス設定は、定義の際にほかのLANSAオブジェクトを参照するオブジェクト・タイプの[リポジトリ・オブジェクトの選択]ダイアログにあります。これにより、特定のオブジェクト・タイプを選択して、パッケージ生成時に「関連する」オブジェクトを自動で含めることができます。 オブジェクト・タイプにクロスリファレンスが利用できる場合、[リポジトリオブジェクトの選択]ダイアログの[選択されたオブジェクト]パネルのツールバーに[クロスリファレンス]アイコンが表示されます。

クロスリファレンス・アイコンをクリックすると、[クロスリファレン ス設定]ダイアログが開きます。

■ クロスリファレンス設定	
VF_CO001 - Connect dialogue	 ✓ コンポ[*]ーネント
	□ 7ルト [*]
	▼ 7711
8	▼ 7ァイルデ [*] -ダ
	☑ プロセス ファンクション
	✓ システム変数
	■ 言語変数
	☑ 関連オブジェクトの選択
	OK(O) 全てを選択 全てを解除 キャンセル

[クロスリファレンス設定]ダイアログの左側には、パッケージに対して クロスリファレンスを適用するパッケージ・オブジェクトが表示されま す。ダイアログの右側には、利用可能なクロスリファレンスのオブジェ クト・タイプが表示されます。クロスリファレンスされたオブジェクト は生成プロセスの際にパッケージに含まれ、トップダウン形式で適用さ れます。つまり、選択されたパッケージ・オブジェクトに直接使用され るオブジェクトのみ、クロスリファレンス設定を使用してパッケージに 含むことができるということです。

選択したオブジェクトにすでに適用されたクロスリファレンスの設定が ある場合、その設定がチェックボックスに反映されて表示されます。設 定に矛盾がある場合、例えばあるオブジェクトに対しあるオブジェク ト・タイプが選択されているが、同じオブジェクト・タイプがそれ以外 のオブジェクトに対して選択されていない場合などは、クロスリファレ ンスのチェックボックスの色が灰色に変わります。

☑ コンポーネント
□ 7ィールト [*]
▼ 7ァイル
☑ ファイルデータ
☑ プロセス ファンクション
☑ システム変数
■ 言語変数
☑ 関連オブジェクトの選択

選択されたオブジェクトに関連するオブジェクト・タイプの選択に加 え、以下のことが可能です。

ファイルデータを含む

クロスリファレンス・オブジェクトとしてファイルを含むことが可能な 場合、ファイルデータを含むオプションも使用可能になります。このオ プションは、ファイルオプションが選択されていなければ、何の効果も ありません。

カスケードの選択

カスケードの選択を行うと、クロスリファレンス・オブジェクトとして 含まれるオブジェクトはそれがクロスリファレンスするオブジェクトも 含めるというような調整効果があります。

配布ツールの「省略値のクロスリファレンス設定」で以下を選択したとします。

[オプションのプロンプト]

[クロスリファレンス]ダイアログは、オブジェクトの追加後に[リポジトリオブジェクトの選択]で[OK]を押すと自動的に表示されます。複

数のオブジェクト・タイプ(例:フィールド、ファイルなど)に[オプ ションのプロンプト]が選択されている場合、オブジェクト・タイプ ごとにクロスリファレンス・オプションのプロンプトが表示されま す。各[クロスリファレンス]ダイアログで[OK]を押すと、選択したす べての設定が、左側に表示されているすべてのオブジェクトに適用さ れます。オブジェクトにクロスリファレンスを適用せずにダイアログ を終了するには、[キャンセル]を押します。

[省略値のオプションを適用]

[リポジトリオブジェクトの選択]ダイアログでパッケージに含めるオ ブジェクトを選択し、[OK]を押して選択を確定した場合、クロスリ ファレンス情報はすぐにオブジェクトに適用されます。オブジェクト の選択を解除する(削除アイコンを使用して、選択したオブジェクト から削除する)とクロスリファレンスも削除されます。

クロスリファレンスがオブジェクトに適用されると、オブジェクトの 選択ダイアログに青色のチェックマークで表示されます。

× %	
7~11~名	記述
SALARY	社員給与
SECTION	課コード
, 🥺 SKILCODE	資格コード
, 🧐 SKILDESC	資格記述

パッケージが生成される時にクロスリファレンス・オブジェクトが評価 されます。クロスリファレンス・オブジェクトとしてパッケージに含ま れるオブジェクトは、明示的に選択されたオブジェクトとは区別するこ とができます。そのため、次回パッケージを開いたときに選択されたオ ブジェクトは同じになります。

詳細については、「省略値のクロスリファレンスオプション設定」および「パッケージに含まれているオブジェクト」を参照してください。

8.2.4 ファイル・データの含有および処理

★ [ファイル・データの含有]オプションを使って、ファイルを配布する時にファイル・データを含めるか、ファイルがすでにある場合は、新しいファイル・データとの関連で、既存のファイル・データをどのように管理するかを決定します。

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□			
¢	X 📥 📑	 @	
FPDOC - DC@DEMOLIB FPNOTE - DC@DEMOLIB FPTAB - DC@DEMOLIB - LZ2C - DC@DEMOLIB - LZ2E - DC@DEMOLIB - LZ2I - DC@DEMOLIB - LZ2P - DC@DEMOLIB - LZ2W - DC@DEMOLIB - SELEVENT - DC@DEMOLIB PSLIMG - DC@DEMOLIB PSLIMG - DC@DEMOLIB PSLSKL - DC@DEMOLIB SECTAB - DC@DEMOLIB	ファイル名 ■ PSLIMG	デ [*] -9を除外 デ [*] -9を含める デ [*] -9を含む(新規ファイルのみ) デ [*] -9を含む(既存のファイルのみ)	ライフ* シリ 置換 既存データを読み飛ばす 重複するものを置換 重複するものを無視
			<mark>OK(O)</mark> キャンセル

使用可能な処理オプションは、以下のとおりです。

パッケージにファイル・データは含まれません。 ファイルが既に存在する場合、すべてのデータが削 除されます。
パッケージにファイル・データは含まれません。 ファイルが既に存在する場合、すべてのデータが保 持されます。 これが省略値のオプションです。

[データを含 める]、[既存 データを読み 飛ばす]	パッケージにファイル・データが含まれます。ファ イルが既に存在する場合、すべてのデータが削除さ れ、パッケージのデータがロードされます。
[データを含 める]、[重複 するものを無 視]	パッケージにファイル・データが含まれます。ファ イルが既に存在する場合、すべてのデータが保持さ れ、パッケージのデータがロードされます。パッ ケージ・データの重複しているレコードは無視され ます。
[データを含 める]、[重複 するものを置 換]	パッケージにファイル・データが含まれます。ファ イルが既に存在する場合、すべてのデータが保持さ れ、パッケージのデータがロードされます。パッ ケージ・データの重複しているレコードは既存のレ コードを置換します。
[データを含 む(新規ファ イルのみ)]	既存のファイルがない場合、ファイルデータはパッ ケージに含められ、インストールされます。
[データを含 む(既存の ファイルの み)]、[既存 データを読み 飛ばす]	ファイルデータはパッケージに含められますが、既 存のファイルがある場合にのみインストールされま す。既存のファイル・データは再ロードされませ ん。
[データを含 む(既存の ファイルの み)]、[重複す るものを置 換]	ファイルデータはパッケージに含められますが、既 存のファイルがある場合にのみインストールされま す。既存のファイル・データは、新しいファイル・ データの前に再ロードされます。
[データを含 む(既存の ファイルの み)]、[重複す るものを無 視]	ファイルデータはパッケージに含められますが、既 存のファイルがある場合にのみインストールされま す。既存のファイル・データは、新しいファイル・ データの後に再ロードされます。

8.2.5 ファイル・ライブラリ代替の設定

[ライブラリ代替の設定]オプションを使ってファイルをインストー ルするライブラリを割り当てます。ライブラリ代替は対象のデータ ベースの中の表に適用されるコレクションとオーナーのプロパティ も決定します。

┋ ファイル ライブラリ代替		×
代替ID	517 51	
PARTDTALIB	*PARTDTALIB	
PARTLIB PARTPGMLIB	*PARTLIB *PARTPGMLIB	
	ライブラリの選択	閉じる (C)

ファイルをパッケージに追加する際、省略値のライブラリ代替が取り出 され、ファイルのプロパティと保存された設定に基いて割り当てられま す。

- LANSA V13以前にコンパイルされたファイルと外部ファイルには、自動的にライブラリ代替としてPARTLIBが割り当てられます。これはファイルが区画レベルにインストールされる必要があることを示しています。
- LANSA V13およびそれ以降のバージョンでコンパイルされたファ イルと外部ファイルには、自動的にライブラリ代替として PARTDTALIBが割り当てられます。これはファイルが区画デー タ・ライブラリ・レベルにインストールされる必要があることを 示しています。

次の省略値のライブラリ代替は自動的に作成されます。(上記の制限に 従う場合は)選択してファイルに適用することはできますが、変更はで きません。

ライブラリ代 替	評価結果

PARTLIB	ファイルは区画レベルにインストールされます。 例:C:\Program Files\LANSA\ \X_WIN95\X_LANSA\X_DEM ライブラリ、コレクションおよびオーナーの情報 は、パッケージに含まれるOAMとCTDのファイルか ら取り出されます。
PARTDTALIB	ファイルは区画レベルにインストールされます。 例:C:Program Files\LANSA\ \X_WIN95\X_LANSA\X_DEM\<*PARTDTALIBの決 定された値> ライブラリ、コレクションおよびオーナーの情報 は、*PARTDTALIBの決定された値から取り出され ます。
PARTPGMLIB	ファイルは区画レベルにインストールされます。 例:C:Program Files\LANSA\ \X_WIN95\X_LANSA\X_DEM\<*PARTPGMLIBの決 定された値> ライブラリ、コレクションおよびオーナーの情報 は、*PARTPGMLIBの決定された値から取り出され ます。

8.2.6 LANSA以外のオブジェクトの導入パスの構成

11 オプションを使用して、設定する導入パスを設定し、LANSA以外のオブジェクトをインストールする導入先ディレクトリを構成します。

Installation Path	Definitions
Installation Path Id APPDIR DFTPATH TEMP	Installation Path %ProgramFiles%\ApplicationName *PART_DIR_EXECUTE c:\temp
	Select path <u>C</u> lose

パッケージに追加されたLANSA以外のオブジェクトは、すべて DFTPATHディレクトリにインストールするように自動で設定されま す。DFTPATHは、アプリケーションをインストールする区画実行ディ レクトリに相当します。このパスは変更または削除しないでください。 別の導入パスを割り当てるには、オブジェクト・ビューアーでLANSA 以外のオブジェクトを選択し、[導入パスの設定]オプション¹¹を使用し て、必要な導入パスを選択(作成または変更)します。 導入パスを作成するには、以下の操作を行います。

ステッ プ	方法
1 導入パス を作成また は修正	[導入パスの定義]で、 使用するパスを選択するかパス を作成して [導入パスを新たに定義] ボタンを押すと、 ▶[他のパスの保守] ダイアログが開きます。
2 導入パス を定義する	[他のパスの保守]ダイアログで、導入パスの作成と保 守、さらに1つまたは複数のオブジェクトに導入パス を選択することができます。

	Other Path Maintenance	X
	Installation Path Id Installation Path	Partition execute directory
		Partition execute directory Partition object directory Partition source directory Partition Directory Partition Directory Partition drive
	導入パス ID	
	パスの特定に使用 す。導入パスのID 字にします。途中 導入パス	する名前を指定する必要がありま は8文字以下で、最初の文字を英数 にブランクを入れてはいけません。
	目的のパスはフリ 可能なパスのドロ す。	ーフォーマットで入力するか、使用 ップダウン・リストから選択しま
	環境変数を使用し ようになります。 は、c:\Program Fil これらの変数は検 しいことと、ター 確認する必要があ 致しない環境変数 のコピーのインス	てパスを特定できます。例えば次の %ProgramFiles%\LANSA es\LANSAのように評価されます。 証されません。そのため、変数が正 ゲット・システムに存在することを ります。ターゲット・システムで一 がある場合、ファイルとパッケージ トールが失敗します。
3 導入パス を保存する	<i>[OK]</i> を押してパス 義]ダイアログに序	情報を保存します。[導入パスの定 ります。

あらかじめ設定された導入パスの値のリストは、以下のシステム変数に 相当します。

導入パス	評価結果
[区画実行 ディレクトリ]	*PART_DIR_EXECUTE
[区画オブジェクトディレクトリ]	*PART_DIR_OBJECT
[区画ソース・ディレクトリ]	*PART_DIR_SOURCE

[区画ディレクトリ]	*PART_DIR
[区画ドライブ]	*PART_DRIV
[システム実行ディレクトリ]	*SYS_DIR_EXECUTE
[システム・オブジェクト・ディレクトリ]	*SYS_DIR_OBJECT
[システム・ソース・ディレクトリ]	*SYS_DIR_SOURCE
[システム・ディレクトリ]	*SYS_DIR
[システム・ドライブ]	*SYS_DRIV
[Tempディレクトリ]	*TEMP_DIR

対応するシステム変数が参照する実際のディレクトリを決定するには、 『Visual LANSA ユーザーガイド』で説明されている、関連LANSAシス テムの「製品情報」の中の「インストール明細」で、[ディレクトリ]の ブランチを確認してください。

8.3 設定

パッケージ保守ウィンドウのツールバーまたは[パッケージの編集] メニューの[設定]を選択します。

[設定]の各オプションにより追加の処理が決定します。追加の処理は パッケージ生成処理の一部として実行されます。選択された各オプショ ンに応じて、特定のパーツが最終生成パッケージに追加または除外され ます。


クライア ント サ ポートを 配布]	カル・データベースをサポートする場合だけです。 生成処理で特別な処理*CLTEXPORTを実行します。
[データ ベースが ないクラ イアント へ配布]	このオプションは、ほとんどのクライアント/サーバー のアプリケーションに推奨されます。 生成処理で特別な処理 *SYSEXPORTを実行します。 このオプションを選択して、アプリケーションの実行に 必要な*.XQ*ファイルを含めます。.XQ*ファイルは、プ ロンプト、表示ヘルプ・テキストなどの読み取り専用 ディクショナリ/リポジトリにアクセスするためのロー カルDBMSの代わりに使用されます。 DBID=*ANY、DBID=*AS400、DBID=*OTHER、 DBID=*NONE、DBII=*NONEを使用してアプリケー ションを実行するPCの場合、特別な.XQ*ファイルを作 成またはインストールするか、接続するサーバーのディ スク・ドライブから利用できるようにする必要がありま す。
	詳細については、『LANSA テクニカル リファレンスガ イド』の「*.XQ ファイル」を参照してください。
[開発環境 へ配布]	このオプションは、選択したオブジェクトのリポジトリ 定義一式を含める場合に選択します。 このオプションは、パッケージに実行アプリケーション が入っている場合は必要ありません。ファンクションと コンポーネント・ソース、フィールドとファイル定義、 タスク追跡の詳細、クロスリファレンス情報、その他の LANSAオブジェクトなど、LANSAの内部オブジェクト の定義を配布する手段として考えます。 このオプションを選択するとMSIが生成され、生成処理 時に無視されます。MSIやMSPファイルは作成されませ ん。定義は\X_PKGWRK\1.0.0\Build\internalディレクト リからインポートする必要があります。詳細について は、「LANSA インポート」を参照してください。
[システム 定義の配 布]	LANSA内部データベースにシステム定義テーブル (LX_F96)およびその他のシステム関連の詳細を含めてエ クスポートします。これらのテーブルの情報はアプリ

	クーション美们時に必要となります。 このオプションは、新規データベースまたは新規システ ムにパッケージを導入する場合に選択します。
[区画定義 の配布]	LANSA内部データベースに区画定義テーブル (LX_F46)、区画言語テーブル(LX_F60)およびその他の区 画関連の詳細を含めてエクスポートします。これらの テーブルの情報はアプリケーション実行時に必要となり ます。
	このオプションは、新規データベースまたは新規システ ムにアプリケーションを導入する場合に選択します。
[オブジェ クト定義 を含めな い]	選択したオブジェクトのLANSA内部データベース定義 (LX_F02、LX_F03、LX_F04、LX_F62を含む)はエクス ポートしません。これにより内部定義を含めずにパッ ケージを搭載することができます。
	[開発環境へ配布]を選択するか、またはファイルを配布 する場合、このオプションを選択しないでください。 オブジェクトの定義が必要とされるのは、開発環境へ配
	布する時、ファイルを配布する時、または実行時に内部 データベースの定義にアクセスする必要のあるデータ ベースを使用するシステムへ配布する場合です。
[実行環境 データ	LANSAデータベース・サポートのイメージのコピーを パッケージに含めます。
ベース・ サポート の配在1	この設定が必要なのは、アプリケーションがローカル・ データベースにアクセスする必要があるときです。
נינ _{רר} קרע	一度アプリケーションを配布すると、以降の「アップグ レード」パッケージに実行データベース・サポートを含 める必要はありません。ただし、LANSAバージョンが 大きくアップグレードされる場合を除きます。
[実行環境 アド オン の配布]	MAPIサポートがパッケージに含められます。通常、使 用するアプリケーションに電子メール機能が組み込まれ る場合にのみ含められます。
	一度アプリケーションを配布すると、以降の「アップグレード」パッケージに実行アドオンを含める必要はあり

	レードされる場合を除きます。		
[Visual LANSAサ ポートの 配布]	Visual Lansaサポートの実行環境イメージのコピーを パッケージに含めて、パッケージ導入時にインストール します。 このオプションは、Visual LANSAコンポーネントを実行 するすべてのアプリケーションに必須です。 一度アプリケーションを配布すると、以降の「アップグ レード」パッケージにコンポーネント・サポートを含め る必要はありません。ただし、LANSAバージョンが大 きくアップグレードされる場合を除きます		
[ウェブ環 境のサ ポートの 配布]	LANSA for the Web on Windows実行環境の導入イメージ のコピーをパッケージに含めて、パッケージ導入時にイ ンストールします。 このオプションは、LANSAのWebアプリケーションを実 行するすべてのアプリケーションに必須です。		
[LANSA コミュニ ケーショ ン機能の 配布]	Lansa通信エクステンションの実行環境イメージのコ ピーをパッケージに含めて、パッケージ導入時にインス トールします。LANSAスーパーサーバーのクライアン ト・アプリケーションに必要なすべてのサポートを含み ます。 このダイアログの[サーバー・サポートの配布]オプショ ンが選択された場合、このオプションは、すべてのクラ イアント/サーバー・アプリケーションに必要です。 一度アプリケーションを配布すると、以降の「アップグ レード」パッケージにLANSAコミュニケーション機能 を含める必要はありません。ただし、LANSAバージョ ンが大きくアップグレードされる場合を除きます。		
[サーバー 機能の配 布]	Lansaコミュニケーション・サーバー・サポートの導入 イメージのコピーをパッケージに含めて、パッケージ導 入時にインストールします。 リモート・クライアントからLANSAスーパーサーバー 接続を受け付けるサーバー・システムにパッケージを導 入する場合にのみ、このオプションを選択する必要があ ります。このオプションを選択した場合、このダイアロ グで[LANSA コミュニケーション機能の配布]オプション		

	も選択する必要があります。 一度アプリケーションを配布すると、以降の「アップグ レード」パッケージにサーバー・サポートを含める必要 はありません。ただし、LANSAバージョンが大きく アップグレードされる場合を除きます。
[翻訳リス トを含め る]	LANSAオブジェクト関連情報の翻訳を容易にする特殊 なオプションです。通常、アプリケーションの開発サイ クルで使用され、オブジェクト情報を翻訳者に配信しま す。 このオプションを選択すると、選択したオブジェクトの LANSA内部定義がフラット・ファイル(TL*.DATファイ ルなど)に保管され、翻訳するアプリケーションととも に提供されます。翻訳パッケージは、既存のLANSAシ ステムにインストールします。翻訳者は、翻訳ダイアロ グを開いて翻訳を完了させることができます。翻訳が終 了するとデータはzip圧縮されて開発者に戻され、Visual LANSAの[ツール]メニューにある[翻訳のインポート] コマンドを使ってロードし、システムに戻されます。 詳細については、「LANSAで開発したアプリケーショ ンの翻訳」を参照してください。
[コンパイ ルされて ジェクト を含めな い]	このオプションを選択すると、パッケージ・ビルダーは 選択したLANSAオブジェクトの実行可能オブジェクト をパッケージにコピーしません。 このオプションを選択した時に、データの入ったファイ ルがパッケージの中に含まれていると生成処理は失敗し ます。 注 - この設定は、別の開発環境に配布するときにだけ使 用します。このオプションと一緒にこのダイアログの [開発環境へ配布]が選択されている場合、内部データを ロードする時に、すべてのファイルが含まれていれば、 自動的にそのファイルのライブラリで導入先区画のデー タ・ライブラリが更新されます。
[区画全体 のエクス ポート]	オブジェクトの選択に関係なく、区画内のすべての定義 をLANSA内部データベースに含めてエクスポートしま す。

A - これは、すべてのオフシェクトの定義にけを配布す るオプションです。実行するためにオブジェクトを配布 する場合は、オブジェクトを別に選択する必要がありま す。

8.4 アプリケーション・アイコン

[アプリケーション・アイコン・セレクタ]により、Windowsパッケージ 保守ウィンドウと、アプリケーションがインストールされているコン ピュータでデスクトップ・ショートカットに使うアイコンを選択するこ とができます。

[アプリケーション・アイコン・セレクタ]を開くには、パッケージ 保守ウィンドウのツールバーから[アイコン]ツールを選択します。

🔊 እንግስት-እዳንъረጉን ፍሎንት	X
O:\ICONS\ALL ICONS\007-START.ICO	🔶 .
省略值(U)	<u>OK(O)</u> キャンセル

アイコンを選択すると、画面イメージにあるようにダイアログの右にア イコンが表示されます。

LANSAの省略値のアイコンを選ぶには、[省略値]をクリックしてください。

パスとアイコン名を入力するか、 開ボタンを使用してプロンプトを表示 すると、アプリケーションで使用するアイコンを検索する共通ファイル のダイアログが開きます。

📔 Select			- 1		X
O ⊂ ↓ ≪ Icons ↓	All Icons		▼ 4 9 S	earch	Q
🌗 Organize 👻 🏭 Views	👻 📑 New	Folder			0
Favorite LinksImage: DocumentsImage: DesktopImage: DesktopImage: Recent PlacesImage: DesktopImage:	Name ○ 001-doc_1 ○ 001-folder ○ 002-folder ○ 003-folder ○ 003-folder ○ 005-folder ○ 005-folder ○ 007-folder ○ 007-star.ic ○ 009-folder ○ 009-paste. × 010-cut_1.	Date modified .ico .ico .add.ico .delete.ico .app.ico .doc.ico .doc.ico .favorites.ico o .font.ico .music.ico ico	Туре	Size	
Folders	010-folder	_stat.ico	•	Icons (*.ico)	T Cancel

必要なアイコンを選択したら、[開く] ボタンを押して、[アプリケー ション・アイコン・セレクタ]ダイアログに戻ります。選択したアイコ ンは、パスの右に表示されます。

8.5 X_RUN 引数

パッケージが生成されると、導入オプションのX_RUN 引数が起動ファ イルに組み込まれます。パッケージ保守ウィンドウに表示されているオ プションは最も一般的な引数です。しかし、その他にもパッケージに含 めて実行時のアプリケーションの動作を変えられる設定があります。

このようなその他の設定は、[X_RUN引数]ダイアログ・ボックスで 入力することができます。このダイアログを開くには、パッケージ 保守ウィンドウのツールバーから、[X_RUN 引数]アイコンを選択し ます。

	■ X_RUN引数					
	X_RUN引数					
1	HELP=WIN					
2	LOGO=Y					
3	XAFP=[Y /Echange all field/AXFP]					
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						
12	-					
	OK(O) キャンセル					

新たに追加する引数は、X_STARTファイルで使用するフォーマットと同じように入力する必要があります。

ここに入力された引数は、X_STARTファイルの、プロンプトされる自動 的に作成されたエントリーの後に、アルファベット順に追加されます。 したがって、プロンプト可能なパラメータを使うと、自動的にプロンプ トされるパラメータの後にプロンプトが表示されます。

詳細については『LANSAテクニカル・レファレンス・ガイド』の「フロ ントエンドのX_STARTでX_RUNを実行」を参照してください。

8.6 実行するコマンド

パッケージをターゲット・コンピュータにインストールする前と後で、 入力したコマンドを使ってオペレーティング・システム・レベルのコマ ンドを実行することができます。

▶ [実行するコマンド]ダイアログを開くには、パッケージ保守ウィンドウのツールバーで、[実行するコマンド]アイコンを選択します。

🙀 実行するコマンド 🛛 🔀 🕺						
× 4	\chi 😡 S:¥COMMAND4.TXT 🚥					
導入前に実	ミ行するコマント	導入後に実行す	まるコマント			
順序	ステータス	37215	パゔメーター			
1.00	*		Copy BIF dlls	=		
2.00	ALL	COPY	"%dirp%execute/ubif985.dll" "%dirl%execute/ubif985.dll"			
3.00	ALL	COPY	"%dirp%execute/ubif987.dll" "%dirl%execute/ubif987.dll"			
4.00						
5.00						
6.00						
7.00						
8.00						
9.00						
10.00						
11.00						
			<mark>ОК(Q)</mark> ++>>セル			

パッケージの導入前と導入後に実行するコマンドの入力には、別々のタ ブが作成されます。

[導入前に実行するコマンド]タブを選択して、インストール前に実行するコマンドを入力します。

[導入後に実行するコマンド]タブを選択して、インストール後に実行するコマンドを入力します。

関連するタブで必要なコマンドを入力/修正してください。

コマンドの入力が完了したら[OK]ボタンを押します。コマンドはパッケージが保存される際に更新されます。

- 洋 現在開いているタブからすべてのコマンドを消去します。
- ・
 現在開いているタブに、関連するテキストボックスに指定されたタブ区切りファイルからコマンドをインポートします。

☆重要 -パッケージをインストールするときは、正しくインス トールするとともに、LANSAのインストール処理の前後で実行 するコマンドを正しく順番どおりに処理する必要があります。

以下の表は、条件と使用可能なコマンドの一覧です。 8.6.1 コマンドの実行管理条件 8.6.2 有効なコマンドとパラメータ 8.6.3 コマンド・パラメータの有効な置換変数 実行するコマンドを使用する場合のヒント

- 解決時にディレクトリやパスのようなタイプの値にブランクが埋め 込まれている場合、LANSAインポートは実行エラーとなります。この問題を回避するには、値を二重引用符で囲みます。
 例: "%dirp%execute"
- コマンドMD (ディレクトリの作成)を含める場合、すべての中間ディレクトリが必要です。例えば、現在はc:\Program Filesのみという前提でディレクトリc:\Program Files\MYAPP\other objectsを作成する場合、コマンドを以下のように入れる必要があります。

MD "c:\Program Files\MYAPP"

MD "c:\Program Files\MYAPP\other objects"

8.6.1 コマンドの実行管理条件

- 条件意味否定条件 コメン*コメント行該当なし 行は無
 - 視され る
- ALL 常に真 該当なし
- OSENG オペレーティング・システムの言語が英語 NOSENG Win 32 環境の み
- OSFRA オペレーティング・システムの言語がフラ NOSFRA Win 32 ンス語 み
- OSJPN オペレーティング・システムの言語が日本 NOSJPN Win 32 語 環境の

み

- UNIX オペレーティング・システムがUNIX NUNIX
- WIN オペレーティング・システムがWindows(す NWIN べてのバージョン)
- WIN32 オペレーティング・システムがWindows 32 NWIN32 ビット
- WIN95 オペレーティング・システムがWindows NWIN95 9X/98
- WINNT オペレーティング・システムがWindows NWINNT NT

8.6.2 有効なコマンドとパラメータ

- コマンド パラメー コメント タ
- ABORT メッセー 指定したメッセージを表示して実行を終了 ジ・テキ する スト
- ATTRIB ファイル 名
 - 属性指定したファイルの属性を変更する属性の指定は、+r、-rのみ
- CLOSE None (な オープンしている出力ファイルをクローズ し) する
- COPY 元ファイ 指定したファイルをコピーする ル

- COPYGROUP ファイル ジェネリック名とジェネリック・タイプを 拡張子 使ってファイルをグループ単位で導入先 導入先 ディレクトリにコピーする ディレク トリ
- DEL ファイル 指定したファイルを削除する 名

EXECFATAL .EXEファ 指定したパラメータで指定したファイルを イル名 実行するEXECUTEコマンドと同じ。ただ パラメー パラメー タ し、アプリケーション実行中に発生したエ ラーは致命的エラーとみなされる。 (EXECUTEコマンドでは警告)。エラーは、 「ファイルが見つかりません」などのアプ リケーション開始中のエラーか、またはア

プリケーションからの終了コード(Windows

プラットフォームに関する詳細は、 MicrosoftのマニュアルでCreateProcess関数 とGetExitCodeProcess関数を参照のこと)

EXECUTE .EXEファ 指定したパラメータで指定したファイルを イル名 実行する パラメー

FNEXTEXPR ファイル NEXTEXPRのとおり。ただし、質問により 名 インポートを強制する

LAUNCH プロセス LANSAプロセス、およびファンクション 注 - システム用 ^名の実行を開始する

- に予約されたコ ファンク マンド ション名
- LAUNCHFORM フォーム LANSAフォームの実行を開始する 注 - システム用 名 に予約されたコ
- マンド
- MD ディレク 指定したディレクトリを作成する トリ名
- MESSAGE メッセー ログに指定したメッセージを表示する ジ・テキ スト
- NEXTEXPR ファイル 次のインポートを列に並べる 名
- NOPARTWARN None (な 別区画の警告メッセージを無効にする し)
- 開く ファイル 指定したファイルを出力ファイルとして 名 オープンする
- QUESTIONn 質問のテ メッセージ・ボックスに質問(1から9まで) キスト を挿入する
- RD ディレク 指定したディレクトリを削除する

トリ名

ROLLSET *YES インポート時にレコードのロール・セット にフラグを設定する。このコマンドは、省 *NO 略値のウェブ・ページに対応するため実装 されたが、別タイプのファイルにも使用で きる

SCANREP 検索文字 データをインポートして「検索文字」を 注 - システム用 置き換え に予約されたコ 後の文字 マンド
ダククク
そのからの
そのか

SYSTEM システ 指定したシステム・コマンドを実行する ム・コマ ンド

USEPART *SOURCE 設定区画はエクスポート元の区画とする

*INITIAL 設定区画はインポート開始時にユーザーが 指定する初期区画とする 省略値は*INITIAL

VLDATA *YES データがVisual LANSAシステムからエクス

注 - システム用 *NO に予約されたコ *O マンド ポートされたことを示す配布ツールまたは EXPORT_OBJECTS組み込み関数を使用す るときに必要に応じて生成される デフォルトは*NO

WRITE データ 指定したデータを出力ファイルに書く

8.6.3 コマンド・パラメータの有効な置換変数

- 変数 コメント
- %PART% 現在の区画識別子
- %LANG% 現在の言語識別子
- %DIRL% 現在のLANSAルート・ディレクトリ
- %DIRP% 現在の区画ディレクトリ
- %TEMP% 現在のテンポラリ・ディレクトリ
- %PKGD% 現在のパッケージ・ディレクトリ
- %EXPR% インポートするファイル
- %SOSD% 現在のオペレーティング・システムの接頭辞(Linuxのみ)
- %DBID% 現在のDBID値
- %DBII% 現在のDBII値
- %DBIT% 現在のDBIT値
- %DBUT% 現在のDBUT値
- %DBUS% 現在のDBUS値
- %PSWD% 現在のPSWD値
- %YQUn% 質問の答えがYESの場合のみコマンド行は有効
- %NQUn% 質問の答えがNOの場合のみコマンド行は有効
- %EXPD% インポートで元のEXPRパラメータを使用する
- %LFRA% LANSA言語コードがFRA(フランス語)の場合のみコマンド 行は有効
- %LJPN% LANSA言語コードがJPN(日本語)の場合のみコマンド行は 有効
- %LOTH% LANSA言語コードがFRAでもJPNでもない場合のみコマン ド行は有効

%MULT% 現在の区画が複数言語対応の場合のみコマンド行は有効 %MONO% 現在の区画が単一言語対応の場合のみコマンド行は有効 %USER% 現在のUSER値 8.7 言語

 [言語]ダイアログから、パッケージを導入するときに使用する導入
 言語を選択することができます。[言語]ダイアログを開くには、 パッケージ保守ウィンドウのツールバーから[言語]アイコンを選択 します。

現在の言語が省略値の言語として使われるため、事前に選択されま す。

省略値で選択された画面に、Visual LANSAのログから、現在の区画言語が現在の言語とともに[言語]ダイアログに表示されます。

導入パッケージを配布ツールで生成すると、そのパッケージが完全なア プリケーションのバージョンかパッチかによって、[言語] ダイアログを 使って選択された各言語について、MSIまたはMSPファイルが作成され ます。作成されるWindowsインストーラー・ファイルには、アプリケー ション・コードとバージョン番号および各言語コードから取り出され た"カルチャ・コード"を組み合わせて名前がつけられます。

例えば、D20Aアプリケーションに英語、フランス語、日本語を選択するとバージョン1.22.33のビルド出力は次のようになります。

D20A_v1.22.33_en-us.msi

D20A_v1.22.33_fr-fr.msi

D20A_v1.22.33_ja-jp.msi 言語が定義されない時の省略値はENG.に なります。

これにより、エンドユーザーは、英語、フランス語、日本語のアプリ ケーションのインストールを実行することができます。同時にインス トールできない異なるバージョンのアプリケーションとはちがい、言語 のバリアントは同じコンピュータに同時にインストールできます。

8.7.1 カスタム言語定義

MSIとMSPファイルの名前の作成に使われる言語コードのペアは... \X_Win95\X_LANSA\X_Apps\X_Wix\Content\Languages.xmlに指定されて います。

追加の言語をサポートするには、フォーマットの必要な言語にエント リーを追加して、Languages.xmlファイルを変更します。

<Language Id="WXYZ" Culture="wx-yz" Locale="2052" CodePage="950"/>

例えばファイル wx-yz.wxlのように、…\X_Apps\X_Wix\Sourceの適切な WIXローカライゼーション・ファイルの定義も必要です。

8.8 Webデザイン

アプリケーションに含まれる、WAMやウェブレットと一緒に出荷 される言語とテクノロジ・サービスを示します。

WAMやウェブレットが複数のWebデザインをもって異なる言語やテク ノロジ・サービスをサポートするように開発されている場合、この機能 を使用して現在の配布に含めるWebデザインを選択します。

省略値では、現在の言語とテクノロジ・サービスのWebデザインのみが 選択されます。

現在の言語はLANSAにログオンする際に画面で指定されます。

Webデザイン	X
言語 テクノロジサービス	
言語	
ENG	
JPN	
	OK(O) +++>/+//

現在のテクノロジ・サービスはLANSA XHTMLが初期値となりますが、 LANSAエディタの[Web]メニューで変更することができます。



8.9 特別な処理のファイル

パッケージ保守ウィンドウのツールバーから[特別な処理のファイル]ダイアログを開きます。
特別なファイルはディスクにあり、ファイル・タイプごとに特定の処理をしてあらかじめ定義された場所にインストールされます。
ファイルは [特別な処理のファイル] ダイアログを使って配布できます。[タイプ]と関連付けられた[特別な処理]は、これらのファイルを配布するだけではなく、導入時のファイルをどのように処理するかも決定します。例えば、ショートカット、X_STARTファイルやエンドユーザーライセンス許諾などが配布できます。

.doc や.rtfなどファイルのショートカットの動作はWindowsファイルの関 連付けに依存するため、これらのファイルをロードするアプリケーショ ンは、別途にインストールする必要があります。

ショートカットはすべてアプリケーションのプログラムフォルダーに作成され、デスクトップには配置されません。省略値のアプリケーションのショートカットのみ、自動的にエンドユーザーのデスクトップに配置されます。

特別な処理を必要としないファイルを配布するためには、これらのファ イルがLANSAのデータベースで定義されている場合、[オブジェクトの 選択]ダイアログでLANSA以外のオブジェクトまたは外部リソースとし てこれらのファイルを含めます。

1 特別	3 特別処理のファイル						
×	×						
ID	917°	言語	記述	٨°٦	ጋ° በセスパ° ラメーター		
002	標準		*MTXT_D20A_R	C:\ダウンロード \Release Notes.htm	<u>^</u>		
003	ライセンス			C:\ダウンロード \License.rtf			
004	実行可能	JPN		C:\ダウンロード \sqlany12.msi			
005	URL			http://www.lansa.jp/index.htm			
006	URL			hhtp://www.facebook.com			
007	XStart	JPN	XStart APPL=AA		XStart APPL=AAAA		
008	XStart	JPN	XStart APPL=BBBB		XStart APPL=BBBB		
009	XRun	JPN	XRun 1		XStart APPL=AAAA		
010	XRun	JPN	XRun 2		XStart APPL=BBBB		
011	システム	JPN		[systemFolder]Cmd.exe	/k ecgi Testing 1 2 3		
					OK(O) キャンセル		

[ID] 必須。

自動的に連番が生成されますが、必要に応じて再度順序付けする; [タ 必須。

イ ショートカットの[タイプ]はサポートされた値とともにドロップ う ます。

標準、ライセンス、Readme、URL、XRun、XStart、

実行可能、システム、Web ユーザー、ActiveX

既存の実行可能ファイルのショートカットはシステムのタイプを1 ウェブ・ページのショートカットは、URLのタイプを使って作成⁻ ライセンスは、MSIファイル実行時にライセンス許諾として使用3 を提供します。そのファイルは...\X_Apps\X_Wix\Content\license.rt 置換します。 詳細については、「エンドユーザーライセンス許 てください。

XRunはパラメータが提供されたX_Run.exeを実行します。 XStartは、オリジナルの起動ファイルをベースに使い、パラメータ

用してX_Start.exeを実行します。

WebUserはDC_W08.datを表示します。

- [言 省略可能。
- 語] アプリケーションにサポートされた言語をすべてブランクのまま プダウンから区画言語を選択します。言語を入力した場合、[言語 ようにしてください。

特定の言語のインストールでは、ファイルが対象になることがあ すべての言語について、言語欄をブランクのままにし(すべての言 す)、複数の言語がサポートされている場合、複数言語対応変数を します。

単一の言語については、[区画言語]のドロップダウン・リストで特選択する言語は、サポートされたパッケージ言語として選択する、の言語に適切な記述を入力するか、または複数言語変数を使って

- [記 省略可能。
- 述] 複数言語変数を選択し、各言語の処理に適切な記述を提供するこ 記述が記入されていない場合、ファイル名が使用されます。
- [パ

-ス] 省略可能。

特別なファイルをインストールする対象のパスです。

パスでは次のシステム・ショートカットがサポートされています。

WindowsFolder	C:\Windows\
SystemFolder	C:\Windows\system32\
System16Folder	C:\Windows\system\
TempFolder	C:\Temp\
ProgramFilesFolder	C:\Program Files\
CommonFilesFolder	C:\Program Files\Common Files\
AppDataFolder	C:\Users\Installer.NYB\AppData\Roaming\
NetHoodFolder	C:\Users\Installer.NYB\AppData\Roaming\M Shortcuts\
PersonalFolder	C:\Users\Installer.NYB\Documents\
PrintHoodFolder	C:\Users\Installer.NYB\AppData\Roaming\M Shortcuts\
RecentFolder	C:\Users\Installer.NYB\AppData\Roaming\M

SendToFolder	C:\Users\Installer.NYB\AppData\Roaming\ N
TemplateFolder	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Templa
CommonAppDataFolder	C:\ProgramData\
LocalAppDataFolder	C:\Users\Installer.NYB\AppData\Local\
MyPicturesFolder	C:\Users\Installer.NYB\Pictures\
AdminToolsFolder	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start Menu\Programs\Administrative Tools\
StartupFolder	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start M
StartMenuFolder	C:\ProgramData\Microsoft\Windows\Start M
FontsFolder	C:\Windows\Fonts\

[プ 省略可能。

ロセ ファイル・タイプにより、選択されたパラメータを提供してファ· スパ とができます。パラメータは、XStart、 XRun、実行可能ファイル ラ ル・タイプにのみ適用されます。 メー

タ]

9. LANSA コミュニケーション機能の配布

LANSAコミュニケーションについては、『LANSA コミュニケーション セットアップガイド』の以下のトピックを参照してください。

- LANSA通信エクステンションとは?
- lroute.dat機能拡張

以下も参照してください。

- ホスト側ルート・テーブルとリスナー・テーブルの追加
- LANSAコミュニケーションに関連するパッケージの設定とオプション
- LANSAコミュニケーションに関連するインストール・オプション

LANSAコミュニケーション管理機能の翻訳は、英語、フランス語、日本語以外の言語で作業し、好みの言語で実行しているLANSAコミュニケーション管理機能を使用してIroute.datやlistener.datファイルを確認または変更する場合にのみ必要です。

9.1 ホスト側ルート・テーブルとリスナー・テーブルの追加

LANSAコミュニケーション管理機能が配布ツールに組み込まれている ため、アプリケーションに固有のコミュニケーション・ファイルを作成 して保守することができます。コミュニケーション・ファイルは、ホス ト側ルート・テーブル(lroute.dat)とリスナー・テーブル(listen.dat)です。 アプリケーションに対してコミュニケーション管理機能が最初に開かれ ると、一連の省略値のコミュニケーション・ファイルが作成されます。 これらのファイルは、必要に応じて変更し、アプリケーションをサポー トすることができます。

コミュニケーション・ファイルを追加する手順は次のとおりです。

方法 ステッ プ

選択する

1. アプリ コミュニケーション・ファイルを追加する、または変更 ケーション するには、ツリー・ビューの[アプリケーション]を選択 し、メイン・ウィンドウ・ツールバーの[コミュニケー のコミュニ ション管理機能)アイコンを押します。 ケーション



2. ホスト側 (配布されたアプリケーションのルート情報)ダイアロ ルート・エ グ・ボックスが開き、現在のLANSAシステムのホスト側 ントリーを ルート・テーブル lroute.dat のコピーが表示されます。こ のホスト側ルート・テーブルのバージョンはアプリケー セットアッ ションのワーク・フォルダーに保存されます。 プする

配布したアプリケーションをサポートするには、必要に 応じてローカル・コミュニケーション・ファイルのホス ト側ルート・エントリーを変更、削除、追加します。ダ イアログ・ボックスを閉じると変更内容が保存されま す。

/ート ァーノ゙ル(Ⅰ) ホメトルート(R) 払張設定(A) ヘルノ゙(H)	
通信ルートテーフ [・] ルのハ [・] ス: C:¥PROGRAM FILES¥LANSA13SP1¥X_WIN95¥X_LANSA¥X_APPS¥ABCINST¥X_PKGWRK¥lroute.dat	
ベートナー L ホスト名 通 通 トレー 接 バウ・ IPC [*] LOCAL localhost Socket 0 0 1	新規作成(№)
	編集(<u>E</u>)
	削除(<u>D)</u>
	ログドレース(<u>L</u>)
	^ルフ°(<u>H)</u>

3. リスナー サーバー・サポートを配布する場合、またはWebアプリ をセット ケーションをインストールする場合、リスナー・ポート アップする も構成する必要があります。[配布されたアプリケーショ ンのルート情報]ダイアログで、[拡張設定]メニューのオ プション[リスナー...]を選択します。



選択すると、省略値のリスナー・テーブル listen.dat が作成されます。配布されたアプリケーションをサポートするには、リスナー情報を必要に応じて変更します。ダイアログ・ボックスを閉じると変更内容が保存されます。 このバージョンのリスナー・テーブルは、ホスト側ルート・テーブルとともにアプリケーションのワーク・フォルダーに保存されます。

🔝 リスナー情報 - 配布されたアプリケーション		
リスナーの通信手段の選択:	Socket	
リスナーのスレット`数(0 が有効):	1	ОК
┌─オフ⁰ション		リスナー開始(S)
省略値を使用する時はブランクにしてください。		ログドレース(L)
接続 ID 4545	5	機密保護(E)
通信モジュール:		WDTM 設定
▼ TCP_NODELAY TCP/IP ソケット オフ°ション		
□ IPv6 を使用する		++>21
□ SO_KEEPALIVE TCP/IP ソケット オフ [®] ション		ヘルフ°(H)

4. 適切な コミュニケーション・ファイルをアプリケーションに追
 パッケージ 加する作業は、コミュニケーション・ファイルがバー
 とオプショ ジョンまたはパッチと一緒にインストールされるという
 ンを設定す ことではありません。適切な設定とインストール・オプ
 る ションの選択も必要です。

詳細については、「9.2 LANSAコミュニケーション・ パッケージ設定とオプション」を参照してください。 9.2 LANSAコミュニケーション・パッケージ設定とオプション

以下のパッケージの設定は、LANSAコミュニケーションを配布する場 合に確認する必要があります。

LANSAコミュ ニケーション 機能の配布	Lansa通信エクステンションの実行環境イメージの コピーをパッケージに含めて、パッケージ導入時に インストールします。
	このオプションは、lroute.datファイルを配布する場合に選択してください。
	「LANSAコミュニケーション機能の配布」を参照 してください。
サーバー・サ ポートの配布	パッケージのインストール時にLansaサーバー・サ ポートの導入イメージのコピーがパッケージに追加 され、インストールされます。

コミュニケーション

リスナーのインストー	はい – リスナーがインストールされます。
ル	いいえ – リスナーはインストールされません。
	省略値:いいえ。

デスクトップの設定

コミュニケーション管理機 能のショートカットの作成	はい - LANSA通信エクステンションへ のショートカットを作成します。 いいえ - LANSA通信エクステンション へのショートカットを作成しません。
	イのショートカットをIF成しません。 省略値:はい。

10. クライアント/サーバー・アプリケーションの配布

クライアント/サーバーの構成は無数に実装できます。クライアント/ サーバー・アプリケーションの配布を開始する前に、以下の事項を理解 することが不可欠です。

- アプリケーションのどの部分がサーバーに属し、どの部分が各クラ イアントに属するか。
- 各クライアントおよびサーバーのランタイム環境の要件。
- クライアントはどのようにしてサーバーと通信するか。
- クライアントとサーバーの更新はどのように管理されるか。
- インストールに適切なLANSAライセンスを持っているか。
- ネットワーク・クライアントか。Webアプリケーションか。

以下に、実装されているクライアント/サーバーの一般的なシナリオの 一部を示します。

10.3 WindowsまたはLinuxサーバーに接続するスーパーサーバー・ アプリケーション

10.4 IBM i サーバーに接続するスーパーサーバー・アプリケーション

11.3 Windowsアプリケーション・データベースを使用するWAMア プリケーション

10.5 ネットワーク・クライアントのインストール

10.1 クライアント/サーバー配布の検討

- クライアント/サーバー・アプリケーションにパッケージの設定[シス テム定義の配布]または[区画定義の配布]が含まれる場合、アプリ ケーションを作成するVisual LANSAシステムにランタイム環境に必 要なシステムと区画の設定があることを確認します。
- アプリケーションがスーパーサーバーを使用してリモート・システムに接続する場合、配布ツールに付属のスーパーサーバー・オプションではなく、アプリケーション・ロジックでスーパーサーバーの組み込み関数を埋め込むことをお勧めします。これにより、アプリケーション・コード内でカプセル化され管理される一貫したインターフェースが提供されます。
- アプリケーションのサーバー側をインストールするときは、データ ベースが修正されるようにユーザー・データベース・セットアップ (SUDB)を設定ししてください。反対に、クライアント設定をインス トールするときは、ユーザー・データベース・セットアップを設定 せず、ランタイム・オブジェクトのみをインストールしてください。

10.2 組み込み関数を使用してサーバーに接続するスーパーサーバー・アプリケーション

このシナリオでは、データベースはサーバーにインストールされ、クラ イアントはアプリケーションDLLがローカルにインストールされ た"ファット"クライアントとしてインストールされます。スーパーサー バー組み込み関数を使ってサーバーへの接続を確立します。

リモート・システムへの接続を確立するには、スーパーサー バー組み込み関数を使う方法をお勧めします。この決定は、ア プリケーションの開発中に下されます。

このシナリオをサポートするには、次のようにします。

配布されるアプリケーションのサーバー部分は、使用される サーバー・タイプによって異なります。

システム変数、ファイル(メッセージ・ファイルを含む)およびそれらの OAMを含むサーバー・アプリケーションのセットアップに関するガ イドラインについては、場合に応じて以下を参照してください。 10.3 WindowsまたはLinuxサーバーに接続するスーパーサーバー・ア プリケーション

10.4 IBM i サーバーに接続するスーパーサーバー・アプリケーション 11.3 Windowsアプリケーション・データベースを使用するWAMアプ リケーション

 2 配布されたアプリケーションの実行ファイルを各クライアントにイン ストールします。このアプリケーションには、アプリケーションの フォーム、プロセス、関数が含まれます。データベース・アクセスは サーバーに送られます。

クライアント・パッケージ

クライアント・パッケージは、テンプレートXCLTBIFを基にして作成で きます。

次の設定を検討し、確認してください。

- データベースがないクライアントへ配布
- 配布システム定義

- 配布区画定義
- オブジェクト定義を含めない
- Visual LANSA サポートの配布
- LANSA コミュニケーション機能の配布

不要なオプションを省略して、パッケージ・サイズを最小化します。これらのオプションは、ほとんどの場合、初期パッケージに含める必要があります。あるいは、LANSAソフトウェアのアップグレードの適用後に配布してください。

- 次のオプションと詳細も検討し、確認してください。
- 実行パラメータ

実行するプロセス/関数/フォーム - インストール後のアプリケーションの起動に使用するアプリケーション実行ファイルを指定します。

- コミュニケーション
- リスナーのインストール
- 通常、データ・サーバーへの接続を容易にするため、コミュニケー ション管理機能ファイル(lroute.dat)とリスナー(listen.dat)を追加する必 要があります。
- 注 DBMS タイプは通常は[なし]に設定されます(ローカル・データ ベースなし)。

10.3 WindowsまたはLinuxサーバーに接続するスーパーサー バー・アプリケーション

このシナリオでは、データベースはサーバーにインストールされ、クラ イアントはアプリケーションDLLがローカルにインストールされ た"ファット"クライアントとしてインストールされます。

このシナリオをサポートするために、次の2つの配布ツール・アプリ ケーションを作成します。

- 1 最初のアプリケーションをサーバーにインストールします。このアプ リケーションには、システム変数、ファイル(メッセージ・ファイル など)およびそのOAMが含まれます。
- 2 2つ目のアプリケーションを各クライアントにインストールします。
 このアプリケーションには、アプリケーションのフォーム、プロセス、関数が含まれます。

サーバー・パッケージ

Windowsのサーバー・パッケージは、テンプレート XSRVOTHを基にして作成できます。

次の設定を検討し、確認してください。

- 配布システム定義
- 配布区画定義
- 実行環境データベースサポートの配布
- 実行環境アドオンの配布
- Visual LANSA サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布
- サーバー・サポートの配布

次のオプションと詳細も検討し、確認してください。

コミュニケーション

- リスナーのインストール
- データ・サーバーへの接続を容易にするため、コミュニケーション 管理機能ファイル(lroute.dat)とリスナー(listen.dat)を追加する必要があ ります。
- データベース

DBMS タイプ(DBUT) - 適切なサーバーのデータベース・タイプを指定

する必要があります(Oracle、MS SQLサーバーなど)。

データソース名 (DBII)

クライアント・パッケージ

リモート・システムへの接続を確立するには、スーパーサー バー組み込み関数を使う方法をお勧めします。スーパーサー バー組み込み関数を使うクライアント・アプリケーションのイ ンストールの詳細については、「サーバーへの接続に組み込み 関数を使うスーパーサーバー・アプリケーション」を参照して ください.

クライアント・パッケージは、テンプレート XCLTOTHを基に作成でき ます。サーバーへの接続のために提供されるにはX_RUNパラメータが 必要です。

次の設定を検討し、確認してください。

- データベースがないクライアントへ配布
- 配布システム定義
- 配布区画定義
- 実行環境アドオンの配布
- コンポーネント・サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布
- 次のオプションと詳細も検討し、確認してください。
- 実行の必須パラメータ:

LANSA ユーザー

実行するプロセス/関数/フォーム - インストール後のアプリケーションの起動に使用する実行ファイルを指定します。

- コミュニケーション
- リスナーのインストール
- 通常、データ・サーバーへの接続を容易にするため、コミュニケー ション管理機能ファイル(lroute.dat)とリスナー(listen.dat)を追加する必 要があります。
- スーパーサーバー
- サーバー・タイプ (DBID)

サーバー 名(PSLU)
サーバーのユーザー (PSUS) サーバーのパスワード (PSPW) サーバー側のロック (PSDL)

サーバー除外引数(PSEA) (例:DBID, DBII, DBIT, DBUT, DBUS, PSWD, RPTH, TPTH)

• データベース

DBMS タイプ(DBUT) - 通常は[なし]に設定(ローカル・データベースなし)。

10.4 IBM i サーバーに接続するスーパーサーバー・アプリケー ション

このシナリオでは、データベースはIBM iサーバーにインストールされ、クライアントはアプリケーションDLLがローカルにインストールされた"ファット"クライアントとしてインストールされます。

このシナリオをサポートするために、各クライアントにインストールす る単一の配布ツール・アプリケーションを作成します。この中には、 WindowsまたはLinuxクライアントに接続する時と同じアプリケーション のフォーム、プロセスおよび関数が含まれます。

アプリケーションのIBM i部分は、LANSA/ADエクスポートおよびイン ポート機能を使用して配布する必要があります。この中には、システム 変数、ファイル(メッセージ・ファイルなど)、およびそのOAMが含まれ ます。

クライアント・パッケージ

リモート・システムへの接続を確立するには、スーパーサー バー組み込み関数を使う方法をお勧めします。スーパーサー バー組み込み関数を使うクライアント・アプリケーションのイ ンストールの詳細については、「サーバーへの接続に組み込み 関数を使うスーパーサーバー・アプリケーション」を参照して ください.

クライアント・パッケージは、テンプレート XCLT400 または XCLT400X を基に作成でき、 適切なLANSA/ADサーバーとパーティ ション への接続のために提供されるには適切なX_RUNパラメータが必 要です。

次の設定を検討し、確認してください。

- データベースがないクライアントへ配布
- 配布システム定義
- 配布区画定義
- オブジェクト定義を含めない
- Visual LANSA サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布
- 次のオプションと詳細も検討し、確認してください。
- 実行の必須パラメータ:

LANSA ユーザー

実行するプロセス/関数/フォーム - インストール後のアプリケーションの起動に使用する実行ファイルを指定します。

コミュニケーション

- リスナーのインストール
- 通常、データ・サーバーへの接続を容易にするため、コミュニケー ション管理機能ファイル(lroute.dat)とリスナー(listen.dat)を追加する必 要があります。
- データベース

DBMS タイプ - 通常は[なし]に設定(ローカル・データベースなし)。

• スーパーサーバー
サーバー・タイプ (DBID)
サーバー 名(PSLU)
サーバーのユーザー (PSUS)
サーバーのパスワード (PSPW)
サーバー側のロック (PSDL)
コミット制御の使用 (PSCC)
DBCS 使用可能 (PSDB)
クライアント
$$\rightarrow$$
 サーバー(PSCT) およびサーバー \rightarrow クライアント(PSST)

10.5 ネットワーク・クライアントのインストール

メイン・アプリケーションのインストールは一般に一次インストールと よばれ、ほとんどの一次インストールに自動的に作成され、一次インス トールによって配布される小さい'.msi'ネットワーク・クライアントのイ ンストールと区別されます。メイン・アプリケーションのインストール は'ネットワーク・クライアント'のインストールを構成し、インストー ルが実行されるファイル・サーバー上でメイン・インストールへの ショートカットのみをインストールします。別の場所にコピーして実行 することはできません。

クライアント・アプリケーションを会社の環境でインストールするに は、最初にファイル・サーバー上で一次アプリケーションをインストー ルしてください。次に、そのファイル・サーバーにアクセスできるクラ イアント・インストール'.msi'へのショートカットをユーザーに提供しま す。例えば次のようになります。

\\SRV1\Programs\ Lansa Pty Ltd\Personnel

System\X_Win95\X_Lansa\Execute\D20A_Client_En-us.msi.



この最初のダイアログとプログレス情報以外に、エンドユーザーに提示 されるユーザー・インターフェースはありません。クライアントは一次 インストールを作成されるショートカットのターゲットとして使用する ため、構成オプションは不要です。これらのショートカットは一次イン ストールの定義によって定義されます。

11. LANSA for the Webアプリケーションの配布

11.1 LANSA for the Webの配布の考慮事項
11.2 Webサーバー・オブジェクトの配布
11.3 Windowsアプリケーション・データベースを使用するWAMアプリケーション

11.4 Windowsアプリケーション・データベースを使用するWEBEVENTア プリケーション

11.1 LANSA for the Webの配布の考慮事項

- ・LANSA for the Webアプリケーションでは、2つの異なる場所-Web サーバーとデータ・アプリケーション・サーバー-にオブジェクトを 配布する必要があります。 配布を開始する前に、アプリケーション で使用するオブジェクトをどちらの場所に配布すべきかを把握する ことが重要です。
- 配布したアプリケーションで使用されるWebサーバーのインストール と構成を手動によるステップで完了する必要があります。例えば、 Webサーバーで必要なEPCのインストールなどを行います。
- Windows Webサーバーをインストールする場合、Web Administrator、 IISプラグイン、Webイメージ、LANSA Open、 LANSA Communicationsのインストールが必要です。
- Webサーバーとデータ・アプリケーション・サーバーを同じコン ピューターにインストールする場合、ソフトウェアの個別のアップ デートを簡単にするため、それぞれを異なるディレクトリにインス トールすることをお勧めします。こうすることにより、アプリケー ションの有効期間を通じて問題の解決が容易になります。
- Web構成のユーザーIDでデータ・アプリケーション・サーバーにログ インできるようにし、そのIDをユーザー・グループ"LANSA Users"の メンバーにしてください。
- アプリケーション・データベースを手動で作成し、構成してください。データベースの使用に必要なユーザー・プロファイルがすべて認可されていることを確認してください。
- LANSAで提供されているウェブレット(通常はウェブレット std_*)ま たは外部リソース(XW*)を選択されたオブジェクトまたは相互参照 オブジェクトとして配布するときは、パッケージが、これらのオブ ジェクトの適切なバージョンがインストールされた環境で生成され たものであることを確認してください。
- バージョンまたはパッチを作成するときは、例えばウェブレット std_*や外部リソースXW*のようなLANSAで提供されている正しい バージョンのオブジェクトが配布されるように注意してください。
- WAMまたはWEBEVENT関数は、 ブラウザー内で配布パッケージか ら自動的に起動することはできません。
- URLショートカットを作成し、[特別な処理のファイル]オプションを 使ってWebアプリケーションを起動することができます。

- ユーザーのLANSA Webアプリケーションのランタイム・ライセンス を要求する時は、アプリケーションがインストールされるWindows サーバーのCPUの詳細を提供してください。この詳細は同梱されて いる X_CPU というLANSAユーティリティを使用して入手できま す。詳細については、「LANSAサポートウェブサイト」を参照して ください。
- ランタイム環境での現在のライセンスを確認するには、*LICENSES プロセスを実行してください。
- LANSAの X_CPUユーティリティおよび *LICENSESプロセスは LANSAランタイムを配布する時に追加されます。
- テンプレート XWAMENB が作成され、WAMアプリケーションの配 布をサポートします。
- Webサーバーのインストールの詳細については、『IBM i LANSAイン ストールガイド』または『Windows LANSAインストールガイド』を 参照してください。

11.2 Webサーバー・オブジェクトの配布

Webサーバー・オブジェクトは、 カスケード・スタイル・シート、イ メージ、ブラウザー・インターフェースの表示に使用されるスクリプト などの非LANSAオブジェクトです。

Webサーバーやデータ・アプリケーション・サーバーが同じコンピュー ター上にある場合、Webサーバー・オブジェクトをメインのアプリケー ション・パッケージに非LANSAオブジェクトとして含めることができ ます。また、Webサーバーの適切なディレクトリにインストールできま す。

Webサーバーとデータ・アプリケーション・サーバーが異なるコン ピューター上にある場合、非LANSAオブジェクトをWebサーバーに配 布する開始ポイントとして、テンプレートXOTHOBJを使用できます。 また、Webサーバー・オブジェクトをWebサーバーの適切なディレクト リに手動でコピーできます。 11.3 Windowsアプリケーション・データベースを使用する WAMアプリケーション

テンプレートXWAMENBを開始ポイントとして使用し、WAMを含むア プリケーションを配布したり、WAMをサポートするように既存のラン タイム環境を更新したりします。

パッケージ内にアプリケーション・オブジェクトを含めます。Webサー バーをアプリケーション・サーバーと同じコンピューターにインストー ルする場合、Webサーバーに必要な非LANSAオブジェクト(イメージや カスケード・スタイル・シートなど)をこのパッケージに含め、適切な インストール・ディレクトリに移動できます。Webサーバーをアプリ ケーション・サーバーと異なるコンピューターにインストールする場 合、これらのWebサーバー・オブジェクトを配布するには個別のパッ ケージが必要です。

通常、データ・サーバーへの接続を容易にするため、コミュニケーション管理機能ファイル(lroute.dat)とリスナー(listen.dat)を追加する必要があります。コミュニケーション管理機能ファイルが(移動先のフォルダーではなく)共通の場所にある場合、共通のファイル内で、適切な

lroute.datの詳細を手動でアップデートする必要があります。しかし、適切なリスナーの詳細を含めることは確実にリスナーをアプリケーションと一緒にインストールことになります。

データベースの接続の詳細を指定し、X_LANSA.PROファイル内に正し いエントリーが作成されるようにしてください。

インストールが終了してすぐにWebアプリケーションを起動することは できませんが、インストール後のアプリケーションの起動をサポートす るショートカットを作成することはできます。例えば、次のような ショートカットの詳細を入力します。

📴 特別奴	し理のファイル	-					
×	_		_		_		
ID	917°	言語	記述	Л°Х	プロセスパラメ ー ター		
001	URL		WAM テスト	http://localhost/CGI-BIN/lansaweb?wam=XABOUT&webrtn=show&ml=LANSA:XHTML∂=IDE⟨=JPN	-		
002	XRun	JPN	LANSAライセ		PROC=*LICEN		
003							

アプリケーションにWindowsインターフェースとWebインターフェース を含める場合、テンプレートXWAMENBを開始ポイントとして使用でき ますが、追加のパッケージ・オプションを利用するためのテンプレート の関連付けを削除する必要があります。

11.4 Windowsアプリケーション・データベースを使用する WEBEVENTアプリケーション

WEBEVENT関数を含むアプリケーションを配布するかまたは既存のランタイム環境をアップデートしてWEBEVENT関数をサポートするには、以下の設定を検討し、確認する必要があります。

- 配布システム定義
- 配布区画定義
- 実行環境データベースサポートの配布
- Visual LANSA サポートの配布
- ウェブ環境のサポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布

少なくとも以下の導入オプションを検討し、確認してください。

- ·データベース設定
- 通常、データ・サーバーへの接続を容易にするため、コミュニケー ション管理機能ファイル(lroute.dat)とリスナー(listen.dat)を追加する必 要があります。
- リスナーのインストール

Webに、区画がWEBEVENTアプリケーションをサポートできるように するには、パッケージに以下が含まれている必要があります。

- システム変数*LANGUAGEおよび*PARTITION
- 標準Webコンポーネント
- LANSAの内部ファイル定義および関連付けられたフィールド (WEBUTILからインポート)
- DC_W08.dat

パッケージ内にアプリケーション・オブジェクトを含めます。

Webサーバーをアプリケーション・サーバーと同じコンピューターにイ ンストールする場合、Webサーバーに必要な非LANSAオブジェクト(イ メージやカスケード・スタイル・シートなど)をこのパッケージに含 め、適切なインストール・ディレクトリに移動できます。Webサーバー をアプリケーション・サーバーと異なるコンピューターにインストール する場合、これらのWebサーバー・オブジェクトを配布するには個別の パッケージが必要です。

• 通常、データ・サーバーへの接続を容易にするため、コミュニケー

ション管理機能ファイル(lroute.dat)とリスナー(listen.dat)を追加する必要 があります。コミュニケーション管理機能ファイルが(移動先のフォル ダーではなく)共通の場所にある場合、共通のファイル内で、適切な lroute.datの詳細を手動でアップデートする必要があります。しかし、適 切なリスナーの詳細を含めることは確実にリスナーをアプリケーション と一緒にインストールことになります。

データベースの接続の詳細を指定し、X_LANSA.PROファイル内に正し いエントリーが作成されるようにしてください。

インストールが終了してすぐにWebアプリケーションを起動することは できませんが、インストール後のアプリケーションの起動をサポートす るショートカットを作成することはできます。

12. JITアップグレードの手引き

基本的なことからはじめましょう。

JIT配布とは?

簡単にまとめると、JIT (Just in Time)配布では、配布ツールを使用して配 布されるアプリケーションに関する一元管理型の自動更新機能が提供さ れます。

バージョン13では、JIT配布はパッケージのアップグレードのみサポートします。DLLアップグレードはサポートされていません。

アプリケーションに関連付けられたすべてのパッケージ、つまり最初の バージョンと以降の大幅なアップグレードまたはパッチは集中アプリ ケーション・サーバーにインストールされます。最初のインストールが 終わると、ユーザーが導入先PCのアプリケーションを起動するたびに、 導入先PCはアプリケーション・サーバーに接続して、インストール可能 な新しいアップグレード版があるかどうかを確認します。新しいアップ グレード版は、アプリケーションを起動する前に自動でインストールさ れます。

JIT配布の機能

最初のパッケージのインストールを開始するには、アプリケーションに 以下の内容が必要です。

- アプリケーションのオブジェクト(他の配布パッケージと同じ)
- アプリケーション・サーバーを定義する情報(導入先PCがアプリケー ション・サーバーに接続して今後のパッケージをインストールでき るようにするため)

これらのパッケージの構築に役立つ各種配布テンプレートがあります。 最初のパッケージは以下を含む様々な方法で配布されます。

- ネットワーク上でのファイルの共有
- ウェブサイト
- ftpサーバー
- CDまたはDVD

アプリケーション・サーバーを特定し、導入先PCでアプリケーションを 起動すると必ずアプリケーション・サーバーにアクセスするようにJIT 構成をセットアップした場合でも、この最初のインストールが終わらな いとJIT配布は実際に機能しません。 以降のアプリケーションのアップデートは、大幅なアップグレードバー ジョンまたはパッチのどちらかです。

パッケージ・アップグレード(最も一般的なオプション)を使ってアプリ ケーション・サーバーにアップグレード・パッケージを配布するとき は、関連付けられたAPPLPKG.DATファイルにパッケージのエントリー を作成しないことになりました。MSIまたはMSPをアプリケーションの ディレクトリにコピーするだけです。

ユーザーが導入先PCでアプリケーションを起動するたびに、アプリケー ション・サーバーとの接続が確立されます。アプリケーションを開始す る前に、JIT処理によって、ローカルに適用されていないアップグレー ドがあるかどうかがチェックされます。パッケージやDLLが見つかった 場合(アップグレード・オプションによって異なる)、そのパッケージや DLLはアプリケーションの起動前にインストールされます。

JITセットアップの詳細については、以下を参照してください。

12.2 パッケージ・アップグレード

12.3 アプリケーション・サーバー

12.4 導入先PCとクライアント・アプリケーション

12.5 JIT**アップグレードの**推奨設定

12.6 JITのトラブルシューティング

12.7 JIT接続の追跡

12.8 JITアップグレードを使ってバージョン13にアップグレードする 12.9 JITパッケージ・アップグレードのカスタマイズ 12.1 パッケージ13 JITアップグレードにおける主な違い

- 基本的には今までと同じですが、今までのように一連のディレクト リとファイルではなく1つのファイルのみ配布します。
- LANSAがMSIとMSPファイルを作成するようになったので、 Microsoft SCCM - システム・センター構成マネージャを使って配布で きます。LANSA JITアップグレードは必要ありません。
- SCCMはLANSA JITアップグレードより能力の高い配布エンジンです が、最初のセットアップはより複雑になることがあります。した がってLANSA JITアップグレードはできる限り簡潔にし、SCCMの機 能をより複雑な配布シナリオ用とします。
- V12 アプリケーション・サーバーは単独でV13にアップグレードできます。
- V13 アプリケーション・サーバーは、V12 アプリケーション・サーバーと同様にV12パッケージを配布します。
- 配布されたMSIファイルは、x_appsフォルダー内の一番新しいファイ ルです。
- 配布されたMSPファイルは、次のインストールされていないファイ ルで、インストールされたMSIの言語と一致します。
- インストールは、パラメータ付きのオプションのSETUP.TXTファイ ルを追加してカスタマイズし、msiexecコマンドラインを追加するこ とができます。つまり、MSIおよび/またはWindowsインストーラー が開くプロパティのいずれかです。
- MSIは単独でインストールされ、MSPは累加的にインストールされま す。したがって必須の機能は削除されました。
- 権限のあるユーザーは削除されました。
- 1つのアプリケーションのみインストールされます。複数のアプリ ケーションのオプションは削除されました。
- JIT DLLアップグレードはサポートされていません。
- 各インストールに複数の言語がサポートされています。
- 複数の言語をサポートするため、MSI UIに表示されるすべてのテキ スト値に複数テキスト変数が使われるようになりました。

12.2 パッケージ・アップグレード

パケージ・アップグレードでは、ユーザーがアプリケーションを開始す る時に実行環境を配布したりアップグレードすることができます。 パッケージ・アップグレードでは、サーバーにパッケージを送信する度 に配布の対象を厳しく管理して、変更記録を作成することができます。

パッチはLANSA EPCをアプリケーションに配布する優れた方法 です。パッチはLANSA EPCのみを配布します。

12.3 アプリケーション・サーバー

JIT構成にはアプリケーション・サーバーを含める必要があります。 配布されたバージョンまたはパッチはすべてアプリケーション・サー バーに格納されます。アプリケーション・サーバーは、ユーザーがPCで アプリケーションを起動するとアップグレードの要求を受信します。そ の応答として、新しいバージョンまたはパッチ(アップグレード・オプ ションUPGDによって異なる)がクライアントPCに送信されます。この ように、アプリケーション・サーバーは単純なファイル・サーバーなの で、強力なプロセッサは必要ありません。

アプリケーション・サーバーのインストール アプリケーション・サーバーには以下のものが必要です。

- Visual LANSAのインストール。
- インストールされたリスナー。クライアントPCからの要求を受信す るために実行します。
- 有効なLANSAスーパーサーバー・ライセンス。通常、LANSAスー パーサーバーのシングル・シート・ライセンスはJITアップグレード 処理時にのみ使用されるため、1つあれば十分です。アップグレー ド・バージョンまたはパッチをダウンロードすると、ライセンスを 再度使用できるようになります。

♀ ヒント - アプリケーション・サーバーをセットアップするには、Visual LANSAをインストールする方法が最も簡単です。

アプリケーション・サーバーへのパッケージの適用

アプリケーション・サーバーでのJITパッケージ・アップグレード配布 で各アプリケーションを使用できるようにするには、各アプリケーショ ンに以下のようなディレクトリ構造を含める必要があります。

[アプリケーション・サーバーのルート・ディレクト

リ]\x_win95\x_lansa\x_apps\[クライアント・アプリケーション名]\

このディレクトリ構造は、配布システムのディレクトリ構造を反映しています。

[クライアント・アプリケーション名] ディレクトリ内では、配布される MSI/MSPのみ が必要です。アプリケーションのインストールに使われ た元のMSIを含める必要があります。 警告 - JITアプリケーション・サーバーが配布システムと同じ LANSAシステムの場合、配布されたパッケージはすぐにダウン ロードできます。このため、ダウンロードする前にパッケージ のテストを容易に行えるように、パッケージの作成と配布用の 別のLANSAシステムを使用することをお勧めします。

バージョン13は複数層のアプリケーション・サーバーをサポートしていません。以下のように複雑な配布にはMicrosoft SCCMを使ってください。

12.4 導入先PCとクライアント・アプリケーション

各導入先PCにインストールされたLANSAアプリケーションは、アプリ ケーション・サーバーへの参照を含むこと以外は他のクライアント・ア プリケーションと本質的に同じです。

アプリケーション・サーバーへの接続

通常、アプリケーション・サーバーへはX_RUNパラメータのASXXを使用して接続します。『テクニカルリファレンス』の「PSXX=パラメータ」に記述されるように、これらのパラメータはPSXXパラメータと同じ動作をします。

自動接続に使用するSSN(サーバーの別名)は常に*APPSERVERです。こ の値を変更することはできません。一般的に、定義する必要のあるパラ メータはASLUとASPWだけです。詳細については、「JITオプション」 を参照してください。

スーパーサーバー・アプリケーションは、アプリケーション・サーバー (ASXXパラメータ使用)だけでなく通常のサーバー(組込み関数または PSXXパラメータ使用)にも接続できます。スーパーサーバー・アプリ ケーションは、通常のサーバーをアプリケーション・サーバーとして使 用することもできます。この場合、INIT関数により複数のサーバーへの 接続が開始されますが、最初の接続がアプリケーション・サーバーとし て使用されます。

全 重要 - ASXXパラメータを使用してアプリケーション・サー バーに接続する場合、アプリケーション・サーバーに、*.XQ* ファイルが必要です。詳細については、『テクニカル リファ レンス』の「.XQ* Files」を参照してください。

また、「必要なサーバーへの接続」も参照してください。

導入先PCへのパッケージのダウンロード

配布ツールパッケージが導入先PCにインストールされると、同じディレ クトリ構造がアプリケーション・サーバーを反映します。つまり、ディ レクトリ構造は次のようになります。

[導入先 PC のルート・ディレクトリ]\x_win95\x_lansa\x_apps\[クライア ント・アプリケーション名]\

アプリケーションを導入先PCで起動する場合:

アプリケーション・サーバーへの接続が確立されます。

- 現在のアプリケーションのWindowsインストーラー GUIDの現在の状況 -どのパッケージとパッチがインストールされているか-について クエリーが実行され、アプリケーション・サーバーに送信され、新 しいMSIがあるかどうか (使用可能な最新のファイルのみが使われま す)、あるいは新しいパッチが使用可能かどうかを判断します。新し いバージョンまたはパッチがダウンロードされます。以前に正しく インストールできなかったパッケージが再度ダウンロードされ、イ ンストールされます。
- 新しいバージョンと複数のパッチをインストールする必要がある場合でも、1回に1つのみインストールされます。その後にアプリケーションが起動され、使用可能なパッチがあるかについて、アプリケーション・サーバーが再度確認されます。(まずMSIも確認しますが、インストールされたばかりなため、場合によってはインストールするパッチしか見つからないかもしれません。)
- パッチは番号順にインストールされます。MSIに一致するすべての パッチがインストールされます。
- クライアントがMSIまたはMSPを受け取ると、SETUP.EXE と SETUP.BAT を使って起動され、その後 x_runが終了します。これは必 ず実行されます。
- MSIは手動インストールと同様に動作します。つまり、ユーザーとの 対話処理を必要とするユーザー・インターフェースがあるというこ とです。サイレント・インストールが必要な場合、カスタム SETUP.TXTファイルをアプリケーション・サーバーに提供し、/quiet または/passiveをMSIに引き渡す必要があります。
- MSPファイルは自動的に/passiveを使って実行されます。再度カスタムSETUP.TXTファイルを提供してこれを上書きすることができます。

導入先PCへのDLLのダウンロード

DLLを導入先PCにインストールすると、配布システムやアプリケーション・サーバーと同じディレクトリ構造が作成されます。作成されるディレクトリ構造は以下のようになります。

[導入先 PC のルート・ディレクトリ]\x_win95\x_lansa\[x_ppp]\ 導入先PCにインストールされた各DLLはこのディレクトリにダウンロー ドされ、既存の同じDLLのパッケージを上書きします。 12.5 JITアップグレードの推奨設定

- アップグ [新しいバージョン/パッチ]はアップグレード・オプショ
- レードオプ ンに唯一動作するオプションです。現在クライアントに
- ション インストールされている最新のバージョンとすべての
- (UPGD=) パッチがダウンロードされ、インストールされます。 代替の値 アップグレードなし はJIT処理がないことを意味します。
- アプリケー APPLパラメータは、パッケージ用に生成された
- ション名 X_STARTファイルに含まれます。この引数にはアプリ (APPL=) ケーション名が自動的に含まれます。
- アップグ パッケージのインストール中に、処理するアプリケー
- レードの ションのルート・ディレクトリに一時ファイル
- ロック _UPGRADE.LCKが作成されます。
- (_upgrade.lck このファイルでは、アプリケーションの異なるインス
- ファイル) トールによって同じPCで同時にアップグレードが実行されないようにします。_UPGRADE.LCKはアップグレードが完了すると削除されます。
 - アップグレード中にロックが検出されると、アプリケー ション・アップグレードは、接続失敗時の操作(UPCF=) パラメータの設定に従って動作します。
 - このパラメータの詳細については、「JIT」のオプション[接続失敗時の操作(*UPCF=*)]を参照してください。

12.6 JITのトラブルシューティング

アプリケーションの更新をチェックしているときにエラーが発 A 生した これは、JITアップグレード時に最も発生するエラーです。さま \triangle ざまな原因で表示される可能性があります。 原因を判断するには、はじめにJITアプリケーション・サーバー とクライアントPCのX ERR.LOGファイルを調べます。この作業 を行えば、ほとんどの場合、問題がどのようなものかを正確に 把握でき、修正を行って問題を解決することができます。 詳細については、以下の具体的な問題を参照してください。

JITアプリケーション・サーバーに接続できない
この場合、さまざまなエリアをチェックします。
1指定のユーザー(ASUS)やパスワード(ASPW)が正しい、または 信頼済み接続が選択されていることを確認します(ASTC)。
 ユーザーがJITアプリケーション・サーバーへのログインに 有効かどうかを確認します。
 ユーザーとパスワードが正しく入力されていることを再確 認します。
 クライアントPCのアプリケーション起動ファイルでユー ザーとパスワードの値を確認します。
2ホスト側ルート・エントリーがlroute.datファイル内に存在し、 正しいことをLANSAコミュニケーション管理機能を使って確認 します。
 LANSAコミュニケーションがクライアントPCに配布された ことを確認します。
 クライアントPCのlroute.datファイルに適切なエントリーが 必要です。LU名、修飾名、ポート番号が正しいことを確認 します。
 リスナーがJITアプリケーション・サーバーで起動され、正しいポートで対応していることを確認します。

3ネットワーク構成を確認します。

- 使用するIPアドレスを検証します。
- ネットワーク・エラーを修正します。





12.7 JIT接続の追跡

12.6 JITのトラブルシューティングの確認後もJIT配布に関する問題があ る場合は、次のステップで詳細情報を取得するように追跡機能を構成し ます。

追跡機能を構成するには、以下のようにします。

- 方法 ステッ プ
- 1 クライア X LANSA.PROまたはX START起動ファイルに以下の ント・アプ X RUNコマンドを追加します。 リケーショ ITRO=Y
- ンで追跡機 ITRL=4
- 能を有効に
- ITRM=999999 する
- または、

1 グローバ システム環境変数に次の X_RUN値を追加します。

ルにトレー フを有効に	Edit System Variable	
スを有効にする	Variable <u>n</u> ame: Variable <u>v</u> alue:	X_RUN ITRO:Y ITRL:4 ITRM:999999999

[ログトレース]ボタンをクリックします。

2 アプリ ケーショ ン・サー バーのリス ナーに対す る追跡機能 を有効にす る

■ リスナー情報 - 配布されたアプリケーション		
リスナーの通信手段の選択:	Socket	
リスナーのスレッド数(0 が有効): _「 オフ [®] ション―――	1	OK リスナー開始(S)
省略値を使用する時はブランクにしてくだ	きんい。	
接続 ID	4545	機密保護(E)
通信モシュール:		WDTM 設定
▼ TCP_NODELAY TCP/IP ソケット オフ [®]	УзУ	
□ IPv6を使用する		+7/2/4
SO_KEEPALIVE TCP/IP ソケット オフ [®]	ジョン	^ルフ°(H)

トレース・パネルで[標準の選択]ボタンを選択して[OK] をクリックします。

リスナーを停止してから再起動します。

コミュニケーション管理機能を閉じます。

3 再接続す 接続が引き続き失敗する場合、続けるかどうかのプロンる プトが表示されたら[いいえ]を選択します。

リスナーのトレース・ファイルは、JITアプリケーショ ン・サーバーの接続ディレクトリにあります。ログ・ ファイル x_lansa.trcを探します。 クライアント・アプリケーションのトレース・ファイル は、x_tracennn.txtファイルとしてX_LANSAディレクトリ または%temp%ディレクトリにあります。

4 LANSAサ LANSAサポートに連絡して、JITセットアップに関する ポートに連 トレース・ファイルと詳細情報を転送します。 絡する

5 トレース すべてのトレースを削除し、アプリケーション実行時の を削除する オーバーヘッドを避けます。 12.8 JITアップグレードを使ってバージョン13にアップグレー ドする

まず最初に、アプリケーション・サーバーをバージョン13にアップグ レードします。V13アプリケーションが作成され、上記に記載した通り にセットアップされるまで、V12のクライアントにV12パッケージの アップグレードを提供し続けます。V13パッケージのアプリケーション 名がV12パッケージと同じであることが重要です。配布ツールで提供さ れた機能を使ってV12アプリケーションをV13に変換すると自動的に同 じ名前が付けられます。詳細については、「V13以前のテンプレートを 変換」を参照してください。

MSIファイルが正しい場所に入れられた後にV12クライアントが接続す ると、V13サーバーはV13パッケージが利用可能であることを検出し、 パッケージをダウンロードします。V12パッケージのダウンロードはし なくなります。

背後では、V13サーバーはいつでもMSIファイルを実行するクライアン トにSETUP.EXEを提供します。提供されるとMSIパラメータのカスタマ イズが可能になりますが、V12クライアントがV13パッケージをインス トールできることが重要です。V12クライアントはSETUP.EXEのみ実行 するからです。さらに、クライアントがV12の場合、x_apps\<アプリ ケーション名>\boot\cab2\build.datファイルがクライアントに転送されま す。

ファイルがV12クライアントに転送されると SETUP.EXEが実行されま す。内部のビルド番号(例:4051)がクライアントが使っている番号(例: 4050)より新しいためです。 12.9 JITパッケージ・アップグレードのカスタマイズ

JITパッケージ・アップグレードをカスタマイズしたい理由は何でしょうか。

- コマンドライン・パラメータをMSIに提供し、例えばサイレント・ インストールまたはパラメータのログといった動作を変更する。
- ユーザーによってアップグレード・パスを変える。パッチを受け 取るユーザーもいれば、受け取らないユーザーもいます。
- 自分のしたいことにあわせて自分のSETUP.EXEを提供する。

SETUP.EXEは実行ディレクトリ内のLANSA 13.0とともに提供されま す。このプログラムは、SETUP.EXEが実行されるディレクトリと同じ ディレクトリのSETUP.BATとよばれるファイルを実行します。

自動的に生成されるパッチのSETUP.BATには次のような例があります。

"TESTMSI2_v2.3.4.2_en-us.msp" /passive start "" "C:\TestMSI2\X Win95\X Lansa\Execute\X Run.exe" UPCD=815F0A60-A9EC-41AB-A755-858C28F00C2B LANG=ENG PROC= FUNC= FORM=VL DEM20 PART=DEX USER=QPGMR INDB=N INST=MSI UPSI=YES ASLU=*LOCAL ASUS= ASPW= ASTY=*OTHER ASCT= ASST= UPCF=PROMPT UPDF=PROMPT ASKC=NO ASTC=YES DBUT=MSSQLS DBII=TESTMSI2 DBUS= PSWD= INIT= PSTY= PSLU= PSUS=QPGMR PSPW= PSEA= PSCC= PSDB= PSDL= PSWM= PSEP= PSCT= PSST= PSTC=NO APPL=TESTMSI2 DBID= PSNM= UPGD=Y UPTP=P CMTH=T XENV=X DOLLAR SIGN CHAR=\$ XENV=X HASH SIGN CHAR=# XENV=X AT SIGN CHAR=@ XENV=X GEN AT SIGN CHAR=@

1行目は実行されるMSIまたはMSPです - この場合は、 TESTMSI2_v2.3.4.2_en-us.msp" /passiveです。アプリケーション・サー バーがこの行を生成します。2行目はJITを実行しているクライアントの パラメータを含んでいます。この行はSETUP.EXEを呼び出す前にクライ アントで追加されます。この行はパッチのインストールが終了するとア プリケーションを開始します。SETUP.EXEはAPI ShellExecute を使い、 verb 'open'を使ってSETUP.BATを実行します。

パッチには答えるべき質問がないため、/passiveを使います。したがって、ユーザーは何か入力する必要があるでしょうか?/passiveオプションはプログレスバーを表示するので、ユーザーは何かが実行中であるというフィードバックを受け取ります。

これは自動操作です。

"SETUP.TXT"ファイルがアプリケーション・ディレクトリにある場合、 内容は、次の例のようにMSI/MSPファイル名に添付されます。

/L*V+ "C:\package.log"

ここでは有効なMSI/MSPパラメータが使えます。この特定の例では全て をログし、c:\package.logファイルに添付します。これは一次レベルのカ スタマイズです - MSIコマンド・ラインにパラメータを追加します。以 前のSETUP.BATは次のようになります。

"TESTMSI2_v2.3.4.2_en-us.msp" /L*V+

"C:\package.log"

start ""

"C:\TestMSI2\X_Win95\X_Lansa\Execute\X_Run.exe" UPCD=815F0A60-A9EC-41AB-A755-858C28F00C2B LANG=ENG PROC= FUNC= FORM=VL_DEM20 PART=DEX USER=QPGMR INDB=N INST=MSI UPSI=YES ASLU=*LOCAL ASUS= ASPW= ASTY=*OTHER ASCT= ASST= UPCF=PROMPT UPDF=PROMPT ASKC=NO ASTC=YES DBUT=MSSQLS DBII=TESTMSI2 DBUS= PSWD= INIT= PSTY= PSLU= PSUS=QPGMR PSPW= PSEA= PSCC= PSDB= PSDL= PSWM= PSEP= PSCT= PSST= PSTC=NO APPL=TESTMSI2 DBID= PSNM= UPGD=Y UPTP=P CMTH=T XENV=X_DOLLAR_SIGN_CHAR=\$ XENV=X_HASH_SIGN_CHAR=@ XENV=X_GEN_AT_SIGN_CHAR=@

JITアプリケーション・サーバーは要求されたアプリケーションのx_apps ディレクトリがあるかどうかを確認します。ある場合はMSIがダウン ロードされます。ない場合はx_pkgsディレクトリが使われます。これに より、バージョン13以前のクライアントが13.0サーバーにサポートされ ます。

サーバーは次にアプリケーション・ディレクトリにSETUP.EXEがあるか どうかを確認します。ない場合は、LANSA実行ディレクトリ内のコ ピーがクライアントに転送されます。これが別のレベルでの利用可能な カスタマイズです。開発者はどのようなSETUP.EXEファイルもアプリ ケーション・ディレクトリに入れることができます。ファイルはクライ アントに転送され、実行されます。例えば、他のファイルをクライアン トにダウンロードさせる手段として自己解凍される実行可能ファイルを 入れることもできます。

もちろん、カスタムSETUP.EXEにはSETUP.BATの実行が必要ですが、 MSI/MSPをインストールしてアプリケーションの起動もします。 LANSAは、この構成について、カスタムSETUP.EXEのクライアントへ の配布のみをサポートします。その後はユーザー自身でサポートしてく ださい。

クライアントに転送されるファイルは次のとおりです。

- SETUP.EXE
- SETUP.BAT
- <クライアントにインストールされていない次のMSI/MSPファイル
 >

クライアントが13.0以前のバージョンの場合、x_apps\<アプリケーション名>\boot\cab2\build.datファイルサーバーのLANSA一時ディレクトリ(通常%TEMP%)に生成され、クライアントに転送されます。ファイルがクライアントに転送されると13.0以前のクライアントがSETUP.EXEを実行します。内部のビルド番号(例:4051)がクライアントが使っている番号(例:4050)より新しいためです。

アプリケーション・サーバーは元のアプリケーション名と一致しないア プリケーション・ディレクトリを持つことができます。クライアントに は新しい名前をMSIプロパティとして指定する最初のMSIをインストー ルする必要があります。インストールすると、APPL値が新しい値に設 定され、新しいAPPLを使ってJITに添付されます。サーバーはMSIコマ ンド・ラインのAPPLを指定するSETUP.BATを生成します。

APPLはMSIコマンド・ラインでのみ設定できるランタイムのみの値で す。APPLはJITサーバーがある場合にのみ必要です。アプリケーション の最初のインストールでは値の設定も必要です。JITがクライアントに 提供し、クライアントがMSIではなくSETUP.EXEを実行させる (SETUP.EXE, SETUP.TXTおよび MSI)の3つのファイルを提供すると値が 設定されます。APPL値との一貫性を持たせるためにはこのアプローチ を推奨します。別の方法として、クライアントに命令を出し、 msiexec.exeと引き渡すプロパティ値を使ってMSIを実行します。バッ チ・ファイルを提供することもできます。

サーバーは、新しいAPPLディレクトリ名を作成してセットアップしま す。元のディレクトリからMSIファイルをコピーします。これでJITはク ライアントにインストールするアップデートを検索しなくなります。必 要に応じてMSPをコピーして入れると、次回アプリケーションが実行さ れる時にJITがMSPをインストールします。ディレクトリには少なくと も1つのMSIまたはMSPが必要です。ない場合、エラー750がサーバーの X_ERR.LOGに出力されます(0750 - Application testmsi3 not found or no packages in applpkg.dat)。

利用可能なカスタマイズを要約すると次のようになります。

- 1 自分でSETUP.TXTを作成し、MSIプロパティとして公開されているす べてのX_RUN パラメータを含むMSIパラメータを指定します。
- 2 SETUP.EXEは開発者が実行したいどのようなインストールにも置換え られ実行されます。
- 3 異なるパッケージレベルでの複数クライアントのサポートをするため、アプリケーションが生成された時の名前とは別のアプリケーション名を使います。例:LANSAInventoryControlとして生成されたアプリケーションをCustomer1InventoryControl と Customer2InventoryControl ディレクトリに入れることができます。これらはまったく同じソフトウェアを実行していますが、異なるレベルでも保持されます。これらに異なるパッチを与えることもできます。

13. 配布テンプレート

配布テンプレートを使用すると、デフォルト設定とその外観を定義して 保存し、新しいパッケージの雛形として使用できます。パッケージのオ プションと設定のほぼすべてのサブセットをテンプレートに定義できま す。ただし、あるエリア、例えばパッケージの依存関係などは、特定の アプリケーションやパッケージ情報に固有のため、保持できません。 配布テンプレートを使用する理由

- 同じ配布シナリオを繰り返し使用して配布する場合、最初のパッケージをテンプレートとして保存し、このテンプレートを使用して以降のパッケージを作成すれば、時間が節約され、配布のオプションと設定の一貫性が保たれます。
- テンプレートを使用すれば、パッケージのコントロールパネルに表示される情報の量を大幅に抑えることができます。したがって、新しいパッケージの定義と構築時間が大幅に削減されます。また、オプションを非表示に指定して変更できないようにしたり、表示して編集できるようにすることが可能です。つまり、選択するオプションはわずかになり、その一部を「検討が必要なもの」として強調表示できます。

配布ツールには、あらかじめ定義されたテンプレートが数多く備わって います。これらは13.5 提供配布テンプレートに記述されています。

以下も参照してください。

13.1 配布テンプレートを作成する または 13.3 V13以前のテンプレートを 変換

13.2 配布テンプレートの確認、変更、削除

13.4 配布テンプレートのオプションと設定

13.1 配布テンプレートを作成する

配布テンプレートの作成には3つの異なる方法があります。

ステッ 方法 プ

1a. 配布テ メイン・ウィンドウから[テンプレート保守]メニューを選択 ンプレー します。

トを手動 [テンプレート保守]のツールバーまたは[ファイル]メニュー で定義す から新しいテンプレート を要求します。

	☑ テンプレート保守	fail application
	ファイル(<u>E)</u> ヘルプ(<u>H</u>)	
	🔁 🖄 🗙	_
	テンプレート	記述
	XACTIVEX	ActiveX としてう
	XALONE	スタンドアロン システ
l	XAPPSV	アプリケーション サー
		A

または

1b. パッ 配布シナリオにあわせてバージョンまたはパッチを作成す ケージを ると、これを配布テンプレートのひな形として使うことが 配布テン できます。

プレート ひな形として保存するには、コントロール・パネル内で としてコ バージョンまたはパッチを開いた状態で、ファイル・メ

ピーする

3	ニューからテンプレート保存コマンドを選択します。
	- 77° μ/ ΔΑΡΟΙΝΕΤ μ°

	51	y 99-3	ABCIN	151 - 1/ ->	37 I.U.I
	771	′ ⊮(E)	編集(<u>E</u>)	検証(<u>R</u>)	<u>∧ルプ(H</u>
		保存((<u>S</u>)	Ct	rl+S
		保存	して終了(目) Ct	rl+E
l		テンフ°	レート保存(⊻)	
		終了((<u>X</u>)	А	t+X

または

1c.V13以 以前のバージョンのLANSAで自分のテンプレートを作成し 前のテン た場合、そのテンプレートをV13テンプレートに変換する プレート ことができます。 を変換 変換するためには、配布ツール・ウィンドウで[V13以前の テンプレートを変換]コマンドを選択します。

重要-LANSAが提供したテンプレートはバージョン13で再 設計され、古いテンプレートの多くが関連しなくなってい るため、変換しないでください。

UANSA 配布უ-ル						
ファイル(<u>E</u>) 表示(⊻)	ツール	(<u>I</u>)	^ルフ°(<u>H</u>)			
B 🔌 🗶	68	77° I	ケーションを検索			
A CINST - A		77° I	ケーションのバックアップまたは修復			
1.0.0 - A		V13	以前のパッケージを変換			
1.0.1 - A		V13	以前のテンプレートを変換			

トを作成 する

2配布テ 基本のテンプレート・プロパティを定義する[新しいテンプ ンプレー レート)ダイアログが開きます。

⊠ 新しいテンプレート	X
テンプレート	
記述	
	<u> 作成(C)</u> キャンセル(N)

[テンプレート]

アプリケーションの名前を8文字以内で入力してください。 名前の1文字目は英字で始め、途中にブランクを含めないよ うに入力する必要があります。

[記述]

テンプレートの説明を入力して、テンプレートのリストか ら容易に識別できるようにします。

入力が終了したら[OK]を押します。13.4 配布テンプレート のオプションと設定にあるように、テンプレートのコント ロール・パネルが開きます。

13.2 配布テンプレートの確認、変更、削除

既存の配布テンプレートを確認、変更、削除するには、配布ツールのメ イン・ウィンドウで[テンプレートの保守]を開きます。使用するテンプ レートをテンプレートのリストで選択し、テンプレートを開いて 定義 を確認または変更するか、必要に応じてテンプレートを削除 します。 また、テンプレートのリストでテンプレートをダブルクリックするだけ でもテンプレートを開くことができます。

☆ テンプレートに基づくパッケージでは、作成後もテンプレートとの関連付けが保持されます。そのため、選択や変更が可能なオプションが制限されます。 詳細については、「関連付けられたテンプレート」を参照してください。

13.3 V13以前のテンプレートを変換

バージョン13以前のLANSAの環境でテンプレートを開発した場合、そのテンプレートは、変換してバージョン13で使えるようにすることができます。メイン・ウィンドウのツール・メニューで[V13以前のテンプレートを変換]オプションを選択し、LANSAの以前のバージョンで定義されたテンプレートを検索し、変換します。

ツート	(I)	∧ルフ°(<u>H</u>)					
68	アプッリケーションを検索						
アプリケーションのバックアップまたは修復							
	V13以前のパッケージを変換						
	V13	以前のテンプレートを変換					

テンプレートを変換する前に「開発モデル」とバージョン13での配布パ ラダイムでの変更について理解してください。

重要 – LANSAが提供したテンプレートはバージョン13で再設計され、 古いテンプレートの多くが関連がなくなっているため、変換しないでく ださい。

変換インターフェースのプロセスは3つのステップがあります。

1 変換されるテンプレートがあるパスを入力します。

2 変換するテンプレートを選択します。

3 この詳細を確認し、必要に応じて変更します。

詳細が完成したら[OK]を選択し、選択したテンプレートを変換します。

図 V13以前のテンプレートを変換	X
- デンポ [*] ラリ デ [*] ィレクトリ ハ [*] ス [C:\PROGRAM FILES\LANSA\IDETRUNK\W_WIN95\X_LANSA\X_PKGS\X_TMPLT\	
 MYTMPLT - My Template XACTIVEX - Publish LANSA Component wrapped as ActiveX XCLT400 - Client application using SuperServer to connect to a RDML IBM i data server XCLT400X - Client application using SuperServer to connect to a RDMLX IBM i data server XCLTBIF - Client application using SuperServer BIFs to connect to the data server XCLTJITD - Client application using SuperServer that is upgraded by Just-in-Time DLL updates XCLTJITP - Client application using SuperServer to connect to an "Other" data server XCLTOTH - Client application using SuperServer to connect to an "Other" data server XDEVELOP - Deploy to a Development System XDLLSDB - Set up an Application Server with database for DLL Just-in-Time serving 	×
テンプレートとして作成	
記述 My Template	
ОК(O) ++у/t/	▶ ▶

[テンプ テンプレートはコピー元のテンプレートからすでに記入さ レート] れており、修正はできません。

[記述] このテンプレートが何を実行するかを説明するテンプレートの記述を入力します。
13.4 配布テンプレートのオプションと設定

テンプレートを作成するか、既存のテンプレートを開くと、パッケージ 保守ウィンドウとほぼ同じウィンドウが表示されます。[特別な処理の ファイル]のような一部のパッケージ・オプションは、テンプレート定 義に含まれません。これらは、意味のある方法で一般化することのでき ない、パッケージに固有の情報であるためです。

既存のバージョンまたはパッチをコピーしてテンプレートを作成した場合、13.4.1 テンプレート導入オプション表示されたテンプレートには、 基本の設定とオプションが反映されます。テンプレートの確認や、特定 のオプションの非表示または強調表示を選択できます。

値や外観をテンプレートで制御する方法については、「13.4.2 テンプ レートのオプションの値と外観」を参照してください。

13.4.1 テンプレート導入オプション

▲ 画面の図のエリアをクリックすると、詳細にジャンプします。 テンプレートで使用するオプションを指定するには、ウィンドウのメイン領域の導入サブセットおよびツールバーの設定を選択します。これらのオプションの詳細については、「パッケージ保守ウィンドウ」で該当するオプションを参照してください。



このウィンドウでは、オプションはグループ化されています。そのた め、(多くのグループがそうですが)1つのグループ全体を無視して省略値 を適用することができます(アプリケーションのインストールに関連し ていない場合)。例えば、アプリケーションでJIT機能を使わない時は省 略値が適用できます。この場合、JITグループ全体を無視することがで きます。同様に、ローカル・データベースを配布しない場合は、データ ベースオプションを無視することができます。

13.4.2 テンプレートのオプションの値と外観

コントロール・パネルの各オプションを構成して、特定の省略値を設定 したり、オプションの表示方法を、表示されている場合でも指定したり することができます。

同様に、コントロール・パネルのオプションの各サブセットを構成して、サブセット全体の表示方法を、表示されている場合でも指定できます。詳細については、「13.4.3 テンプレートのサブセットの外観」を参照してください。

導入オプションのデフォルト値は、角括弧で囲まれています。 例えば、言語(LANG=)の省略値は[現行]です。 使用する導入 オプションの値を角括弧で囲まないでください。角括弧で囲む と、オプションの値は無視され、そのオプションには配布ツー ルの省略値が使われます。

- ステッ 方法 プ
- 1. テンプレー テンプレートを作成するか、開きます。
- トの導入オプ テンプレートの導入オプションをダブルクリックし
- ションを変更 て、定義を確認します。

例えば、[実行するフォーム]オプションをダブルクリッ クします。



特定のオプションについては、「13.4.1 テンプレート導入オプション」を参照してください。

2. 値の省略値 [値]タブでは、テンプレートの使用時にオプションに適 をセットアッ 用されるデフォルト値を指定できます。 プする 実行するフォーム(FORM=)などのように、フリー

フォーマット入力のオプションの場合、編集ボックス

が表示されます。テンプレートを使用してバージョン を作成するたびに、値を適用される省略値に変更しま す。

実行するフォーム (FORM)	×
値	
UF_EXEC	
□ インストール時のプロンプト	

この場合、セットアップの実行時にこの値のプロンプトを表示してインストール・プロセスで変更できるようにするかどうかも決定できます。関連する場合、一部のオプションには[X_START のプロンプト]も含まれます。

[インストールのプロンプト]

Windowsインストーラーを使用してパッケージをインス トールする場合、このオプションの値を入力または確 認するプロンプトが表示されます。

[X_START のプロンプト]

(通常はデスクトップ・アイコンから) X_RUNを使用し てアプリケーションを実行する場合、アプリケーショ ンの起動時にX_STARTの値のプロンプトが表示されま す。入力した値は、X_STARTプロンプトの省略値とし て使用されます。

あらかじめ定義された値のリストがオプションにある 場合、一連のラジオ・ボタンが[値]タブに表示されま す。

省略値の]ミュニケーション タイプ (CMTH=)	×
(值)	
 クライアント アクセス/400 	
Netsoft	
○ その他の APPC	
○ その他の CPI-C	
◯ Microsoft SNA サーパー	
• TCP/IP	

認する

3. 外観のデ 「外観)タブで、テンプレートを使用する場合のオプショ フォルトを確 ンやオプションのサブセットの表示方法を管理しま す。

[オプションは表示され編集可能]

オプションは通常どおり動作し、選択や編集が可能に なります。

[非表示オプション]

オプションのツールバー・アイコンが使用不可になり ます。テンプレートのオプションに関連付けらている 値はパッケージに適用されますが、これらの値へのア クセスが拒否されます。

[変更不可]

オプションは表示されますが、変更はできません。 [パッケージ/テンプレート・コントロール・パネル] ツールバーで該当のツールバー・アイコンは利用でき ますが、ダイアログの[OK]ボタンは使用不可になりま す。変更はすべて無視されます。

[オプションが必要]

この必須オプションの背景が灰色で表示された場合、 パッケージの生成前に検討が必要です。



4.値と外観の 値と外観の設定を保存するには、ダイアログを閉じる 設定を保存す だけです。テンプレートのインターフェースには、各 る オプションに適用される外観が表示されます。

	Required execution paramet		~
	Language (LANG=)	[Current]	
<u>_•</u> _	Process to Execute (PROC=)	[None]	
	Function to Execute (FUNC=)	[None]	
	Form to Execute (FORM=)	UF_EXEC	
	Partition Identifier (PART=)	[Current]	
	LANSA User (USER =)	[QPGMR]	
			-

5. テンプレー 詳細については、「13.4.3 テンプレートのサブセットの トのサブセッ 外観」を参照してください。

トの外観を セットアップ する

6. パッケージ ツールバーで使用可能な各種オプションと設定を確認 のその他の設 して、テンプレートで必要な他の省略値情報をセット 定とオプショ アップします。

ンをセット たとえばテンプレートを設定し、会社のアイコンを省 アップする 略値のアプリケーション・アイコンとして使うことも できます。

> 詳細については、パッケージの「オプションと設定」 を参照してください。

7 配布テンプ ツールバーまたは[ファイル]メニューの[保存]□オプ

レートを保存 ションを使用するか、ショートカット・キーCtrl + Sを する 使用してテンプレートの定義を保存します。

> また、[ファイル]メニューやショートカット・キーCtrl + Eを使用すると、1つの操作で保存して終了できま す。

> 保存せずに終了するには、[ファイル]メニューで[終了] オプションを使用するか、ショートカット・キーAlt + Xを使用します。あるいは、[テンプレート制御パネル] ダイアログを閉じます。

13.4.3 テンプレートのサブセットの外観

コントロール・パネルのオプションの各サブセットを構成して、テンプ レートでバージョンを生成する場合のサブセットの表示方法を、表示さ れている場合でも指定できます。 これは、情報のサブセットがテンプ レートの実装に関連しない場合に画面からサブセットを削除する便利な 方法です。

[テンプレート・コントロール・パネル]には、オプションの8つのサブ セットがあります。

- 実行の必須パラメーター
- 通信
- JIT
- スーパーサーバー
- データベース
- デスクトップの設定
- アップグレードのオプション
- インストールのダイアログ

テンプレートのサブセットの外観を構成するには、以下の操作を行いま す。

ステッ 方法 プ

1 テンプレー テンプレートを開くか、作成します。テンプレートの トのサブセッ サブセットをダブルクリックして定義を確認します。 トを変更する 例えば、実行の必須パラメータのサブセット全体を構 成できます。

実行の必須パラメーター 導入先デルかり [Default (See Help)] === () ANG-) [Current]

2 サブセット [外観]タブを使えば、テンプレートを使用する場合の の外観のデ オプションのサブセットの表示方法を、表示されてい フォルトを確 る場合でも制御できます。

認する

[オプションは表示され編集可能] オプションのサブセットは通常どおりに動作します。 すべてのオプションは、各レベルで変更されていなけ れば選択可能になります。

[非表示オプション]

テンプレートを使用してバージョンを作成する場合、 オプションのサブセットは表示されません。このサブ セットの特定のオプションの値はパッケージに適用さ れますが、確認や変更は行えません。

[変更不可]

オプションは表示されますが変更はできません。 対応するサブセットが[パッケージ制御パネル]に表示 されますが、関連するオプションは使用不可になりま す。変更はすべて無効になります。

外観	
● オフションは表示され編集可能	
○ 非表示わらい	
○ 変更不可	

3 外観の設定 外観の設定を保存するには、ダイアログを閉じてテン を保存する プレートを保存するだけです。

4 テンプレー 詳細については、「13.4.2 テンプレートのオプショントのその他の の値と外観」を参照してください。

4 テノフレー トのその他の 設定とオプ ションを変更 する 13.5 提供配布テンプレート

パッケージを効率的かつ正確に作成できるように、配布ツールにはあら かじめ定義されたテンプレートが数多く用意されています。これらのテ ンプレートを変更する場合、LANSAを今後アップグレードするときに 変更内容が上書きされないようにテンプレートを別の名前で保存するこ とをお勧めします。

以下の提供テンプレートがあります。

13.5.1 XACTIVEX - ActiveXコンポーネントとしてラッピングされた公開 LANSAコンポーネント

13.5.2 XALONE - スタンドアロン・システム

13.5.3 XAPPSV - JITパッケージ提供のためのアプリケーション・サー バー(データベースなし)のセットアップ

13.5.4 XAPPSVDB - JITパッケージ提供のためのアプリケーション・サー バー(データベースあり)のセット・アップ

13.5.5 XCLT400 - スーパーサーバーを使用してIBM iデータ・サーバーに 接続するクライアント・アプリケーション

13.5.6 XCLT400X - スーパーサーバーを使用してRDMLX IBM iデータ・ サーバーに接続するクライアント・アプリケーション

13.5.7 XCLTBIF - スーパーサーバーの組み込み関数を使用してデータ・ サーバーに接続するクライアント・アプリケーション

13.5.8 XCLTJIT - JIT で更新されたLANSAスーパーサーバー・アプリ ケーション

13.5.9 XCLTOTH - 「その他」のデータ・サーバーに接続するスーパー サーバー・アプリケーション

13.5.10 XEXPORT – **エクスポートの内部定義**

13.5.11 XOTHOBJ - LANSA以外のオブジェクトの配布

13.5.12 XSRVNET - ネットワーク・サーバーのセットアップ

13.5.13 XSRVOTH - 「その他の」データ・サーバーのセットアップ

13.5.14 XTRNAPP – 翻訳するオブジェクトの詳細付き翻訳アプリケー ション

13.5.15 XTRNEXP – 翻訳するオブジェクトの詳細のエクスポート

13.5.16 XWAMENB - WAMアプリケーションのWeb対応

13.5.1 XACTIVEX - ActiveXコンポーネントとしてラッピング された公開LANSAコンポーネント

このテンプレートは、Microsoft WindowsのActiveXコントロールとして 公開されるVisual LANSAコンポーネントの配布に役立ちます。導入先 PCにはVisual LANSAがインストールされていないことが前提になって います。

このテンプレートの目的はActiveXコンポーネントの公開のみのため、 いくつかのオプション・グループが非表示になっています。

このテンプレートで最も重要な点は、インストール後に実行するコマンドとコンポーネント・サポートの配布の選択です。

パッケージ・インストールのアフター・コマンドは次の処理を実行しま す。

- ターゲット・システムでActiveXを使用するためのLANSAコンポーネ ントの登録
- LANSAコンポーネントの実行に必要なセッション構成ファイルの自動作成

▲アフター・コマンドを修正してActiveX DLLを正しく特定 し、関連付けられたコマンドのコメントを解除する前に構成 ファイルの設定を必要に応じて変更します。

パッケージには以下の設定があります。

- コンポーネント・サポートの配布
- サーバー・サポートの配布 (またはx_dll.dllをLANSA以外のオブジェ クトとして含める)

ActiveXの機能にデータベースへのアクセスが必要な場合、以下の設定 も検討してください。

- システム定義の配布
- 配布区画定義
- 実行環境データベース・サポートの配布

☆ コンポーネント・サポートの配布にはX_ActiveX.dll と X_RunDllServer.dll が含まれますが、LANSA ActiveXを使用する ためにはこれらのDLLを登録する必要があります。このステッ プの説明はテンプレートのアフターインストール・コマンドに あります。UACの下でインストールする場合は、DLLを登録す るために管理インストールが必要です。

その他の設定も必要に応じて構成してください。

詳細については、「ActiveX用に発行されるLANSAコンポーネントの配 布」を参照してください。

13.5.2 XALONE - スタンドアロン・システム

このテンプレートを使用して、各自のデータベースを含むスタンドアロンのWindowsアプリケーションとして実行する目的のアプリケーションを配布します。アプリケーションを1つ作成して実行に必要なすべてのオブジェクトを含めます。

パッケージには以下の設定があります。

- システム定義の配布
- 配布区画定義
- 実行環境データベース・サポートの配布
- コンポーネント・サポートの配布

更に、

DBMS タイプ(DBUT=)をMSSQLSに設定します。この設定を必要に応じて変更します。

13.5.3 XAPPSV - JITパッケージ提供のためのアプリケーショ ン・サーバー(データベースなし)のセットアップ

☆ アプリケーション・サーバーをセットアップするには、JIT アプリケーション・サーバーにLANSAをインストールする方法 もあります。このシナリオでは、アプリケーション・サーバー で必要な基本要素のリスナーが自動的にセットアップされま す。

アプリケーション・サーバー(データベースなし - JITパッケージの提供) のセットアップ用バージョンの作成に必要な基本設定が含まれます。 このテンプレートでは、アプリケーション・サーバーに配布される簡単 なリスナー・パッケージが作成されます。これはJITパッケージではあ りませんが、JITアプリケーション・サーバーのセットアップに使用さ れます。

- このテンプレートの目的はオブジェクトを含めることではありませんが、正しくインストールしてデータ・サーバーへの接続が容易になるようにコミュニケーション管理機能と一緒に配布する必要があります。
 LANSAコミュニケーション管理機能にアクセスするデスクトップ・アイコンが作成されます。
- リスナーのインストールは[はい]に設定されています。

実行プロセス(PROC)は*licensesに設定されており、サーバー・ライセン ス・インターフェースを適切なライセンスをJITサーバーに要求し適用 するアラームとして起動します。

X_RUN Argument RNDR=Xにして、サーバー・ライセンス・インター フェースがDirectXアプリケーションとして実行されるようにします。 パッケージには以下の設定があります。

- データベースがないクライアントへ配布
- コンポーネント・サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布
- サーバー・サポートの配布
- このテンプレートはXDLLSRVの後継です。

詳細については、「アプリケーション・サーバー」および「LANSAコ ミュニケーション機能の配布」を参照してください。 13.5.4 XAPPSVDB - JITパッケージ提供のためのアプリケー ション・サーバー(データベースあり)のセット・アップ

☆ アプリケーション・サーバーをセットアップするには、JIT アプリケーション・サーバーにLANSAをインストールする方法 もあります。この方法では、アプリケーション・サーバーで必 要な基本要素のデータベースとリスナーが自動的にセットアッ プされます。

このテンプレートには、JITパッケージを提供するために バージョンを 作成し、アプリケーション・サーバー (データベースあり)のセットアッ プをするのに必要な基本設定が含まれます。これはXAPPSVテンプレー トの拡張子です。

このパッケージは基本的にJITパッケージではありませんが、JITアプリ ケーション・サーバーのセットアップに使用されます。

リスナーのインストールは[はい]に設定されています。

実行プロセス(PROC)は*licensesに設定されており、サーバー・ライセン ス・インターフェースを適切なライセンスをJITサーバーに要求し適用 するアラームとして起動します。

X_RUN Argument RNDRはXで、サーバー・ライセンス・インター フェースがDirectXアプリケーションとして実行されるようにします。 パッケージには以下の設定があります。

- システム定義の配布
- 配布区画定義
- 実行環境データベース・サポートの配布
- コンポーネント・サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布
- サーバー・サポートの配布

以下のデータベース・オプションがあります。

- データベース タイプのMSSQLS
- データベースの詳細を選択および確認するプロンプトが表示されます。
- 通常、コミュニケーション管理機能ファイル(lroute.dat)がこのパッケージに含まれるため、データ・サーバーに容易に接続できます。
- このテンプレートはXDLLSDBの後継です。

詳細については、「アプリケーション・サーバー」および「LANSAコ ミュニケーション機能の配布」を参照してください。

☆アプリケーション・サーバーの場合、アプリケーション・ サーバー自体でアプリケーションを実行しない限り、データ ベースをインストールする必要はありません。 13.5.5 XCLT400 - スーパーサーバーを使用してIBM iデータ・ サーバーに接続するクライアント・アプリケーション

このテンプレートには、LANSAスーパーサーバーを使ってIBM iデー タ・サーバーに接続するアプリケーション用のバージョン作成に必要な 基本設定が含まれています。テンプレートは、ローカル・データベース なしのアプリケーション用に設計されています。 サーバー・タイプをIBM i に設定します。これは変更できません。

リーハー・ダイノをIBM1に設定しまり。これは変更できま

パッケージには以下の設定があります。

- データベースがないクライアントへ配布
- システム定義の配布
- 配布区画定義
- オブジェクト定義を含めない
- コンポーネント・サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布
- 接続先のサーバー名を指定し、これがコミュニケーション管理機能 ファイルにあることを確認します。通常、コミュニケーション管理機能 ファイル(lroute.dat)がこのパッケージに含まれるため、データ・サー バーに容易に接続できます。
- クライアント → サーバー変換テーブル (PSCT)とサーバー → クライ アント変換テーブル (PSST)が正しくセットアップされていることを確 認します。
- 詳細については、「IBM i に接続するスーパーサーバー・アプリケーション」を参照してください。

13.5.6 XCLT400X - スーパーサーバーを使用してRDMLX IBM i データ・サーバーに接続するクライアント・アプリケーション このテンプレートはXCLT400テンプレートの変化型で、サーバータイ プがRDMLX IBM iに設定されています。 13.5.7 XCLTBIF - スーパーサーバーの組み込み関数を使用して データ・サーバーに接続するクライアント・アプリケーション このテンプレートは、スーパーサーバーの組み込み関数を使ってリモー ト・データ・サーバーに接続するLANSAアプリケーションを配布する ように設計されています。

このテンプレートは、LANSAアプリケーションでスーパーサーバーの 組み込み関数を使用してサーバーに接続するように設計されているた め、スーパーサーバーのオプション・グループは非表示になっていま す。その他にも非表示になっているオプション・グループがあります。 パッケージには以下の設定があります。

- データベースがないクライアントへ配布
- システム定義の配布
- 配布区画定義
- オブジェクト定義を含めない
- コンポーネント・サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布
- 通常、コミュニケーション管理機能ファイル(lroute.dat)がこのパッ ケージに含まれるため、データ・サーバーに容易に接続できます。

13.5.8 XCLTJIT - JIT で更新されたLANSAスーパーサーバー・ アプリケーション

このテンプレートには、アプリケーションのクライアントにパッケージ の更新を適用するJITアップグレード・パッケージの基本設定がありま す。

- パッケージには以下の設定があります。
- コンポーネント・サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布 以下のJITオプションがあります。
- 新しいバージョン/パッチのアップグレード・オプション (UPGD)
- IBM i以外の·アプリケーション・サーバーのタイプ

☆最初のバージョンは、通常、アプリケーション・サーバーに インストールされ、各導入先PCは、この場所からアプリケー ションをインストールします。以降のバージョンまたはパッチ は、アプリケーションが起動されるとアプリケーション・サー バーから自動的に導入先PCにインストールされます。 13.5.9 XCLTOTH - 「その他」のデータ・サーバーに接続する スーパーサーバー・アプリケーション

このテンプレートはXCLT400テンプレートの変化型でサーバー・タイプ はIBM i以外に設定され、サーバー除外引数(PSEA) が強調表示され、必 要に応じて提供される必要があります。

詳細については、「PSxx Serverパラメータ」を参照してください。

13.5.10 XEXPORT – エクスポートの内部定義

このテンプレートは、別のLANSAリポジトリにインポートされる内部 のオブジェクト定義(フィールド、コンポーネント、ファイルなど)をエ クスポートするように設計されています。このテンプレートはMSIファ イルを生成しません。

パッケージはインストールできないため、すべてのインストール・オプ ションが非表示になっています。

パッケージには以下の設定があります。

- 開発環境へ配布
- コンパイルされているオブジェクトを含めない

13.5.11 XOTHOBJ - LANSA以外のオブジェクトの配布

このテンプレートには、LANSA以外のオブジェクトを指定の場所に配 布するバージョンの作成に必要な基本設定があります。このテンプレー トは、イメージ、カスケード・スタイルシート、スクリプトなど必要な オブジェクトのファイルが外部リソースとして定義されていない場合、 これらのオブジェクトでWebサーバーをセットアップする場合に役立ち ます。

パッケージには以下の設定があります。

コンポーネント・サポートの配布

バージョンをインストールするには、これらのパッケージの設定が最低 限必要になります。

ほとんどのパッケージ・オプションは、LANSA以外のオブジェクトの インストールに関係ありません。 13.5.12 XSRVNET - ネットワーク・サーバーのセットアップ このテンプレートには、ネットワーク・サーバーへ導入するアプリケー ションのバージョン作成に必要な基本設定が含まれます。 パッケージには以下の設定があります。

- システム定義の配布
- 配布区画定義
- 実行環境データベース・サポートの配布
- 実行環境アドオンの配布
- コンポーネント・サポートの配布
- 更に、
- DBMS タイプ(DBUT=)をMSSQLSに設定します。この設定を必要に応じて変更します。
- このテンプレートはXNETSRVの後継です。

13.5.13 XSRVOTH - 「その他の」データ・サーバーのセット アップ

♀IBM i以外のデータ・サーバーをセットアップするには、 Visual LANSAをインストールする方法が最も簡単です。

IBM i以外のデータ・サーバーのセットアップに使用するアプリケー ションのバージョン作成に必要な基本設定が含まれます。このタイプの サーバーにはスーパーサーバー・クライアントがあると考えられます。 パッケージには以下の設定があります。

- システム定義の配布
- 配布区画定義
- 実行環境データベース・サポートの配布
- 実行環境アドオンの配布
- コンポーネント・サポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布
- サーバー・サポートの配布
- 更に、
- DBMS タイプ(DBUT=)をMSSQLSに設定します。この設定を必要に応じて変更します。

必要なその他のデータベースの設定を確認します。

このテンプレートはXSSVSRVの後継です。

13.5.14 XTRNAPP – 翻訳するオブジェクトの詳細付き翻訳アプ リケーション

このテンプレートを使用してLANSAが提供した翻訳ツールをスタンド アロン・アプリケーションとして配布します。翻訳が必要なリポジトリ を追加して翻訳者に配布します。

このテンプレートはLANSA翻訳ツールのスタンドアロン・アプリケー ションを作成するために設計されています。データベースは必要ありま せん。

パッケージには以下の設定があります。

- データベースがないクライアントへ配布
- オブジェクト定義を含めない
- コンポーネント・サポートの配布
- 翻訳リストを含める
- コンパイルされているオブジェクトを含めない
- その他のオプション値は次のとおりです。
- 実行フォームをXPFTRLTに設定します (LANSAが提供したアプリ ケーションを起動するDirectXフォーム)。
- DBMS タイプをデータベースなしに設定します。
- X_RUN値 RNDR=Xを提供し、アプリケーションをDirectXとして実行します。

選択された言語を変更し、ベースの言語と翻訳が必要な言語を追加 します。

詳細については、「LANSAで開発したアプリケーションの翻訳」を参照してください。

13.5.15 XTRNEXP – 翻訳するオブジェクトの詳細のエクスポート

このテンプレートを使用して翻訳するオブジェクトの詳細をエクスポートします。 翻訳が必要なリポジトリを追加して生成されたテキスト・ファイルを翻訳者に配布します。

このテンプレートはLANSA翻訳ツールのスタンドアロン・アプリケー ションを作成するために設計されています。選択するデータベースや パッケージは必要ありません。

パッケージには以下の設定があります。

- 開発環境へ配布
- オブジェクト定義を含めない
- 翻訳リストを含める
- コンパイルされているオブジェクトを含めない
 選択された言語を変更しベースの言語と翻訳が必要な言語を追加します。

詳細については、「LANSAで開発したアプリケーションの翻訳」を参照してください。

13.5.16 XWAMENB - WAMアプリケーションのWeb対応

このテンプレートを使用して、WEBEVENTベースのアプリケーション をサポートするようにアプリケーション・ランタイム環境をWeb対応に します。

パッケージには以下の設定があります。

- システム定義の配布
- 配布区画定義
- 実行環境データベース・サポートの配布
- コンポーネント・サポートの配布
- ウェブ環境のサポートの配布
- LANSAコミュニケーション機能の配布

パッケージには、Web対応区画に関連付けられた以下のLANSAオブジェ クトがあります。

- システム変数*LANGUAGEおよび*PARTITION
- 内部DC@ファイルの定義(以下の注を参照)とクロスリファレンス・ フィールド
- 更に、
 - リスナーのインストールは[はい]に設定されています。

実行プロセス(PROC)は*licensesに設定されており、サーバー・ライセンス・インターフェースを適切なライセンスをJITサーバーに要求し適用するアラームとして起動します。

X_RUN Argument RNDRはXで、サーバー・ライセンス・インター フェースがDirectXアプリケーションとして実行されるようにしま す。

DBMS タイプ(DBUT=)は MS SQLサーバーに設定されています。この 設定と関連データベースの設定を必要に応じて変更し、内部定義がイ ンポートされるようにします。

すべてのSTD_*ウェブレットとXW*外部リソースを含めることを推 奨します。これらのオブジェクトは、一連のオブジェクトがLANSA のリリースとEPCのアップグレードで変更の対象となるため、テンプ レートに入っていません。

その他の設定も必要に応じて構成してください。

このテンプレートには、区画がweb対応になった時に区画

に作成されるLANSAの内部オブジェクトが含まれま す。<root directory>\LANSA\imports\WEBUTILから 現在の区画に定義をインポートすることもできます(web アプリケーションを配布する場合、区画はweb対応になっ ている必要があります。)ユーザーのパッケージを作成 する前に、関連付けられたDC@ファイル定義を DC@MODLIBにインポートしコンパイルしてください。

14. LANSAで開発したアプリケーションの翻訳

LANSAアプリケーションの開発、もしくはどのようなアプリケーションの開発においても、通常は1つの言語で行われます。複数言語のアプリケーションの場合、アプリケーションを適切な言語に翻訳する作業を完了し、ユーザーに配信する前にすべての翻訳をアプリケーションに組み込む必要があります。

LANSAアプリケーション配布ツールには、翻訳プロセスを円滑に行う 目的で、翻訳が必要なLANSAオブジェクトをパッケージ化する簡単な メカニズムが用意されています。このパッケージには、プロセスを簡単 にするために用意された簡素な翻訳インターフェースが含まれており、 これを担当の翻訳者に配布します。

詳しくは以下を参照してください。

14.1 スタンドアロン翻訳アプリケーションを使用した翻訳

14.2 Visual LANSA開発環境での翻訳

14.3 該当言語の翻訳のロード

14.1 スタンドアロン翻訳アプリケーションを使用した翻訳

- 14.1.1 翻訳が必要なオブジェクトを含むアプリケーションの配布
- 14.1.2 翻訳アプリケーションのインストールおよびオブジェクトの翻訳

14.1.1 翻訳が必要なオブジェクトを含むアプリケーションの配 布

ステッ プ

方法

1. アプリケーションの 翻訳するオブジェクトを挿入するアプリケー 作成 ションを作成します。

 バージョン (または 翻訳者がスタンドアロンの翻訳アプリケー パッチ) の作成 ションを必要とする場合、テンプレート XTRNAPP を使用してバージョンを作成しま す。

> このテンプレートにより、パッケージの[設 定]の [翻訳リストを含める] が設定されま す。つまり、選択したオブジェクトの LANSA内部定義がパッケージとして提供さ れます。

このテンプレートでは、作成されたパッケー ジがスタンドアロンのアプリケーションとし てインストールされるよう設計されていま す。詳細は、「XTRNAPP – 翻訳するオブ ジェクトの詳細付き翻訳アプリケーション」 を参照してください。

作成された既存のバージョンに基づき、この テンプレートでパッチを作成することもでき ます。注意 - 翻訳者が既に翻訳アプリケー ションを持っている場合は、翻訳が必要なオ ブジェクトのみ提供する選択肢もあります。 詳細については、「14.2.1 翻訳オブジェクト の配布」を参照してください。

3. 翻訳するオブジェク [リポジトリ オブジェクトの選択] ^{[□} ダイア トの追加 ログを使用して、翻訳が必要なLANSAオブ ジェクトをパッケージに追加します。

4. 翻訳言語の追加 翻訳する [言語] ◎ を選択します。ソースとして使用する基本言語、および翻訳が必要とされる言語を選びます。

() 言語	X
言語	
🔽 ENG	
IV JPN	
	OK(O) キャンセル
3	

5. パッケージの保存

6. パッケージの生成

7. アプリケーションを 翻訳者に配布 パッケージを [保存] 🗎 します。

バージョンまたはパッチを [生成] **=** しま す。

生成された MSI (または MSP) ファイルを提 供し、バージョンまたはパッチ ✔ を翻訳者 に配布します。

ファイルの翻訳は、「14.1.2 翻訳アプリケーションのインストールおよびオブジェクトの翻訳」の指示に従います。

14.1.2 翻訳アプリケーションのインストールおよびオブジェクトの翻訳

ステッ 方法 プ

1. 翻訳アプ 提供された MSI (または MSP) ファイルを実行して、翻

リケーショ 訳者のシステムに翻訳アプリケーションをインストール ンのインス します。

- トール
 ・ インストールが完了すると、自動的にアプリケーションが起動します。
 - このアプリケーションはデスクトップからも起動できます。
- 2. オブジェ アプリケーションが実行されると、[翻訳言語の選択] ダ クト翻訳情 イアログが自動的に表示されます。翻訳をロードするパ 報のロード スを選択します。省略値は以下の通りです。

C:\Program Files \<Company>\<Application Description>\X_Win95\X_Lansa\X_Apps\ <Application>\<Application>\Source\Tlfiles または、翻訳ファイルのある場所を指定します。 これまでこのユーティリティを使用したことがなけれ ば、翻訳ファイルの省略値パスはインストールされた パッケージに関連付けられた区画のソースディレクトリ になります。 選択可能な翻訳言語はパッケージ作成時の言語に基づい ています。 注:指定された場所にtl*.txt翻訳ファイルがない場合に は、エラーとなり、選択可能な言語がなくなります。 [パスからロード]の入力内容を翻訳ファイルのあるパス に変更するか、翻訳ファイルを指定されたパスに移動し

て、再度ファイルを開いてみてください。翻訳ファイル には、TLLANGS.dat というファイルが含まれていなけ ればなりません。

翻訳処理を続行する場合、[OK]をクリックします。

🚳 翻訳言語の選択	X
ベース言語	ENG
翻訳する言語	JPN 🖌
パスからロード	C:¥Program Files¥LANSA Pty Ltd¥Translation Tool¥X 📼
	OK(<u>O</u>) キャンセル(<u>C</u>)

[ベース言語]

ベース言語はアプリケーションの開発で通常使用してい る言語です。入力された言語により、翻訳の基となる ファイルが決まります。このファイルからの値は[オブ ジェクト詳細の翻訳]ダイアログの上半分に表示されま す。

[翻訳する言語]

新しい翻訳の言語を選択します。翻訳に使用できる言語 は、ソースLANSAシステムに基づき、翻訳ファイル TLLANGS.txt により提供されます。

リポジト 翻訳するLANSAオブジェクトを含めた場合でも、ウィリ・オブ ンドウ左側にあるオブジェクト・リストに沿って作業すジェクト詳 るだけです。

細の翻訳


各オブジェクトを選択すると、ベース言語のテキストが ウィンドウの上部に表示され、翻訳が必要な入力テキス トは下部に表示されます。

翻訳された記述がベース言語の記述よりも長い場合に は、赤で強調表示されます。

念のため、翻訳は定期的に[保存] [■] するようにしてく ださい。

4. 翻訳の保 全てのオブジェクトを翻訳したら、翻訳を[保存] □ し、
 存 ファイルは[閉じる] [●] で閉じます。
 ファイルを保存せずに閉じた場合、入力した翻訳は失われてしまいます。変更を保存していない場合は警告が表示され、変更を保存するオプションが示されます。

5. 翻訳の圧 翻訳ファイル tl*.txt を任意で [圧縮] します。 縮

6. 翻訳ファ 開発環境へ取り込むため、生成されたzipファイル

イルの返却 TLFILES.zip もしくは圧縮していない翻訳ファイル tl*.txt を戻します。 開発環境へのファイルの統合については、「14.3 該当言語の翻訳のロード」で説明されています。.

14.2 Visual LANSA開発環境での翻訳

- 14.2.1 翻訳オブジェクトの配布
- 14.2.2 翻訳アプリケーションの実行とオブジェクトの翻訳

14.2.1 翻訳オブジェクトの配布

ステッ 方法 プ

1. アプリ 翻訳するオブジェクトを挿入するアプリケーションを作成 ケーショ します。

ンの作成

2. バー 翻訳者がVisual LANSA 環境にアクセスできる場合、テン

ジョン (ま プレート XTRNEXP を使ってバージョンを作成します。

- たはパッ このテンプレートにより、パッケージの 設定 の [翻訳リス
- チ)の作成 トを含める]が設定されます。つまり、選択したオブジェ クトのLANSA内部定義がパッケージとして提供されま す。
 このテンプレートは、作成されたパッケージを既存の LANSAシステムにインストールするように設計されてい ます。 詳細は、「XTRNEXP - 翻訳するオブジェクトの 詳細のエクスポート」を参照してください。
 作成された既存のバージョンに基づき、このテンプレート でパッチを作成することもできます。
- 3. 翻訳す [リポジトリ オブジェクトの選択] ^{[□} ダイアログを使用し るオブ て、翻訳が必要なLANSAオブジェクトをパッケージに追 ジェクト 加します。 の追加
- 4. 翻訳言 翻訳する [言語] 🧔 を選択します。ソースとして使用する 語の追加 基本言語、および翻訳が必要とされる言語を選びます。

() 言語		X
言語		
ENG		
JPN		
	OK(O) ++	ッシセル

5. パッ パッケージを [保存] 🖹 します。

ケージの 保存

6. パッ バージョンまたはパッチを [生成] # します。

ケージの 生成

7. 翻訳す \\X_WIN95\X_LANSA\X_APPS\<Application>\X_PKGWRK\
 るオブ
 Version>\Build\source\tlfiles に生成されたファイルを提供
 ジェクト し、バージョンまたはパッチ✓を翻訳者に配布します。
 を翻訳者
 に配布

ファイルの翻訳は、「14.1.2 翻訳アプリケーションのインストールおよびオブジェクトの翻訳」の指示に従います。

14.2.2 翻訳アプリケーションの実行とオブジェクトの翻訳

ステッ 方法 プ

1. 翻訳ア • Visual LANSA にログオンします。インポートするオブ プリケー ジェクトを編集できる権限がある、もしくは機密保護担当 ションの 者でログインしていることを確認してください。 記動

• [ツール] リボンから [翻訳] 🏼 を選択します。

 オブ インターフェースが起動されると、[翻訳言語の選択]ダイ ジェクト アログが自動的に表示され、最後に使用されたパスから翻 翻訳情報 訳ファイルをロードしようと試みます。これまでこのユー のロード ティリティを使用したことがなければ、翻訳ファイルの省 略値の場所は区画のソースディレクトリになります。 選択可能な翻訳言語はパッケージ作成時の言語に基づいて います。

> 注:指定された場所にtl*.txt翻訳ファイルがない場合に は、エラーとなり、選択可能な言語がなくなります。[パス からロード]の入力内容を翻訳ファイルのあるパスに変更 するか、翻訳ファイルを指定されたパスに移動して、再度 ファイルを開いてみてください。翻訳ファイルには、 TLLANGS.dat というファイルが含まれていなければなりま せん。

翻訳処理を続行する場合、[OK]をクリックします。

	×
ベース言語	ENG
翻訳する言語	JPN
パスからロード	C:¥Program Files¥LANSA Pty Ltd¥Translation Tool¥X -
	OK(<u>O</u>) キャンセル(<u>C</u>)

[ベース言語]

ベース言語はアプリケーションの開発で通常使用している 言語です。入力された言語により、翻訳の基となるファイ ルが決まります。このファイルからの値は/オブジェクト詳 細の翻訳]ダイアログの上半分に表示されます。 [翻訳する言語] 新しい翻訳の言語を選択します。翻訳に使用できる言語 は、ソースLANSAシステムに基づき、翻訳ファイル TLLANGS.txt により提供されます。

3. リポジ 翻訳するLANSAオブジェクトを含めた場合でも、ウィンド トリ・オ ウ左側にあるオブジェクト・リストに沿って作業するだけ ブジェク です。 ト詳細の の ポンプが詳細の翻訳

翻訳



各オブジェクトを選択すると、ベース言語のテキストが ウィンドウの上部に表示され、翻訳が必要な入力テキスト は下部に表示されます。

翻訳された記述がベース言語の記述よりも長い場合には、 赤で強調表示されます。

念のため、翻訳は定期的に [保存] В するようにしてくださ い。□

ファイルを保存せずに閉じた場合、入力した翻訳は失われ てしまいます。変更を保存していない場合は警告が表示さ れ、変更を保存するオプションが示されます。

5. 翻訳の 翻訳ファイル tl*.txt を任意で [圧縮] します。 圧縮

6. 翻訳 開発環境へ取り込むため、生成されたzipファイル tlfiles.zip ファイル もしくは圧縮していない翻訳ファイル tl*.txt を戻します。 の返却

開発環境へのファイルの統合については、「14.3 該当言語の翻訳のロード」で説明されています。.

14.3 該当言語の翻訳のロード

ステッ 方法 プ

- 1. 翻訳者 翻訳者は、tlfile.zip ファイルまたは複数のtl*.txt ファイルを から翻訳 戻し、これがリポジトリで処理および統合されます。
- を受信 zipファイルで受信した場合は、ファイルを解凍して関連の tl*.txtファイルを抽出します。戻されたファイルの中に TLSRCCE.txtが含まれていることを確認します。(また は、送信したバージョンに含まれるオリジナルを使用する こともできます。)
- 2. 翻訳を [ツール] リボンから [翻訳のインポート] を選択し、翻訳作 ロード 業が完了して戻された翻訳をインポートします。



LANSAの内部データベースにロードする tl*.txt ファイルの 場所と翻訳言語を入力します。

翻訳のインポート	
パス	S:\INT partition backups\ttfiles
言語	JPN -
	<mark>OK(O)</mark> キャンセル

3. 翻訳の 翻訳がアクティブな区画にロードされます。

ロードを オブジェクト定義をチェックして、選択した言語の翻訳が 確認 アクティブな区画に正しくロードされたことを確認しま す。 15. 配布パッケージの確認

パッケージを生成し配布したら、パッケージの内容と定義を確認する必 要があります。確認するにはいくつかの方法があります。

- パッケージ定義が開いている時に保存しない限り、パッケージに影響を与えずに、15.1 出荷したパッケージを開いて確認することができます。
- オブジェクトの選択と共にクロスリファレンスを使用した場合、15.2 パッケージに含まれているオブジェクトを使用してパッケージに含 まれているオブジェクトの一覧を確認できます。
- あるアプリケーション、もしくは全アプリケーションを検索して、 パッケージにオブジクトが含まれているかどうかを確認するには、 [オプション] メニューの15.3 アプリケーションを検索機能を使用し ます。

15.1 出荷したパッケージを開いて確認する

配布ツールでは、どのパッケージでも開いて確認することができます。 パッケージがすでに配布されている場合、次のような警告が表示されま す。



パッケージを開いて変更した後、変更内容を保存せずにパッケージを閉 じようとすると、変更を適用してからパッケージを閉じるかどうかを尋 ねられます。

[ファイル] メニューで [終了] オプション (Alt+X) を使用すると、[パッケージ制御パネル] を閉じる凶時に発生する警告メッセージは表示されません。



15.2 パッケージに含まれているオブジェクト

ペパッケージを[生成] したら、メイン・ウィンドウでそのパッケージを選択して、ツールバーから [インストールに含まれる全てのオブジェクトを表示] または [パッケージ] メニューの [オブジェクト] ツールを使用します。

生成の段階で、パッケージ定義に含まれるリポジトリ・オブジェクトは クロスリファレンス設定と共に使用され、パッケージに含まれるオブ ジェクトー式が決定されます。

[パッケージに含まれているオブジェクト]ダイアログの1つめのタブ[選択されたオブジェクト]では、パッケージに含むために特定して選択された全オブジェクトの詳細が表示されます。

== パッケーシ、に含まれているわ、シ、ェクト								
選択さ	選択されたオブジェクト クロス リファレンス オブジェクト							
	×							
917	名前	識別子	打	话長	記述			
	PSLSKL	PSLSKL	D	C@DE	社員資格情報ファイル			
	SECTAB	SECTAB	D	C@DE	課コード テーブル			
1	PSLUTLX	PSLUTLX			Personnel System U			
E	PSLINIX	PSLINIX	P	SLUTLX	Create RDMLX Sam			
E	PSLTRG1	PSLTRG1	P	SLUTLX	PSLEVENT trigger			
E	PSLTRG2	PSLTRG2	P	SLUTLX	PSLTIMES trigger			
	PSLVAL1	PSLVAL1	P	SLUTLX	Validate event type			
E	PSLVAR1	PSLVAR1	P	SLUTLX	*DMXHOURLYRATE			
L								
					OK(O)			

2つめのタブ [クロス リファレンス オブジェクト] には、パッケージに含まれている全オブジェクトの詳細が表示されます。つまり、パッケージ に含むために特定して選択されたオブジェクトと、生成時にパッケージ に含まれたクロスリファレンスのオブジェクトです。

📲 パッケージに含まれているわ゙ジェクト								
選択さ	選択されたオブジェクト クロス リファレンス オブジェクト							
	×							
タイプ	名前	識別子	拡張	記述				
8	ADDRESS1	ADDRE		住所1				
8	ADDRESS2	ADDRE		住所2				
	ADDRESS3	ADDRE		住所3				
	COMMENT	COMME		資格取得に関するコ				
	DATEACQ	DATEA		取得日(DDMMYY)				
8	DATEACQR	DATEA		取得日(YYMMDD)				
	DEPTDESC	DEPTD		部門名称				
8	DEPTMENT	DEPTM		部門コード				
	EMPNO	EMPNO		社員№				
8	GIVENAME	GIVEN		社員名				
	GRADE	GRADE		資格等級				
8	GRADEDES	GRADE		資格記述				
	MNTHSAI	MNTHS		月給	•			
				OK(O)				

[パッケージに含まれているオブジェクト] または [クロス リファレンス オブジェクト] タブ上で [ファイルへ保管] ■ オプションを使って、オブ ジェクトのテキスト・ファイルが作成できます。

[削除] オプション ¥ を使って、パッケージからオブジェクトを削除する ことができます。パッケージからオブジェクトが削除されると、パッ ケージを再生成する必要があります。

パッケージを変更して保存する場合、前回パッケージに含まれていたクロスリファレンス・オブジェクトは全て削除されます。クロスリファレンス・オブジェクトは、パッケージの再生成時に再度作成されます。 (定義を再保存せずに)パッケージを再生成する場合、次のような方法があります。

クロスリファレンス・オブジェクトのリストを再度生成する。
 または、

 前回の生成時に作成されたクロスリファレンス・オブジェクトのリ ストを使用する

パッケージに関連付けられたオブジェクトのいずれかが変更された場 合、クロスリファレンス・オブジェクトのリストを再生成することをお 勧めします。



15.3 アプリケーションを検索

メイン・ウィンドウで、[ツール] メニューから [アプリケーション を検索] を選択します。

[アプリケーションを検索]を使用して、オブジェクトが以前に配布されたかどうか、またその場合どのパッケージだったかを確認することができます。

入がう	› ፝ ፤ሳኮመፖፖ° ሀታ-୬ョ	ンを検索	1 4	- B			
オブジュ	小名を含む	PSL		ፖフ°リケー:	ション内 *ALL	· 🕅 🗎	
917°	オブッジェクト	拡張	記述			₽プリケーションー	// [*] −シ [*] ∃ン
E	PSLINIX	PSLUTLX	Create RDML	X Sample Da	ata	BIFS	1.0.0
•	PSLMST	DC@DEM	社員マスター		NPARTD	BIFS	1.0.0
	PSLSKL	DC@DEM	社員資格情報	ファイル	PARTLIB	BIFS	1.0.0
	PSLSKL	DC@DEM	社員資格情報	ファイル	NPARTDTALI	BIFS	1.0.0
=	PSLTRG1	PSLUTLX	PSLEVENT tr	igger		BIFS	1.0.0
<u> </u>	PSLTRG2	PSLUTLX	PSLTIMES tri	gger		BIFS	1.0.0
1	PSLUTLX		Personnel Sys	tem Utilities	- RDMLX	BIFS	1.0.0
=	PSLVAL1	PSLUTLX	Validate ever	it type		BIFS	1.0.0
<u> </u>	PSLVAR1	PSLUTLX	*DMXHOURL	YRATE		BIFS	1.0.0
							キャンセル

検索を開始するには、検索したいオブジェクト名の文字列を入力し、全 てのアプリケーションもしくは特定のアプリケーション内を検索するの かを指定します。[検索]■ボタンを押すと、検索が開始されます。リス ト表示された結果は、[ファイルへ保管]■のボタンを使って、テキス ト・ファイルに保存することができます。

新しい検索を行うには、検索条件を変更して、検索ボタンを再度押しま す。

15.4 V13 以前のパッケージを変換

LANSA V13 以前の環境で定義された複雑なパッケージがある場合、こ のパッケージを変換して V13 の新しいアプリケーションのベースとして 使用することができます。メイン・ウィンドウで、[ツール] メニューか ら [V13 以前のパッケージを変換] を選択し、LANSA の以前のバージョ ンで定義されたパッケージを指定して、変換します。



以前のパッケージが複数のパッケージから構成されている場合、別の場所にインストール (クライアントとサーバー別のパッケージなど) する設計であっても、継続的にインストール (1つのパッケージにはLANSA 実行環境、2つめのパッケージにはアプリケーション・オブジェクトなど) する設計であったとしても、最も複雑なパッケージを変換用に選択します。追加情報は、パッケージ変換が完了後に新しいバージョンに追加することが可能です。

重要 - V13 以前のパッケージに複雑なコマンドが含まれている場合を除き、多くのオブジェクトを選択する場合などの再入力に時間がかかるような複雑なケースでは、むしろ変換せずに、適切なテンプレートを使用して最初から新しいバージョンを生成する方が簡単です。この方が、 ユーザー・インターフェースで使用可能なオプションがテンプレートにより制限されるので、管理も簡単になります。

変換インターフェースは、次の4つのステップで行われます。

- 1. 変換するパッケージのある場所のパスを入力します。
- 2. 変換するパッケージを選択します。
- 3. 該当する会社の詳細を確認します。
- 4. 詳細の入力が終了したら、[OK] を選択し、選択されたパッケージ を変換します。

■ V13以前のパッケージを	r变换
ーパッケージのルート ディレク	ንኮሃ
/ ¹ 7	:\PROGRAM FILES\LANSA\IDE12_PATCHES\X_WIN95\X_LANSA\X_PKGS\
	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
SULX 9 WAMEXP1	- Export generated wam
WBEVENB - We PACKA - Pa	bEvent Enablement
PACKB - WE	EBEvent application setup and install
PACKC - We	eb Server objects t web includes all dlls required for runtime
😚 WEB01 - De	eploy non-LANSA to web server
😙 WEBT1 - te	ist
77°リケーション	WBEVENB
記述	WebEvent Enablement
会社	LANSA Pty Ltd *
バージョン番号	1 . 0 . 0
記述	PACKA より変換
	OK(O) キャンセル

[パス] 変換するパッケージの場所の選択から始めます。このパスは次のような形式でなければいけません。 ... \X_WIN95\X_LANSA\X_PKGS\

[変換 入力されたパッケージのルート・ディレクトリにパッケージ定 する 義が含まれる場合、アプリケーションとパッケージのツリーが パッ 表示されます。 ケージ 変換するパッケージを選択します。この選択されたパッケージ を選 の詳細を利用して、バージョンの詳細が事前に入力されます。 択] 「アプ アプリケーションは、コピーされたアプリケーションから事前 リケーに入力されており、修正はできません。 ショ ン]

- [記述] アプリケーションの説明を入力します。このアプリケーション 記述はアプリケーションのインストールおよびアンインストー ル時に使用されます。 詳細は、「アプリケーションの作成」を参照してください。
- [会社] 必須。

このアプリケーションに関連付ける会社を選択します。会社を 定義するには、[表示]メニューから[会社管理]にアクセスしま す。会社とそれに関連付けられた詳細は、生成中、およびアプ リケーションのインストール・アンインストール中に使用され ます。

詳細については、「会社の詳細の設定」を参照してください。

- [バー バージョン番号を入力します。これが、新しい配布モデルを使
- ジョン 用しての、アプリケーションの最初のバージョンとなります。 番号] 詳細については、「配布モデル」を参照してください。
- [記述] パッケージの説明を入力する、もしくは事前に入力された記述 を使用します。

16. 配布パッケージのテスト

16.1 配布パッケージを生成するPCの割り当て 16.2 配布パッケージのテストに必要なPCの割り当て

16.3 配布済みアプリケーションのトラブルシューティング

16.1 配布パッケージを生成するPCの割り当て

開発者のPCから直接アプリケーションを配布することは推奨できません。

パッケージの構築と生成に専用のコンピュータを用意します。これは、 配布するアプリケーションの開発や実行に使用しないものにしてください。

これにより、パッケージが最初に生成された後に追加された変更を誤っ て含めることなく、バージョンやパッチを必要に応じてテスト、生成す ることができます。開発が終了したら、その最新のパッケージをパッ ケージ構築用コンピュータに移動します。コントロールされた環境で パッケージを構築または再構築できます。こうすることで、予期せぬ変 更が含まれる危険を防ぎます。

16.2 配布パッケージのテストに必要なPCの割り当て

顧客にパッケージを配信する前に必ずテストを行います。これは時間の かかる作業ですが、インストールを問題なく確実に行うためには不可欠 です。

サポートするPC構成に配布パッケージをインストールしてテストを行います。以下を考慮してください。

- 各種オペレーティング・システム
- PCに対する最小限の仕様の設定
- 各種言語のインストール(必要に応じて)
- インストール時に変更可能なSETUP値のバリエーション
- アプリケーションの起動時に使用可能なX_START値のバリエーション
- 各種DBMSタイプ Sybase ASA および MS SQL Server
- (配布オブジェクトと配布環境の両方に)必要なユーザー権限の確認
- メディア、またはパッケージが顧客に配信される配信元(セントラル・サーバーやCD-ROMなど)からのパッケージのインストール・テスト

☆パッケージに含めるX_START値のプロンプトやインストール 値の柔軟性を高めると、それに応じて、パッケージの信頼性と 完成度を確実にするために必要なテスト回数も多くなります。 16.3 配布済みアプリケーションのトラブルシューティング

配布済みアプリケーションが正常にインストールまたは更新された後、 アプリケーションの実行時に問題が発生した場合は、他のVisual LANSA アプリケーションの場合と同様、x_err.log を参照します。警告か致命的 エラーなのかを具体的に確認します。

この x_err.log ファイルは、エラー発生時に自動的に生成され更新されま す。これは、開発環境でもLANSAアプリケーションの実行時も同じで す。

x_err.log について役立つ情報

- すべてのVisual LANSA アプリケーションで、エラー発生時に x_err.log が生成されます。
- x_err.log は、通常、ユーザーの一時ディレクトリにあります。ただし、ユーザーのPC構成によっては他の場所になる場合があります。
 x_err.log を探す一番の方法は、ハード・ディスクを検索することです。
- 新しいエントリーはx_err.logファイルの未尾に追加されます。このため、長時間が経過すると、x_err.logファイルのサイズはかなり大きくなります。ですから、x_err.logファイルを定期的に削除し、古いエントリーを消去することをお勧めします。
- 配布ツールを使用する場合、パッケージ作成時にLANSAアプリケー ション・エラーが発生する場合にのみ x_err.log ファイルが検出され ます。パッケージの作成に関するメッセージは、別ファイルの lpcreate.logに記録されます。詳細については、「パッケージの生成ロ グ」を参照してください。
- クライアント/サーバー環境では、エラー発生時にアプリケーション がクライアント側で実行されていると、[致命的 エラー]ダイアロ グ・ボックスに詳細が表示されます。ただし、(CONNECT_SERVER 経由で) X_RUNをサーバーで実行している場合、サーバーはクライ アントでダイアログを開始できません。この場合、詳細のログは x_err.log ファイルに記録されます。

詳細については、『Visual LANSA 管理者ガイド』の「トラブルシュー ティング」を参照してください。 17. アプリケーションのインストール

バージョンまたはパッチを定義し生成すると、そのバージョンまたは パッチを配布してインストールする準備ができます。

バージョンまたはパッチのインストールに使用されるメカニズムは3つ あります。最も多く使われるオブションは次のとおりです。

Windows インストーラー・ファイルのインストール

JITインストール

- インストール時に問題が発生した場合は、「17.4 インストールのトラブ ルシューティング」を参照してください。
- LANSA インポート を使って、LANSA開発環境に定義をインストールすることもできます。
- 注 開発環境への配布を指定した場合、Windows インストーラー・ファ イルは生成されません。 開発環境に定義をインストールする方法につ いては、「LANSAのインポート」を参照してください。

17.1 Windows インストーラー・ファイルのインストール

バージョンが正常に生成されると、MSIファイルが作成されます。サー バー・インストール、クライアント・インストール、ネットワーク・ク ライアントやその他のバリエーションでのアプリケーションのインス トールに必要なオブジェクトをすべて含んでいます。

同様にパッチが正常に生成されると、MSIファイルが作成されます。 MSPは、MSIファイルを使って以前にインストールされたアプリケー ションの上にインストールする必要があります。パッチをインストール する場合、新しいまたは変更されたオブジェクトのみがインストールさ れます。パッチに含まれている変更のないオブジェクトは再インストー ルされません。オブジェクトが変更されたかどうかは、出荷されたDLL のファイル・バージョン番号によって判断されます。詳細については、 「DLLバージョン情報の設定」を参照してください。

配布ツールの生成処理で生成されたMSIまたはMSPファイルは、自動的 にMicrosoft Windows インストーラー処理(msiexec.exe)に関連付けられま す。次のようにするとインストールを開始することができます。

- 17.1.1 エクスプローラーのMSIまたはMSPファイルのダブルクリック または、
- 17.1.2 msiexec.exe コマンドライン・オプションを使う。

すべての配布ツールインストールは、自動的にインストールの動作をエ ンドユーザーが定義した %TEMP% フォルダのMSI*.logファイルにロ グします。 例としてMSI2ce4c.logがあります。

アプリケーションがインストールされるだけではなく、各アプリケー ションについて、会社とアプリケーションの記述をフォルダ名に使った Windowsの標準のプログラム・メニュー・フォルダも作成されます。こ れは、同じ会社の記述を使って生成され、同じPCにインストールされた アプリケーションはすべてグループ化されるということを意味していま す。 17.1.1 エクスプローラーのMSIまたはMSPファイルのダブルク リック

ステッ 方法 プ

1. パッケー 生成されたMSIまたはMSPファイルを配布メディアまたは ジを配布す 適切な場所にコピーします。

省略値では、アプリケーションは<system directory>\X_WIN95\X_LANSA\X_APPSに生成されま す。

バージョンまたはパッチのインストーラー・ファイルは次 の下にあります。

<system directory>\X_WIN95\X_LANSA\X_PKGS\ <application>\

2. アプリ Windowsエクスプローラを開き、適切な言語のWindowsイ ケーション ンストーラー・ファイルを探します。

のインス .msi または .msp ファイルをダブルクリックして実行しま トール す。

> アプリケーションのインストールが開始されます。プロン プトに従い、インストールに必要な詳細事項を指定しま す。インストールが完了すると、アプリケーションは自動 的に開始されるか、またはデスクトップから起動すること ができます。

17.1.2 msiexec.exe コマンドライン・オプション

コマンドラインからインストールする場合、MSIファイル名が msiexec.exeコマンド・プロンプトのコマンドのパラメータとして提供 されます。コマンドの一般的なフォーマットは次のとおりです。

```
msiexec /Option <必要なパラメータ> [オプションのパラメータ]
```



msiexec.exe にはコマンドの動作を変更する、追加のパラメータとスイッ チがあります。コマンドにより、無人、サイレント、詳細モードのイン ストールが可能です。ログ・レベルもパラメータ・レベルで変更できま す。

MSIまたはMSPファイルの指定が必要な場合、フル・パスが必要になる ことがあります。そのため、常にフル・パスを指定することをお勧めし ます。

```
インストール・オプション
   </package | /i> <Product.msi>
   製品をインストールまたは構成
 /a <Product.msi>
   管理者インストール-製品をネットワークにインストール
 /j<u|m> <Product.msi> [/t <Transform List>] [/g <Language ID>]
   製品を広告 - m: すべてのユーザー, u: 現在のユーザー
 </uninstall | /x> <Product.msi | ProductCode>
   製品をアンインストール
オプションの表示
 /quiet
   サイレント・モード、ユーザーとの対話はない
 /passive
   無人モード - プログレスバーのみ
 q[n|b|r|f]
   ユーザー・インターフェースのレベルの設定
   n-UIなし
```

b-基本UI r - 縮小UI f - フルUI (省略値) /help ヘルプ情報 再起動オプション /norestart インストール完了後に再起動しない /promptrestart 必要な場合、ユーザーに再起動のダイアログを表示 /forcerestart インストール後、常にコンピュータを再起動する ログ・オプション /l[i|w|e|a|r|u|c|m|o|p|v|x|+|!|*] < LogFile>i-ステータス・メッセージ w-致命的ではない警告 e-すべてのエラー・メッセージ a - アクションの起動 r-アクション固有の記録 u-ユーザーの要求 c-初期UIパラメータ m-メモリー不足または致命的な終了 o-ディスク領域不足のメッセージ p-ターミナルのプロパティ v - 詳細出力 x-追加のデバッグ情報 +-既存のログ・ファイルに追加 !- 各行をログにフラッシュする *- VとXのオプション以外のすべての情報をログする /l* <LogFile>と同じ /log <LogFile> オプションを更新 /update <Update1.msp>[;Update2.msp] 更新を適用 /uninstall <PatchCodeGuid>[;Update2.msp] /package <Product.msi | ProductCode> 製品の更新を削除 修復オプション /f[p|e|c|m|s|o|d|a|u|v] <Product.msi | ProductCode> 製品を修復

p-ファイルがない場合のみ

o-ファイルがない、または旧バージョンがインストールされている場合(省略値)

e-ファイルがない、または同バージョンまたは旧バージョンが インストールされている場合

d-ファイルがない、または異なるバージョンがインストールされている場合

c-ファイルがない、またはチェックサムが計算値と異なる場合 a-すべてのファイルを強制的に再インストール

u-必要なユーザー固有のレジストリ入力(省略値)すべて

m-必要なコンピュータ固有のレジストリ入力(省略値)すべて

s-(既存のショートカット(省略値)すべて

v-ソースより実行し、ローカル・パッケージに到達

Publicプロパティを設定

[PROPERTY=PropertyValue]

コマンドラインにオプションが指定されていない場合、またはコマンド ラインの処理時にエラーが発生した場合、msiexec.exeを使ってヘルプ・ ダイアログが表示されます。

Windows [®] Installer. V 5.0.760	01.17514	-
msiexec /Option <required pa<="" th=""><th>arameter> [Optional Parameter]</th><th></th></required>	arameter> [Optional Parameter]	
Install Options		=
<pre></pre>	oduct.msi>	
Installs or	configures a product	
/a <product.msi></product.msi>		
Administra	tive install - Installs a product on the r	netwi
/j <ulm> <product.ms< td=""><td>si> [/t < Iransform List>] [/g <languag< td=""><td>je ID</td></languag<></td></product.ms<></ulm>	si> [/t < Iransform List>] [/g <languag< td=""><td>je ID</td></languag<>	je ID
Advertises	s a product - m to all users, u to currer	nt use
<pro< td=""><td>the analyst</td><td></td></pro<>	the analyst	
Display Options	the product	
/quiet		
Quiet mod	e no user interaction	
/passive		
Unattende	ed mode - progress bar only	
/q[nbrf]		
Sets user	interface level	
n - No UI		
b - Basic	UI	
r - Reduce	ed UI	-
•		•
_		

インストール・コマンドの例

バージョンのインストール msiexec.exe /i <product>.msi

バージョンの管理者インストール msiexec.exe /a <product>.msi

パッチのインストール

msiexec.exe /p <product>.msp

データベースの更新のパッチをイ msiexec.exe /p c:\<product>.msp ンストール SUDB=1

Windows インストーラーのオンライン・リソースを使い、コマンドライン構文の追加文書を見つけます。

17.1.3 管理者インストール

ユーザー・アカウント制御(UAC)を有効にしてインストールを実行する 場合、管理者権限の必要なタスクは次のとおりです。

- すべてのユーザー・インストールの実行
- ローカル・データベースの更新

管理者グループのメンバーではないユーザーのためにアプリケーション またはパッチをWindowsインストーラーを使ってインストールする権限 昇格を実行するためには、インストールを特権コマンド・プロンプトか ら開始する必要があります。

アプリケーションのインストールに特権が必要な場合、以降のWindows インストーラーを使ったアプリケーションの再インストールまたは修復 にも権限昇格が必要です。

UACの詳細については、関連のMicrosoftの文書を参照してください。 コマンド プロンプトに管理者権限でアクセスするには、[管理者として 実行]オプションを[コマンド プロンプト]メニューから選択します。

 アクセサリ Snipping Tool 		Add to PractiCount (Standard) ファイルの場所を開く(I) 開く(O)
	()	管理者として実行(A)
 コマント フロシフト サウンド レコーダー マットワーク プロジェクターへの接 		Microsoft Forefront Endpoint Protection でスキャンします Count with PractiCount (Standard)
 」はじめに ファイル名を指定して実行 プロジェクターへの接続 ペイント 	ą	SDL Trados Studio 2009 ・ SDL Trados Studio 2011 ・ WinZip ・ タスク バーに表示する(K) ・ スタート メニューに表示する(U) ・
▲ リモート デスクトップ接続	R	Compare with Diff Doc
M ワードパッド	4	Unlocker
🗹 数式入力パネル		以前のバージョンの復元(V)
□ 電卓		送る(N)
 ・ ・		切り取り(T) コピー(C)
		削除(D)
プログラムとファイルの検索		名前の変更(M)
		プロパティ(R)

[コマンド・プロンプト]ウインドウから、 必要なパラメータを使って msiexec.exeコマンド・ラインを実行します。

WindowインストーラーがUACの条件で実行され、管理者インストール と表示されない場合、インストールは限られたインストールとして実 行され、すべのユーザーインストールは実行されません。

■ 管理者: コマンド プロンプト C:¥Src¥Visual Lansa¥X_Win95¥X_Lansa¥X_Apps¥D20A>msiexec.exe ¥i D20A_v1.22.33_enus.msi

17.1.4 Web ブラウザーからのインストール

生成処理により1つのMSIファイルが生成されるため、Windowsインストーラー・ファイルは、URLから簡単に起動できます。

C → C + ttp://localhost/ P → C × C → P → C × C →	合分贷
× Google ・ ・ · · · · · · · · · · · · · · · · ·	🧕 ログイン・ 📩 🔹
人事システムのインスト ール v1 22 333	
$ = (- \mu (- \mu - \mu$	
$\frac{\sqrt{1}}{\sqrt{1}}$	
Han an and a second	

リンクをクリックしてMSIファイルをダウンロードし、アプリケーショ ンをインストールします。

このファイル	レを実行また(は保存しますか?
18	名前: 種類 発信元	D20A v1.22.333 en-us.msi Windows インストーラ パッケージ, 3.50 MB 10.2.2.217 実行(B) (保存(S) 年少セル
•	インターネットの を起こす可能し 行したり保存し)ファイルは役に立ちますが、このファイルの種類はコンピュータに問題 注があります。発信元が信頼できない場合は、このソフトウェアを実 ぶりしないで伝さい、金珠性の18月

MSIファイルに有効なデジタル証明書の署名がある場合、以下の警告は 無視されます。詳細については、「デジタル署名」を参照してください。

開いている	るファイル - セキュリティの警告	×
発行元	を確認できませんでした。このソフトウェアを実行しますか?	
12	名前: D20A v1.22.333 en-us.msi 発行元: 不明な発行元 種類: Windows インストーラ パッケージ 発信元: 10.2.2.217	
र २०म छि	実行(R) キャンセル	.
8	このファイルには、発行元を検証できる有効なデジタル署名がありません。信頼 きる発行元のソフトウェアのみ実行してください。 <u>実行することのできるソフトウェ</u> 詳細を表示します。	ር 70

17.1.5 SCCM による統合

Visual LANSA配布ツールは標準のWindowsインストーラーのMSIおよび MSPファイルを作成するので、これらのファイルはMicrosoftシステム・ センターの構成管理またはシステム管理サーバー・ツールに統合できま す。2つの製品は、どちらもアプリケーション・ソフトウェアを会社の 環境内で配布するための高度な機能とLANSAのJITアップグレードの代 わりの機能を提供します。 17.1.6 バージョン・インストールのダイアログ

バージョン(MSIファイル)のインストール時に表示されるダイアログ は、パッケージを作成時に選択されたオプションおよび設定とWindows インストーラーの実行時に使われたmsiexec.exeインストール・パラメー タに依存します。

パッチ(MSPファイル)は、インストール動作は変更できるという1つのダ イアログ構成のみを表示します。データベース・セットアップ・ダイア ログと、有効にできる唯一のオプションである、セットアップ・データ ベースのチェックボックスです。データベースの1人のユーザーを除 き、このボックスをチェックしないでください。1人のユーザーのみが データベースをセットアップする必要があります。このことは極めて重 要です。

インストールがサイレントまたはパッシブ・モードで実行されると、以 下のダイアログを表示せずにWindowsインストーラーを実行することが できます。

/quiet サイレント表示オプション. Windowsインストーラーは、ユーザー・インターフェースを表示せずにインストールを実行します。プロンプト、メッセージ、ダイアログ・ボックスはユーザーには表示されません。 このモードでは、ユーザーはインストールを取り消すことができません。

/passive パッシブ表示オプション.

Windowsインストーラーはプログレスバーを表示し、インス トールが進行中であることを示しますがユーザーにプロンプ トやエラー・メッセージは表示されません。.このモードで は、ユーザーはインストールを取り消すことができません。

詳細については、msiexec.exeのリソースを参照してください。

「ようこそ」ダイアログ

以下は、アプリケーションの記述を使ってアプリケーションを特定した、Windowsインストーラーの標準の「ようこそ」ダイアログです。 D20Aのようなアプリケーション名は、アプリケーションのある面で重要ですが、通常エンドユーザーは記述によってアプリケーションを特定します。

[次へ]を押してインストール・ウィザードを進めます。


エンドユーザー・ライセンス許諾ダイアログ

省略値のエンドユーザー・ライセンス許諾 がディレクトリに提供されて います。…\X_Apps\X_Wix\Content\license.rtf これは例として提供されて おり、バージョンまたはパッチが生成される前にユーザー自身のライセ ンス許諾を反映するように変更される必要があります。

または、アプリケーションおよび/または言語固有のライセンス許諾の バージョンを特別な処理のファイルで提供することもできます。詳細に ついては、「特別な処理のファイル」を参照してください。

ライセンス許諾条件に同意し、[次へ]を押してインストール・ウィザー ドを進めます。

B LANSA demonstration Setup	X
End-User License Agreement Please read the following license agreement carefully	
Common Public License Version 1.0 THE ACCOMPANYING PROGRAM IS PROVIDED UNDER THE TERMS OF THIS COMMON PUBLIC LICENSE ("AGREEMENT"). ANY USE, REPRODUCTION OR DISTRIBUTION OF THE PROGRAM CONSTITUTES RECIPIENT'S ACCEPTANCE OF THIS AGREEMENT.	
1. DEFINITIONS "Contribution" means:	Ŧ
<u>Print</u> <u>Back</u> <u>N</u> ext	incel

インストールの範囲ダイアログ

インストールの範囲ダイアログを使うと、ユーザーはすべてのユーザー 用または現在のユーザー用に製品をインストールするかを選択できま す。

省略値では、UACの条件で操作している場合にエンドユーザーは特権的 地位を与えられないため、現在のユーザー用のインストールのみ実行で きます。このインストールは、インストール処理時にユーザーがデータ ベースのインストールや変更をする能力も制限します。

UACの条件で操作している場合にすべてのユーザー用のインストールを 実行するためには、アプリケーションを管理者コマンド・プロンプトか らインストールする必要があります。詳細については、「管理者インス トール」を参照してください。

適切なオプションを選択し、[次へ]を押してインストール・ウィザード を進めます。

🖞 LANSA demonstration Setup
Installation Scope
Choose the installation scope and folder
🔿 Install just for you (Kate)
LANSA demonstration will be installed in a per-user folder and be available just for your user account. You do not need local Administrator privileges.
Install for all users of this machine LANSA demonstration will be installed in a per-machine folder by default and be available for all users. You can change the default installation folder. You must have local Administrator privileges.
Back Next Cancel

導入先フォルダ・ダイアログ

導入先フォルダ・ダイアログは、アプリケーションの記述および会社の 記述を使って、アプリケーションをインストールする省略値の場所を構 築します。

- すべてのユーザー用のインストールでは、Windows インストーラー は自動的に定義されたプログラム・フォルダを先頭に追加します。
- 現在のユーザー用のインストールでは、Windows インストーラーは 自動的に現在のユーザーの仮想フォルダを先頭に追加します。

生成された導入先フォルダは、希望の場所を入力するか、または希望の 場所を参照することにより、変更することができます。アプリケーショ ンがインストールされると:

- 特別なファイルはユーザーサブフォルダにインストールされ、開発 者が定義したショートカットは、ターゲットとしてこの場所を使い ます。
- X_Startファイルは実行サブフォルダに、アプリケーションのコード を拡張子として作成されます。これらのファイルはアプリケーショ ンに関連付けられ、Explorer内でダブルクリックすると、アプリケー ションが起動します。
- ネットワーク・クライアントMSIファイルは、実行 サブフォルダに インストールされます。



適切な導入先フォルダを選択し、[次へ]を押してインストール・ウィ ザードを進めます。

HANSA demonstration Setup
Destination Folder Click Next to install to the default folder or click Change to choose another.
Install LANSA demonstration to:
C:\Program Files (x86)\LANSA Pty Ltd\LANSA demonstration\ Change
Back Next Cancel

アプリケーション・ダイアログのセットアップ

このダイアログは、配布ツールオプションの[アプリケーション・ダイ アログの表示]が選択された場合にのみ表示されます。

このダイアログで提供される値、およびその値が変更可能かどうかは、 アプリケーションを定義する際に配布ツールのインターフェースで選択 されたオプションによって決定されます。

スタートアップ・フォーム、スタートアップ処理、スタートアップ・ ファンクションに入力された値は、ウィザードが完了した時にアプリ ケーションの起動に使われるDLLを示します。これらの3つのオプショ ンの内の1つのみを入力する必要があります。

詳細については、「実行の必須パラメータ」を参照してください。

必要に応じて値を確認または変更し、[次へ]を押してインストール・ ウィザードを進めます。

B LANSA demonstration	Setup	
Setup the Applicat	ion e default application settings or edit as required	
Dbms Type	MSSQLS	(DBUT)
Partition	DEX	(PART)
Language	ENG	(LANG)
Startup Form	VL_DEM20	(FORM)
Startup Process		(PROC)
Startup Function		(FUNC)
Initial Function		(INIT)
	Delete Previous Application	(DPAP)
	<u>Back</u> Next	Cancel

ローカル・データベース・ダイアログのセットアップ

このダイアログは、配布ツールオプションの[DBMSダイアログの表示] オプションが選択された場合にのみ表示されます。このダイアログは、 アプリケーションをWindowsのデータベースとともにインストールする 場合のみに関係します。

省略値では、データ・ソース名は適切な言語のアプリケーションの記述 に設定されます。

- 「データベースのセットアップ」オプションがチェックされていない場 合、データベースの追加および変更はインストール処理で無視されま す。
- [データベースのセットアップ] および [V12 データベースのアップグ レード] オプションは、UACの条件で操作している場合、特権的インス トールでのみ有効になります。このインストールでは、管理者はアプリ ケーションの最初のインスタンスをインストールしてデータベースを セットアップする必要があります。セットアップすると、特権のない ユーザーがそのデータベースにアクセスし、アプリケーションのデータ ベース以外のコンポーネントをローカルに自分のPCにインストールでき るようになります。

右のかっこにはいったフィールド・スタート・ファイルのコード(DBII など)にも注意してください。標準のmsiexec.exeパラメータおよび '/i'や '/q'のようなスイッチと同様、これらのコードはコマンドラインに設定さ れ、配布ツール・アプリケーションのフィールド値、例えばDBII='My App DSN', DBSV=SRV1\SQLEXPRESS や DBAS=ACMEDBを設 定します。

☆ 入力ボックスの右の値は、コマンドラインからmsiexec.exeを 使ってインストールを実行する際、対応するパラメータの設定 に使用できるX_RUNまたは特別な値を示しています。例え ば、msiexec.exe /p c:\<product>.msp DBAS=LANSADB SUDB=1 などがあります。

必要に応じて値を確認または変更し、[次へ]を押してインストール・ ウィザードを進めます。

B LANSA demonstration	Setup	 X
Setup the Local Dat Click next to install the	abase default local database settings or edit as required	
Data Source Name	LANSA demonstration	(DBII)
Server	PCEN7/W7\SQLSERVER	(DBSV)
Database	LANSADB	(DBAS)
User		(DBUS)
Password		(PSWD)
Local Database	Setup Database Upgrade V12 Database	(SUDB-UPDB)
Upgrade Folder	C:\X_WIN95\X_LANSA\X_DEX\	(UDBP)
	Browse	
	Back Next	Cancel

サーバー・ダイアログのセットアップ

サーバーのセットアップに関連するダイアログは2つあります。これら のダイアログは[スーパーサーバー・オプション1の表示]および[スー パーサーバー・オプション2の表示]が配布ツール・オプションでそれぞ れ選択された場合にのみ表示されます。

☆注 - 入力ボックスの右の値は、コマンドラインから msiexec.exeを使ってインストールを実行する際、対応するパラ メータの設定に使用できるX_RUNまたは特別な値を示してい ます。例えば、msiexec.exe /p c:\<product>.msp DBID=*AS400 PSLU=LANSA99などがあります。

必要に応じて値を確認または変更し、[次へ]を押してインストール・ ウィザードを進めます。

このダイアログは、配布ツールオプションの[スーパーサーバー・オプ ション1の表示]が選択された場合にのみ表示されます。このダイアログ は、アプリケーションをWindowsのデータベースとともにインストール する場合のみに関係します。

Click next to install the de	fault server settings or edit as required	
LANSA User Name	QPGMR	(USER)
Primary Server User Name	QPGMR.	(PSUS)
Primary Server Password		(PSPW)
L <mark>U Partner Name</mark>		(PSLU)
Server Type		(PSTY)
Commitment Control		(PSCC)

このダイアログは、配布ツールオプションの[スーパーサーバー・オプ ション1の表示]オプションが選択された場合にのみ表示されます。この ダイアログは、アプリケーションをWindowsのデータベースとともにイ ンストールする場合のみに関係します。

😸 LANSA demonstration Setup		
Setup the Server Click next to install the default ser	rver settings or edit as required	
DBCS Compatable Divert Locks Show Wait Message Server Execution Priority Client to Server Table Server to Client Table		(PSDB) (PSDL) (PSWM) (PSEP) (PSCT) (PSST)
	<u>B</u> ack Next	Cancel

タイプ・ダイアログのセットアップ

現在、標準、カスタムまたは完全なインストールに違いはありませんが、将来リリースされるLANSAでは利用される可能性があります。

[次へ]を押してインストール・ウィザードを進めます。

🔡 LANSA demonstration Setup
Choose Setup Type Choose the setup type that best suits your needs
Typical Installs the most common program features. Recommended for most users.
Custom Allows users to choose which program features will be installed and where they will be installed. Recommended for advanced users.
Complete All program features will be installed. Requires the most disk space.
<u>B</u> ack <u>N</u> ext Cancel

確認ダイアログ

決します。

前のダイアログで値を入力または確認すると、最後のダイアログが表示 され、明確な問題を強調表示し、インストールの開始前に詳細の最終確 認ができるようにします。入力された値に基づき、インストールの場 所、DSNおよびデータベース・サーバーへのアクセスを確保するための 確認を含む複数の確認が実行されます。 検証が失敗すると、[インストール]ボタンが無効化され、インストール の継続を防止します。テキスト情報を確認し、[戻る]ボタンを使ってダ イアログを戻り、値を修正するか、または外部環境を変更し、問題を解

[インストール]を押してインストール処理を開始します。

B LANSA demonstration Setup
Ready to install LANSA demonstration
Installing the application "LANSA demonstration" for all users
Creating a new folder "C:\Program Files (x86)\LANSA Pty Ltd\LANSA demonstration"
Updating the existing DSN "LANSA demonstration"
Connected to the "MSSQLS" database server "KATEW7\SQLSERVER"
Back Install Cancel

プログレス・ダイアログ

これは、インストールの進行状況を表示する、標準のWindowsインス トーラーのMSIダイアログです。

[キャンセル]を押してインストール処理を中断します。

B LANSA demonstration Setup	
Installing LANSA demonstration	
Please wait while the Setup Wizard installs LANSA demonstration.	
Status:	
<u>B</u> ack <u>N</u>	Lext Cancel

完了ダイアログ

インストールが正常に完了すると、以下のダイアログが表示されます。 ダイアログの下部にアプリケーションを自動で開始するオプションがあ ります。このオプションは、アプリケーション・ダイアログのセット アップで指定され、記述されたフォーム、ファンクションまたはプロセ スを起動します。デスクトップ上にアプリケーションのショートカット が作成されます。

[完了]を押してインストール処理を終了し、オプションでアプリケー ションを起動します。



17.1.7 パッチ・インストールのダイアログ

MSIファイルを使ってアプリケーションのインストールと、互換性のあるMSPファイルで、アプリケーションにパッチを適用することができます。

パッチ・インストールはバージョン・インストールの全機能はサポート していないため、ダイアログの数は大幅に少なく、構成に関する入力が できません。

☆注 - バージョンは1.22.333のように3つのパーツ番号で構成 され、パッチには1.22.333.4444のように4つのパーツ番号が使わ れ、その番号はパッチの基になったバージョンに関連していま す。バージョンがリリースされ、インストールされた後にバー ジョンを再構築しないことも重要です。以降のパッチも、バー ジョンのために生成された一連のGUIDを使って再構築し、再 リリースされないと、バージョンとの互換性がなくなるためで す。Microsoft Windowsインストーラーの技術は、この関係を強 化します。 「ようこそ」ダイアログ 以下は、アプリケーションの記述を使ってアプリケーションを特定し た、Windowsインストーラーの標準の「ようこそ」ダイアログです。

[次へ]を押してインストール・ウィザードを進めます。



B LANSA demonstration Setup	X
Ready to update LANSA demonstration	
Click Update to update LANSA demonstration from your computer. Click Bac or change any of your installation settings. Click Cancel to exit the wizard.	k to review
Back Update	Cancel

確認ダイアログ

アプリケーションが直接データベースのテーブルを使う場合、エンド ユーザーは質問に答えればよいだけなので、パッチのインストールは簡 単です。質問はデータベースをセットアップするかどうかというもので す。一人を除くすべてのデータベースのユーザーのチェックボックスを オフにする必要があります(省略値)。

パッチとアプリケーションの最初のバージョン、および最初のバージョ ンの現在の構成とのリレーションシップのみが必要です。アプリケー ションのインストールに記述されたのと同じ手順に従ってパッチが開始 されると、エンドユーザーは、次に進むかどうかを確認すればよいだけ です。

パッチは多岐にわたる変更を配布しますが、通常'.dll'および '.exe'ファイルの更新、ショートカットの変更などを伴います。

パッチには、例えばテーブル定義の変更のように、データベースの変更 を含むことができます。省略値の動作は、データベースのテーブルを以 前の状態に戻しますが、パッチによって追加された新しいカラムをド ロップする以外、すべてのデータを現在の状態に保持するため、データ ベースの変更のアンインストールには慎重な検討が必要です。例えば制 限数の小さい以前のカラムに、より多くの数を入れて復元するなど、複 雑なデータベースの変更によっては、復元が失敗することがあります。 もちろん、データベースの変更を含むパッチをインストールする前に、 バックアップを作成する必要があります。さらに、パッチのアンインス トールが必要な場合も、その前にバックアップを作成する必要がありま す。

[次へ]を押してインストール・ウィザードを進めます。

Personnel System Se	tup		
Ready to update	Personnel System		
Click Update to upda change any of your	ate Personnel System fro installation settings. Clic	om your computer. Clic k Cancel to exit the wi	k Back to review or zard.
	Ba	ack Update	Cancel

プログレス・ダイアログ

これは、インストールの進行状況を表示する、標準のWindowsインス トーラーMSIダイアログです。

[キャンセル]を押してインストール処理を中断します。

🛃 LANSA demonstration Setup
Updating LANSA demonstration
Please wait while the Setup Wizard updates LANSA demonstration.
Status: C:\Program Files (x86)\LANSA Pty Ltd\LANSA demonstration\X\X_Run.exe
Back Next Cancel

完了ダイアログ

パッチが正常に適用されたかどうかの確認は、完了ダイアログで伝えら れます。

[完了]を押して終了しウィザードを閉じます。



17.1.8 ネットワーク・クライアントのインストール

メイン・アプリケーションのインストールは一般に一次インストールと よばれ、ほとんどの一次インストールで自動的に作成され、一次インス トールによって配布される小さいMSIファイルのインストールである ネットワーク・インストールと区別されます。ネットワーク・クライア ントのインストールは、インストールが実行されるファイル・サーバー 上で、一次インストールへのショートカットのみをインストールしま す。

クライアント・アプリケーションを会社の環境でインストールするに は、最初にファイル・サーバー上で一次アプリケーションをインストー ルしてください。次に、そのファイル・サーバーにアクセスできるネッ トワーク・クライアント・インストールのMSIファイルへのショート カットをユーザーに提供します。例えば次のようになります。

\\SRV1\Programs\ Lansa Pty Ltd\Personnel

System\X_Win95\X_Lansa\Execute\D20A_Client_En-us.msi



上記のプログレス情報も表示する導入ダイアログは、ネットワーク・ク ライアント・インストールにのみ表示されるダイアログです。クライア ントは一次インストールを作成されるショートカットのターゲットとし て使用するため、構成オプションは不要です。これらのショートカット は一次インストールの定義によって定義される必要があります。

17.1.9 [アプリケーションの変更、修復または削除] アプリケーションは次のようにして変更、修復、削除できます。

- アプリケーションのインストールに使われたMSIファイルを再実行する。
- 標準のWindowsプログラムおよび機能ダイアログを使う。

☆ 注 - 現在、 変更 機能は実行されますが、変更のオプション はありません。 将来のリリースでは、文書のインストールのよ うなオプション機能が実行されることがあります。

MSIファイルの再インストール

アプリケーションがインストールされると、MSIファイルの再実行により、エンドユーザーに保守ダイアログが表示されます。保守ダイアログ を使うと、アプリケーションのインストール・オプションの変更、アプリケーションの修復またはアンインストールができます。

Personnel System Setup
Change, repair, or remove installation Select the operation you wish to perform.
Change Lets you change the way features are installed.
Repair Repairs errors in the most recent installation by fixing missing and corrupt files, shortcuts, and registry entries.
Remove Removes Personnel System from your computer.
<u>B</u> ack Next Cancel

アプリケーションの最初のインストール以降にMSIファイルが再構築された場合、アプリケーションは、[Windowsプログラムおよび機能] イン ターフェースを使ってアンインストールされる必要があります。その後 必要な修正をした新しいバージョンのインストールが可能になります。



Windowsプログラムおよび機能

もしくは、[Windowsプログラムおよび機能]ダイアログを使い、以下を 実行します。

アプリケーションをダブルクリックし、アプリケーションを削除 する。

右クリック・メニューを使ってアプリケーションの変更、修復ま たは削除を選択する。

アプリケーションの記述、会社の記述およびバージョン番号を使ってプ ログラム・リストの中のアプリケーションを識別します。配布ツールの 会社情報にURLの記述が含まれている場合、そのURLは、URLを含んだ アプリケーションが選択された場合に使用可能です。これはアップグ レードにアクセスするウェブサイトにリンクするために便利なメカニズ ムです。

T				×
😋 🗢 🗟 « Programs 🕨 Pro	ograms and Features	✓ 4 Searce	th Programs and Features	٩
Control Panel Home View installed updates	Uninstall or change a pro	ogram from the list and the	n click Uninstall, Change, or	
Turn Windows features on or off	Repair.			
Install a program from the	Organize 🔻 Uninstall Change	Repair		0
network	Name	Publisher		
	Visual LANSA			
	💋 Adobe Flash Player 10 ActiveX	Adobe Systems Incorporated		
	AutoIt v3.3.6.1	AutoIt Team		
	🔄 LANSA (Selective removal)		LANSA	
	💷 LANSA RSS Reader 2.0		LANSA	
	🔄 App using 3rd Party ActiveX		LANSA Pty Ltd	
	🔄 LANSA Personnel System	Uninctall	NSA Pty Ltd	
	Translation Tool	Change	NSA Pty Ltd	
	LANSA ActiveX	Change	NSA Pty Ltd	
	Client server app	Repair	NSA Pty Ltd	
	Microsoft .NET Framework 4 Client Profile		Microsoft Corporation	
	Microsoft .NET Framework 4 Extended		Microsoft Corporation	
	Microsoft SQL Server 2008		Microsoft Corporation	
	🔀 Microsoft Outlook 2010		Microsoft Corporation	
	Microsoft Office 2000 SR-1 Premiu	um	Microsoft Corporation	
	Microsoft SQL Server 2008 Setup S	Support Files	Microsoft Corporation	
	Compatibility Pack for the 2007 O	Microsoft Corporation	+	
	Microsoft SOL Server /III8 Native	Microsoft Corporation	•	
	LANSA Pty Ltd Produc	.com.au		

[アプリケーション]をダブルクリックするだけで、アンインストールが 開始されます。



17.2 JITインストール

JIT配布は、パッケージのセットアップを配布し、JIT処理で使用するための集中型の自動更新機能です。

アプリケーションに関連付けられたすべてのパッケージ、つまり最初の バージョンと以降のアップグレードバージョンまたはパッチは、集中ア プリケーション・サーバーにインストールされます。

JITインストールは、最初のアプリケーションのバージョンをインス トールする時に設定する必要があります。この最初のバージョンは、 MSIを使って導入先PCに適用される必要があります。

最初のインストールが終わると、ユーザーが導入先PCからアプリケー ションを起動するたびに、導入先PCはアプリケーション・サーバーに接 続して、インストールする新しいアップグレード版があるかどうかを確 認します。新しいアップグレード版は、アプリケーションが起動される 前に自動でインストールされます。

このオプションは、アプリケーションのアップグレードの配布に関する 管理コストを大幅に削減することができます。

詳細についてはは、「JITアップグレードの手引き」を参照してください。

17.3 LANSAのインポート

パッケージの設定を開発環境への配布として作成された配布パッケージ は、標準のインポート・オプションを使って別のLANSA開発環境へ直 接インポートできます。

これはLANSAの内部定義をLANSAシステムの間で移動させるメカニズ ムです。

- このインポートでは次のことは実行しません。
- アプリケーションのインストール
- DLLの配布
- 実行時環境を含める。
- インストール・オプションまたは設定を処理する。

方法 ステッ プ

1. LANSA開 パッケージをインポートしようとする区画を選択するよ 発環境にログ うに注意してユーザーのLANSA開発環境にログオンし オンする。 ます。

インポートに使われる適切なタスクも選択します。

2.

[LANSAエディター・ツール]メニューで[インポート]オ LXXDIR.DEL プションを選択する。これにより、LANSA開発環境内 を探してイン でインポートを実行できます。

ポートする。 パッケージ・フォルダを探し、パッケージ・フォルダの 下にある内部フォルダを選択します。このフォルダは、 配布ツールにより作成されたLXXDIR.DELファイルを含 んでいる必要があります。このファイルをインポートす るファイルとして選択します。

aller alle			and a set		X
🕒 🔾 🗢 📕 « 1.0.0 🕨 Build 🕨 interna	al 🕨		Search		Q
🌗 Organize 🔻 🏢 Views 👻 🗾 Open		🕙 Burn			?
Favorite Links		Name	Date modified	Туре	-
Documents		🌗 after	2/02/2012 10:17 AM	File Folder	
		퉬 before	2/02/2012 10:17 AM	File Folder	
Pictures		lxxbdf.asc	2/02/2012 12:11 PM	ASC File	:
Music		🔊 lxxbdf.asf	4/12/2008 8:49 AM	ASF File	
More »		🔳 lxxdir.del	2/02/2012 12:11 PM	DEL File	-
Folders	~	lxxf02.asc	30/01/2012 2:29 PM	ASC File	
		🔊 lxxf02.asf	4/12/2008 8:49 AM	ASF File	
X PKGWRK		lxxf03.asc	30/01/2012 2:29 PM	ASC File	
100		🔊 lxxf03.asf	4/12/2008 8:49 AM	ASF File	
Build		lxxf26.asc	30/01/2012 2:29 PM	ASC File	
Bin		🔊 lxxf26.asf	23/08/2010 4:15 PM	ASF File	
internal		lxxf46.asc	2/02/2012 12:11 PM	ASC File	
Dbi	-	•	Type: ASC File		P.
Ixxdir.del Date modified: 2/02/2012 12:11 PM		Size: 228 bytes			
DEL File Size: 140	byte	5	Date modified: 2/02/2	012 12:11 PM	1
Date created: 2/02	2/201	2 10:17 AM			

ルックイン

インポートされるファイルを含んだディレクトリを指定 します。

ファイル名

インポート・リストを含むファイル名を指定します。省 略値では、LANSAのインポートはインポート・リスト を含むLXXDIR.DELファイルを作成します。

タイプのファイル

検索するファイルのタイプを指定します。インポート・ リスト・ファイルの省略値は*.del ファイルです。

3.

[開く]ボタンを押してインポートを開始します。 LXXDIR.DEL インポートが完了したら、エラーがないか、インポー を開いてイン ト・ログを確認します。 ポートする。

17.4 インストールのトラブルシューティング

MSI*.log

すべての配布ツールインストールは、自動的にインストールの動作をエ ンドユーザーが定義した %TEMP% フォルダのMSI*.logファイルにロ グします。 例としてMSI2ce4c.logがあります。

dpinstal.log

パッケージがWindows インストーラー・ファイルのインストールを使っ て、または JITインストールとしてインストールされる場合、インス トール処理により、ディレクトリにログ・ファイル dpinstal.log が作成さ れます。…\X_APPS\<application>\<Version or Patch>.

アプリケーションのインストール中に問題やエラーが発生した場合 は、dpinstal.logファイルを確認します。具体的には、警告または致命 的なエラーを確認します。

installtrace.txt

dpinstal.logの質問によりインストールの失敗の理由が特定されない場合は、一時ディレクトリにあるinstalltrace.txtファイルを確認します。

...%temp%.

このファイルはインストールの最初から最後までの進行をログし、 LANSAに転送して解析される必要があるかもしれません。

18. 既存のMSIアプリケーションのアップグレード

エンドユーザーは、現在のアプリケーションをダウングレードすること はできません。例えばバージョン 1.22.444をバージョン 1.22.333にアッ プグレードすることはできません。



既存のアプリケーションの上に新しいバージョンをインストールするの に使われるのと同じ手順に従ってください。つまり、単にMSIファイル をダブルクリックするか、または msiexec.exe をコマンドラインから実 行します。

アップグレードの省略値は、すべての設定を前のインストールと同じに します。アップグレードではローカル・データベース・ダイアログが表 示され、ダイアログが有効になっている場合、必要に応じてセットアッ プ・データベース・チェックボックスの選択ができます。他のユー ザー・データ入力ダイアログはすべて省略されます。したがって、アッ プグレードには以下のダイアログのみ表示することができます。

- 「ようこそ」ダイアログ
- ライセンス許諾ダイアログ
- ローカル・データベース・ダイアログ(任意)
- 確認ダイアログ
- プログレス・ダイアログ
- 完了ダイアログ

上記のダイアログの詳細については、「17.1.6 バージョン・インストー ルのダイアログ」を参照してください。

アップグレード処理では、新しいアプリケーションのバージョンのイン ストールの前に、以前のバージョンのアンインストールが必要です。新 しいバージョンは、データベースの変更を含む完全なアプリケーション を含む必要があります。新しいインストールは旧バージョンの区画フォ ルダーのコピーを保存し、データベース上でアップグレード処理を実行 する前にそのフォルダーを復元します。テーブルについては、データを アンロードし、変更を適用し、次にデータをリロードします。 アプリケーションの新しいバージョンは以前のバージョンと同時にイン ストールできません。したがって、新しいバージョンのインストールで は、常に以前のバージョンが先に削除され、コントロール・パネルには 1つだけエントリーされます。

19. 既存のV12アプリケーションのアップグレード

省略値では、MSIはすべてのユーザー用のインストールでは\プログラ ム・ファイルに、現在のユーザー用のインストールでは\ドキュメント および設定にインストールされます。既存のバージョン12のLANSAア プリケーションが代替の場所にインストールされている場合、MSIは同 じ場所、例えばc:\x_win95のような省略値の場所、にはインストールで きません。

バージョン12のLANSAアプリケーションをアップグレードするため に、LANSAの開発者は、MSIがアップグレードの機会を提供する必要が あることを確認する必要があります。MSIファイルがインストールされ ると、現在のインストールの場所のダイアログを表示し、最後にインス トールされたアプリケーションを省略値として提供します。MSIファイ ルは新しい場所にすべての区画をコピーし、その後インストールを実行 します。具体的には、MSIファイルはデータベース・テーブルを正しく アップグレードすることができます。

この機能をサポートするために、MSIには2つの設定があります。

以前の アプリケーションがすでに導入先のコンピュータの別のディ 導入先 レクトリにインストールされている場合、インストール処理 ディレ で自動的に以前のインストールの削除を試みることができま クトリ す。アプリケーション・コードを使ってレジストリ内の以前 の削除 のインストールの場所を検索し、関連付けられたフォルダの 消去を試みます。この設定は導入時にダイアログを表示する ことができます。 はい-アプリケーションが以前インストールされていた場所 からディレクトリを削除します。 いいえ – アプリケーションが以前インストールされていた場 所からディレクトリを削除しません。 省略値:[いいえ]

以前の 以前のインストールを削除する場合、インストールされた時 アプリ の以前のアプリケーションのフォルダ名を表示します。この ケー 名前と一致するデスクトップ・アイコンまたはプログラム・ ション フォルダはインストール処理時に削除されます。

のフォ 省略値:[アプリケーション名]

のディ

レクト

IJ

詳細については、「アップグレード・オプション」を参照してくださ い。 20. 操作手順

20.1 配布バージョンの作成

20.2 必要なサーバーへの接続

20.3 オブジェクトを含むパッケージの検索

20.4 アプリケーション定義のバックアップ

20.5 外部ActiveXコントロールの配布

20.6 ActiveX用に発行されるLANSAコンポーネントの配布

20.7 ユーザー定義RDML組み込み関数の配布

20.8 アプリケーション用ランタイム・ライセンスのインストール

20.9 DLL のバージョン情報の設定

20.1 配布バージョンの作成

配布ツールを実行する主な目的は、配布バージョンの作成です。最初の 配布バージョン作成の際の開始から終了までのプロセスを簡単に示す と、以下ようになります。



配布バージョンの作成方法

「非実働」環境での MSI インストールのテスト

アプリケーションを正しく配布するために、「配布の計画」時で大切な ことは、必要なオブジェクトを含めること、そしてバージョン定義のた めの適切な「オプションと設定」を使用することです。
20.2 必要なサーバーへの接続

アプリケーションに全てのフォームから継承された祖先フォームがあ り、CONNECT_SERVER組み込み関数を用いてサーバーに自動接続され るような場合、どのようにして正しいサーバー名を取得するのでしょう か。

注 - 経路テーブル lroute.dat はアプリケーションと共に提供されます。 これには、次のような選択肢があります。

- 開発と配布に別のシステムを使用。この場合、複数の経路テーブルを 持つことになり、「固定の」サーバー・シンボリック名を使うことが できます。このオプションでは、アプリケーションは配布サーバーに 移動してから配布する必要があります。
- 2. 2つの経路テーブルを別の場所に作成。各バージョンの作成前に、コミュニケーション管理機能を使用して経路テーブルの場所をテーブルが発送される位置に変更します。このオプションでは、各生成の前後に経路テーブルのパスを変更することを覚えておかないといけません。
- 3. 2つのサーバー・シンボリック名を作成(例:DEVとPROD)。祖先 フォームを修正して、システム・タイプ(DEV/PRODなど)を示すレジ ストリ・エントリーを取得します。このレジストリ値を設定するに は、各導入時(導入コマンドの後)に実行されるファンクションで、こ れが実稼働システム(PROD)であることを示すレジストリ・エント リーを追加するようにします。つまり、両方のエントリーを持つ経路 テーブルを1つ作成して、導入先システムにインストールできます。 開発領域ではレジストリ・エントリーは手作業で作成し、値DEVを設 定します。

3番目の選択肢が最も柔軟性が高く、何台ものサーバーに対応して拡張 することができます。

20.3 オブジェクトを含むパッケージの検索

特定のオブジェクトもしくはオブジェクト・グループを含むパッケージ を確認するには、[ツール] メニューから[アプリケーションを検索...]を 使用します。



オブジェクト名、もしくは名前の一部を入力し、検索する特定のアプリ ケーションを指定、もしくは全てのアプリケーションを検索するかを選 択します。

オフ*シ*エクトのアフ*リケ-	ションを検索				
オフジェ外名を含む	COMPANY		アフツケーション内 🗛	· A 🗎	
タイフ゜ オフ・シ・ェクト	拡張	記述		アフリケーショ	iン ∧ バージョン
COMPANY		会社名		AAA	BBB
					閉じる <u>(C)</u>

[検索] ■ボタンを押して検索を開始してください。

結果は[ファイルへ保管] ➡ オプションを使用して、テキストファイルに 保管できます。

20.4 アプリケーション定義のバックアップ

アプリケーションの情報はLANSAデータベースに保存されずに、シス テムの X_APPS ディレクトリに格納されます。 アプリケーションは、 最初のバージョンが正常に生成された時に生成される、1セットのGUID により識別されます。このGUIDのセットはアプリケーションを識別す るとともに、アップグレートやパッチの際にも利用されます。この GUIDがなければ、ソフトウェアのアップグレートもパッチも行うこと ができません。

この設計のおかげで、パッケージの移動やコピーが簡単に柔軟に行えま す。ですが、このディレクトリの定期的なバックアップを計画し、シス テム・クラッシュに備えて最新の定義、特にこのGUIDが失われないよ うにしなければいけません。

バックアップおよび復元の機能は、[ツール] メニューから選択できま す。



全てのアプリケーションは\..\X_WIN95\X_LANSA フォルダのディレ クトリ X_APPS に保存されます。このディレクトリがどこにバック アップされるべきかを指定します。同様に、アプリケーション定義の復 元時は、どこのアプリケーションを復元するのかを指定します。

■ アプリケーション定義のバ	ックアップ。または修復	X
パ [®] スのBackup	C:\TEMP\X_APPS	
	Backup 修復	キャンセル

配布ツールを頻繁に使用している間は、X_APPS ディレクトリを定期 的にバックアップする計画を立てることをお勧めします。

20.5 外部ActiveXコントロールの配布

 一部のLANSAアプリケーションには、サードパーティのActiveXコント ロールで提供される機能が組み込まれます。Visual LANSAはすべての標 準ActiveXインターフェースをサポートします。

ActiveXコントロールの中には包括的なインストール・プログラムが含 まれているものがあり、PCにコントロール自体が自動的に登録されます (例えば、Microsoft OfficeのActiveXコントロールの場合、導入先PCに Officeをインストールする必要があります)。ただし、単一の.DLLまた は.OCXファイルで提供されるActiveXコントロールもあります。ActiveX コントロールをサポートする単一ファイルをアプリケーションと一緒に 出荷する場合、配信できるパッケージの大きさがかなり小さくなる一方 で、インストール手順はさらに複雑になります。あるいは、ActiveXコ ントロールとアプリケーションを手動でインストールする方法をユー ザーに指示することもできます。

配布パッケージにActiveXコントロールを含めるには、[導入後に実行するコマンド]を定義して、コントロールを自動で登録できます。(単一ファイルが必要な場合にのみ機能)

次の例では、配布パッケージと一緒にRICHTX32.OCXコントロールを 配信します。

ステップ

方法

1. バッチ・ファイル バッチ・ファイルRICHTX32.BATを以下のよう RICHTX32.BATの作成 に作成します。

> Move RICHTX32.OCX %windir%\System32\ Regsvr32 %windir%\System32\Richtx32.OCX

このバッチ・ファイルの最初の行では、 Richtx32.OCXが(標準のWindows環境変数で) Windows System32ディレクトリに移動されま す。

2行目は、Regsvr32.exeを使用してActiveXが登録されます。

2. バッチ・ファイルの バッチ・ファイルと同じディレクトリに テスト DLL/OCXを配置して実行し、各自のPCでバッ チ・ファイルをテストします。

3. 配布パッケージの作 成	アプリケーションに関連するオプションを使 用して配布パッケージを作成します。
4. ActiveXコンポーネ ントの挿入	ActiveXコンポーネントを直接選択し、パッ ケージ内に、もしくは、クロスリファレン ス・オブジェクトとして含まれることを確認 します。
5. 非LANSAオブジェ クトを追加しActiveX コンポーネントをサ ポート	以下の非LANSAオブジェクトを追加します。 RICHTX32.OCX (多くの場合、 Windows\System32ディレクトリに存在) RICHTX32.BAT (ステップ1で作成したもの) 両方のオブジェクトが一時ディレクトリにイ ンストールされるようにその導入パスを変更 します。

6.インストール後に実 [実行するコマンド]を選択して、インストール 行するコマンドの設定 後に実行するコマンドを定義します。

💽 実行する	*4492		and the second s
導入前に実	行するコマンド	導入後に実行す	สมาวหา
順序	ステータス	1721	∧°ラメーター
1.00	ALL	SYSTEM	%TEMP%¥RICHTX32.BAT

7. パッケージの配布。 パッケージを保存、生成して、リリースしま す。そして状況に合わせて配布します。

☆配信するActiveXコントロールのライセンス契約の準拠につ いては、配信側の責任となります。一部のコントロールでは、 アプリケーションと一緒に配信する場合、特定のライセンスが 必要になります。

20.6 ActiveX用に発行されるLANSAコンポーネントの配布

LANSAアプリケーションを作成する場合、選択したLANSAコンポーネ ントをActiveXコントロールとして発行すると、アプリケーションの機 能を他の配布ツールでも使用できるようになります。コンポーネントを ActiveXコントロールとして発行する方法について、『Visual LANSA 開 発者ガイド』の「ActiveXのラッピング」を参照してください。 このコンポーネントを配布する場合、インストール時の登録と、コント ロールのアクセス時に使用するセッション構成ファイルの作成が必要と なります。以下はコンポーネントを配布する手順です。ターゲット・シ ステムで ActiveX を使用するためにコンポーネントを登録し、コンポー ネントの実行に必要なセッション構成ファイルを自動で作成する方法が

説明されています。

ステッ 方法 プ

 パッ テンプレートXACTIVEXを使用して配布パッケージを作成 ケージのします。アプリケーション・パッケージのオプションと設定 作成 が正しいかを確認します。

2. [リポジトリオブジェクトの選択]ダイアログで、ActiveX コ ActiveX ントロールとして発行されたLANSAコンポーネントを選択 コント してパッケージに追加します。

ロールの

追加

3. 導入後 [導入後に実行するコマンド]を開きます。

に実行す コマンドを含むコメント行を複製します。EXECFATAL およ

るコマン び、xxxxxxxの箇所をコンパイルされたコンポーネント名 ドの変更 に置換します。

> 区画実行ディレクトリにセッション構成ファイルを自動で作 成するには、OPENコマンドとCLOSEコマンドの間の行をす べて非コメント化して、各自のインストールに合うようにパ ラメータを調整します。構成ファイルには、X_RUNパラ メータが含まれます。各X_RUNパラメータの定義について は、『LANSA テクニカル リファレンスガイド』の「X_RUN コマンドの使用」を参照してください。

4. パッ パッケージを保存、生成して、リリースします。そして状況

ケージの に合わせて配布します。 配布。

☆ LANSAコンポーネントを ActiveX コントロールとして使用 し、非LANSAアプリケーションを配布する作業は配布側の責任 となります。 スーパーサーバー機能がLANSAコンポーネントに組み込まれて いる場合、ActiveXコントロールをサポートするにはLANSAラ イセンスが必要です。

20.7 ユーザー定義RDML組み込み関数の配布

手動で作成されたユーザー定義のRDML組み込み関数

(UD_YYYYYYYYYYYYYYY)は、配布ツールのパッケージにオブジェ クトが追加された場合、ユーザー定義の組み込み関数セクションには表示されません。プロセス/ファンクションのセクションに表示されます。

実行環境に配布する

ランタイムDLLを配布するには、配布ツールの[プロセス]/[ファンクション]オプションで組み込み関数を選択します。

開発環境に配布する

開発環境の場合、パッケージの[設定]で[開発環境へ配布]を選択し (*SYSEXPORT)、テーブルLX_F47とLX_F48が新しい環境に伝達される ようにします。任意で、[プロセス]/[ファンクション]からユーザー定義 の組み込み関数を選択して、別の開発環境に配布するパッケージに組み 込み関数のDLLを追加できます。 20.8 アプリケーション用ランタイム・ライセンスのインストー ル

インストールされたアプリケーションにランタイム・ライセンスが必要 な場合は、LANSA ライセンスのインターフェースを実行してインス トールされる必要があります。

ライセンス・インターフェースへのショートカットをアプリケーショ ン・プログラムのグループに提供するには、プロセス *LICENSES を実 行するための特別処理の付いたファイルにエントリーを作成する必要が あります。例えば次のようになります。

🕑 特別	処理のファイル	19-16	1 1 12	-NT DATA DAL		X
×	_	_	_			
ID	タイプ	言語	記述	Λ°ス	ጋ° በセスパ° ラメーター	
001	XRun	JPN	Apply Licenses		proc=*licenses	-
002						
003						
004						
005						
006						
007						
008						-
					<mark>ОК(О)</mark> ++>th	

アプリケーションがインストールされると、アプリケーション・プログ ラム・グループからライセンス・インターフェースにアクセスできるよ うになります。



ライセンス・インターフェースを手動で実行するには、次のコマンドを 使います。

<Application folder>\X_Win95\X_Lansa\Execute> x_run proc=*licenses lang=<language>

20.9 DLL のバージョン情報の設定

LANSA オブジェクトがコンパイルされると、特定の情報がDLL内に生成されます。出荷されるDLLに、アプリケーションの正しい情報が含まれているかは、以下のように確認できます。

- 1. ソースコードを取得して、ビルド・コンピュータに入れます。
- LANSAの設定で、コンパイル・オプションの DLL バージョン情報を 適切な値に設定します。バージョン情報は配信される各バージョン、 もしくは各パッチごとに修正する必要があります。
- アプリケーションの最初のバージョン用のすべてのコンパイル可能な アプリケーション・オブジェクトをコンパイルします。これに続く バージョンやパッチでは、修正されたオブジェクトのみのコンパイル が必要です。
- 4. 配布ツールを使って、バージョンまたはパッチを生成します。
- 5. エンドユーザーに、インストール用のMSI または MSP ファイルを配 信します。

パッチの場合、パッチに更新された DLL を配布するためにはバージョ ン情報が変更されなければいけません。これはMicrosoft の必要条件で、 バージョン番号によりパッチ・ビルダーが起動され、オブジェクトが含 まれます。これに関する1つの問題は、何が配布されたのかを正確に把 握できないことです。簡単に確認できるのは、バージョン番号で、パッ チに含まれる可能性のあるものはだいたいは分かるようにはなっていま すが、パッチの正確な中身は表示されません。このため、(パッチ・ ビューアーを使って)実際にパッチを調べて、中身の検証を行わなけれ ばなりません。

DLL のバージョン情報は Visual LANSA IDE で次のように設定されます。

🔄 LANSA の設	定	😌 💆 👿 🔽 , 🖂	X
	コンパ゜イル		ОК(<u>О</u>)
一般			キャンセル(<u>C</u>)
	製品名	LANSA	適用
1	製品バージョン	1.2.3.4	IJŁIJŀ
y-2 I7*19	ファイル ハ゛ーシ゛ョン	2.3.4.5	全てルット
	著作権	著作権	
- 3 11 3 /3	商標	商標	エデ、イターのリセット
7 9 12	אנאב	コメント	
WAM			

DLL 内でこの情報が生成されると、Windows 7 では [詳細] と表示されて いるDLL のプロパティ・タブ・シートに表示されます。

i_sam003.dllຫຼ	プロパティ	x
全般 デジタル署名	セキュリティ 詳細 以前のバージョン	
プロパティ 説明	値	
ファイルの説明 種類 ファイル バージョン 製品名 製品バージョン	L_SAM003 アプリケーション拡張 2.3.4.5 LANSA 1.2.3.4	
<u>著作権</u> サイズ 更新日時 言語 元のファイル名	著作権 18.2 KB 2013/06/24 23:27 英語 (米国) L_SAM003.DLL	
プロパティや個人情	朝 <u>を削除</u> OK キャンセル 適用(A))

[コメント] 欄だけはこのタブシートに表示されません。ここにある標準

のプロパティ以外のプロパティを表示するには、特別なソフトウェアが 必要となります。このようなソフトウェアを使用すると、例えばDLL プ ロパティに [拡張バージョン情報] というタブが追加され、DLL プロパ ティの全てが表示されます。特に、表示されなかった [コメント] のプロ パティが表示されます。また LANSA が DLL 内にコンパイルしたカスタ ム・プロパティも表示されるので、確認しやすくなります。

Security 2.3.4.5 SAM003	Details E Value: Comment	d. Version info
2.3.4.5 SAM003 < Copyright	Value: Comment	* * 4
SAM003	Value: Comment	4
Copyright	Value: Comment	
Copyright	Value: Comment	*
mp	Value: Comment	*
mp ^	Comment	*
e dNumber dTimeStamp panyName /ersion alCopyright JuctVersion ge arks sme e • • al donation Make	a Plimus donation	E-Mail us
	Number TimeStamp panyName ersion I/Copyright uctVersion ge arks me al donation Make	Number TimeStamp panyName ersion ICopyright uctVersion je arks me al donation Make a Plimus donation

詳細については、『Visual LANSA ユーザーガイド』の「コンパイルオプ ション」を参照してください。

用語集

配布ツールでは、以下の用語が使用されます。

- **ActiveX** 外 ActiveX 外部コンポーネントは、サードパーティより提供
- 部コンポー されるActiveX コントロールです。 Visual LANSA ではす
- ネント べての標準 ActiveX インターフェースをサポートしています。

LANSA 開発環境内で外部の ActiveX コントロールを使用 するには、対応する LANSA ActiveX コンポーネントを作 成します。ActiveX コントロールに関連付けられた外部プ ログラム情報が、このActiveX オブジェクト内で特定され ます。

これで、その他の Visual LANSA コンポーネントとほぼ同様に、ActiveX コントロールを Visual LANSA 内で使用できます。

詳細については、『Visual LANSA 開発者ガイド』の 「ActiveX コントロール」を参照してください。

- ActiveX LANSAコンポーネントは、「ラッピング」してActiveXコ ラッピン ントロールとして他のベンダーで使用できます。
- グ・コン LANSAコンポーネントをラッピングするには、LANSAコ
- ポーネント ンポーネントを登録し、ActiveXを使用する環境に、サ ポートするsession.cfgファイルを作成する必要がありま す。
 - 詳細については、『Visual LANSA 開発者ガイド』の 「ActiveX コントロール」を参照してください。
- アプリケー 配布ツールの文脈では「アプリケーション」に2つの意味 ション があります。
 - 1つめは、LANSAで開発した製品ごとに境界線を引くもの で、アプリケーションを構成するすべての要素を網羅しま す。これがLANSA開発アプリケーションです。 ただし、配布ツールでは、アプリケーションとはパッケー ジの集まりを指します。複数のパッケージを、配布ツール のアプリケーションという「傘」の下で結びつけることが できます。ダウンロードで配信するのはアプリケーション

で、パッケージではありません。

配布ツールで複数のアプリケーションを定義して、 LANSA開発アプリケーションを配布できます。例えば、 クライアント・サーバー・アプリケーションを配布する必 要がある場合、通常、配布ツール・アプリケーションを定 義してクライアント側コンポーネントを配布し、別の配布 ツール・アプリケーションを定義してサーバー側コンポー ネントを配布します。

アプリケー JIT配布の場合、アプリケーション・サーバーは、出荷さ

- ション・ れるすべての配布パッケージのリポジトリになり、クライ サーバー アント(または導入先) PCからの要求を受信するアクティ ブなリスナーを保持します。 アプリケーションをクライアントPCで起動すると、クラ イアントPCはアプリケーション・サーバーと通信し、ダ ウンロードする更新があるかどうかを判断します。アプリ ケーションを開始する前に、すべての更新がクライアント PCで自動的に適用されます。
- 構築者 当ガイドに記載されている配布ツールのオプションや設定 を選択する担当者です。
- ベース言語 翻訳パッケージを基に、LANSAオブジェクトやパラメー タ・ファイルの翻訳を実行する場合に基になる翻訳言語で す。 パッケージをインストールする区画に言語を定義する必要 があります。
- クライアン クライアントPCは、クライアント-サーバー・インストー トPC ルの不可欠な要素です。通常、クライアントPCはサー バーのデータベース (ローカルではない) にアクセスし、 一部の操作の実行はサーバーに依存します。

コミュニ ホスト側ルート・テーブル (lroute.dat) とリスナー・テーブ ケーショ ル (listen.dat) です。これらのファイルは、LANSAコミュ ン・ファイ ニケーション管理機能インターフェースを使用して管理さ ル れます。

企業アプリ ケーション企業の環境では、ユーザーは自身のPCに対して管理者の権 限がないものと想定されています。データベース付属のア のインス プリケーションをインストールする時にデータベースを

トール TRUE (つまり SUDB=1) に設定して"全ユーザー"のインス トールを実行すると、共有データベースの設定にはコン ピュータの管理者権限が必要となります。

> こうすることで、エンド・ユーザーは、その後の更新プロ グラムをインストールできます。この更新プログラムは "ユーザー別"インストールを使用したデータベース修正を 行いません。

> エンドユーザーがデータベース設定できるようにする必要 がある場合、アプリケーション配布の設定を修正して、 データベース設定を可能にできます。もしくは、 msiexec.exe を使ってインストールをコマンド・ラインか ら実行し、パラメータ設定でデータベース設定を TRUE (つまり SUDB= 1) に変更すると可能になります。 これと比較の意味で、個人アプリケーションのインストー ルも参照してください。

配布テンプ 配布ツールを使用する場合、テンプレートとはパッケージ レート 設定やオプション用に事前定義された値の導入を意味しま す。オブジェクトも配布テンプレートに含めることができ ます。 テンプレートを使用すれば、パッケージを作成するときに 設定するオプションの数を減らすことができます。目的別

にテンプレートを生成することや、パッケージをテンプレートとして保存することができます。

配布ツールは、あらかじめ定義されたテンプレートを数多 く備えています。

- 開発者 配布するVisual LANSAアプリケーションを開発した担当 者です。この開発者がパッケージの構築者となる場合もあ ります。
- **DLL**アッ DLL アップグレートは現在はサポートされません。
- プグレード この代替として、パッケージ・アップグレードがありま す。
- エンドユー Visual LANSA アプリケーションのユーザーです。

ザー

グローバル 一意識別子 グローバル一意識別子は一般的に GUID と呼ばれ、ソフト 一意識別子 ウェアの識別に使用される一意の参照番号です。 (GUID)

GUID は通常 128 ビットの値で格納され、一般的には 32 桁の 16 進数として表示されます。この番号は例えば、5667BA66-1CC2-442E-8B80-03288BB8FDC0 のようにハイフンで区切られます。

- 導入者 エンド・ユーザーのPCにパッケージを導入する担当者で す。エンド・ユーザーが導入者となる場合もあります。
- JIT (Just in JITパッケージ・インストールでは、ユーザーがアプリ
- Time) イン ケーションにアクセスする前に、パッケージ開発アプリ
- ストール ケーションの最新の変更がインストールされます。アプリ ケーション・パッケージでは適切な依存関係が定義されて います。例えば、パッケージBの前にパッケージAをイン ストールしてから、両方のパッケージがネットワーク・ サーバーにインストールされる場合などです。ユーザーが アプリケーションを開始すると、アプリケーションの起動 前にアップグレードをインストールする必要があるかどう かの確認が行われます。クライアント・システムに以前に インストールされていないパッケージがある場合、その パッケージはアプリケーションの起動前にあらかじめ定義 された依存関係に従って自動的にインストールされます。 アプリケーションの使用時に変更のみをインストールする 場合、以下のメリットがあります。
 - セットアップ時間が節約されます。
 - クライアント・システムでアプリケーションのバー ジョンの一貫性が保たれます。
- MSIファ MSIファイルは、Windows により使用されるインストー イル ラーのパッケージ・ファイル形式です。MSIファイルはア プリケーションのインストール、保存、および削除に使用 されます。 バージョンが正常に生成されると、MSIファイルが作成さ れます。これには、サーバー・インストール、クライアン

ト・インストール、ネットワーク・クライアントやその他 のインストールの種類に関わらず、アプリケーションのイ ンストールに必要となるオブジェクトが全て含まれます。

- msiexec.exe Msiexec.exe は Windows のインストーラーです。 これを使用して、MSI ファイルによりインストールされたコマンド・ラインでアプリケーションの構成、修正やインストールができます。
- MSP ファ イル Microsoft の Window インストーラーを使用してインストー ルされたアプリケーションをアップグレートするには、更 新されたインストール・パッケージを再インストールす る、もしくはアプリケーションに Windows インストーラー のパッチ (MSP ファイル)を適用します。

MSP ファイルにはアプリケーションの更新が含まれてお り、このパッチを受け取ることができるアプリケーション のバージョンが記述されています。

更新された製品の完全なインストール・パッケージより も、アプリケーション用にWindows インストーラーのパッ チを配布する方が、利点がいくつかあります。パッチには ファイル全部、もしくはファイルの更新が必要な部分のみ のいずれかを含むことができます。そのため、ユーザーは 製品全部のインストール・パッケージよりもずっと小さい サイズの更新パッチをダウンロードできます。データベー スの変更を入れることはお勧めしません。なぜなら、管理 が複雑な上、データベースが簡単に破損してしまう危険が あるからです。

ネットワー ネットワーク・クライアント・アプリケーションでは、

ク・クライ LANSAの実行可能オブジェクトを含めずにパッケージを
アント・ア 作成することができます。通常、ネットワーク・クライア
プリケー ント・アプリケーション用パッケージには、サーバーへの
ショートカットが入っており、相手先のプラットフォーム
が示されています。実行可能オブジェクトやランタイム環
境はセントラル・サーバーにインストールし、アプリケー
ションではこれらを共有することができるからです。
サーバー側コンポーネント (LANSAランタイム環境、コ

ミュニケーション、ファンクションとコンポーネントのコ ンパイル済みDLL) をインストールするには個別のアプリ ケーションを定義する必要があります。

- パッケージ どのLANSA開発アプリケーションをどのようにユーザー のPCに配布するかを定義します。 パッケージとは、バージョンやパッチを意味する一般的な 用語です。
- パッケー JIT (Just-In-Time) インストールは1種類しか存在しませ
- ジ・アップ ん。ですから、このパッケージ・アップグレートを別に区 グレード 別する必要はありません。詳しくは、JIT インストールを 参照してください。
- パッチ Winsowsインストーラーによりインストールされたソフト ウェア製品に、複数の変更を配布する際に、パッチが使用 されます。ソフトウェア製品のアップグレートは、新しい バージョン (MSI ファイル)のインストール、またはパッ チ (MSP ファイル)の適用により可能です。 通常、パッチは修正されコンパイルされたオブジェクトや ショートカット、および実行可能ファイルの適用に使用さ れます。データベースの変更を配布することはお勧めしま

せん。なぜなら、管理が複雑な上、データベースが簡単に 破損してしまう危険があるからです。

パッチは、それぞれのパッチ番号により識別されます。 パッチ番号は、元になるバージョンやパッチと直接関連付 けられています。例えば、パッチ番号1.0.0.1 はバージョン 1.0.0 に対する最初のパッチになります。

個人アプリ データベース付きの個人アプリケーションの場合、アプリケーション ケーションのエンドユーザーはアプリケーション用のデーのインス タベース設定をすることができます。このため、パッケージはデータベースの適切なオプションで生成されている必要があります。もしくは msiexec.exe をコマンド・ラインで実行してインストールし、データベース設定をTRUE に変更するパラメータ (SUDB=1)を設定することもできます。これと比較の意味で、企業アプリケーションのインストールも参照してください。

プライマ メイン・アプリケーションのインストールは一般的にプラ リ・インス イマリ インストールと呼ばれ、ネットワーク・クライア トール ントのインストールと区別されます。ネットワーク・イン ストールは、ほとんどのプライマリ・インストールで自動 的に作成された小さな MSI ファイルで、プライマリ・イ ンストールにより配布されます。

導入先 PC Visual LANSAアプリケーションの配布先となる PCです。

テンプレー 「配布テンプレート」を参照してください。 ト

翻訳する言 翻訳パッケージで、LANSAオブジェクトやパラメータ・ 語 ファイルの翻訳を実行する場合に基となる翻訳言語です。 パッケージをインストールする区画に言語を定義する必要 があります。

- 翻訳パッ 翻訳パッケージには、「設定」で説明されている通り、
- ケージ [翻訳リストを含める] または [配布パラメーター ファイル を翻訳する] のいずれか(あるいは両方)が含まれます。 翻訳パッケージをインストールすると、以下の2つのオプ ションを含むデスクトップ・フォルダーが作成されます。
 - インストール
 - アプリケーションの翻訳

アプリケーションの翻訳のオプションでは、LANSAで提供される[オブジェクト詳細の翻訳] フォームが起動されます。

テンプレートXTRANSLTでは、翻訳パッケージの雛形が 提供されます。

X_START X_START.SAVファイルは、X_RUN.EXEコマンドとともに 使用されるオーバーライド値を格納します。 通常、パッケージをインストールすると、アプリケーショ

通常、ハックーシをインストールすると、アブリクーショ ンを起動するデスクトップ・アイコンが作成されます。こ のアイコンにはLANSA X_RUNコマンドが関連付けられて います。X_STARTファイルをX_RUNと一緒に使用する と、アプリケーションの起動前に値のプロンプトが表示さ れ、プロンプトのダイアログで使用される便利なデフォル ト値が提供されます。このため、アプリケーションを開始 する際の起動方法と起動内容を柔軟に選択できます。

バージョン バージョンとは、ソフトウェア製品のフル・インストール のことです。バージョンはアプリケーションに属します。 バージョンは、バージョン番号により識別されます。バー ジョン番号は任意で番号を振ることができますが、後続の バージョンはその前のバージョン番号よりも大きくなけれ ばいけません。